令和４年度　年次報告書

目　　次

Ⅰ．子ども学科　1 ～ 4

Ⅱ-(1)．キャリア育成学科オフィスワークコース　5 ～ 8

Ⅱ-(2)．キャリア育成学科介護福祉コース　9 ～ 11

Ⅲ．仏教教育研究センター　12 ～ 16

Ⅳ．育児文化研究センター　17 ～ 23

Ⅴ．キャリア研究センター　24 ～ 27

Ⅵ．介護福祉研究センター　28 ～ 30

Ⅶ．自己点検・評価委員会　31 ～ 39

Ⅷ．学務委員会　40 ～ 43

Ⅸ．入試広報委員会　44 ～ 62

Ⅹ．キャリア支援委員会　63 ～ 68

ＸⅠ．図書委員会　69 ～ 93

ＸⅡ．学生支援委員会　94 ～ 95

ＸⅢ．仏教行事委員会　96 ～ 98

ⅩⅣ．ネットワーク委員会 99 ～100

ⅩⅤ．外国人留学生支援委員会 101 ～105

ⅩⅥ．研究倫理委員会 106 ～108

ⅩⅦ．ボランティア活動支援室運営委員会 109 ～115

ⅩⅧ．ＬＭＳ委員会 116 ～117

ⅩⅨ．事務局 118 ～129

Ⅰ

子ども学科

年次報告書

学科長　福西　朋子

１．昨年までの課題

令和３年度子ども学科年次報告にて挙げた課題は以下である。

１）子ども学科中長期計画の遂行

・「教育」において掲げた３つの取組みを進めるため、「学科カリキュラム委員会」を立ち上げ、令和４年度計画が実施できるよう委員会をコアとして進める。

・「研究」において教員の専門性を活かした研究及び学科教員の共同研究の充実に資するための科学研究費獲得に向けたセミナーの実施を計画する。

２）学生募集のための方策（継続）

これまでに引き続き、本学科の教育の特色等を明確にした上での、他大学・短大との差別化をはかったアピール内容や方法の工夫を行う。

３）学生指導や支援に関すること（継続）

学生支援委員会及び学生相談室との連携による学生支援の充実を行う。

４）学科教員募集

令和４年度退職教員（見込み）による令和５年度採用の教員募集を行う予定。

２．本年度（令和４年度）改善されたこと

１項に挙げた課題に対する改善

１）子ども学科中長期計画の遂行

「教育」においては、既存の「夢と笑いの学びの図」を見直し、改定を行った。令和５年度カリキュラムが新しく実施されること、目標に「学科 DP（学科別学習成果）の見直し」「キャリアイメージの明確化」を掲げたことから「学科カリキュラム委員会」を設置し検討、作成した。今年度は、学科の教育目的や目標に基づくカリキュラム実施であることの明示と、各期の学修とキャリアの目標の整理、各科目群の学修イメージを新規に加えた図とした。学習成果実態・学科 DP との関連や教育内容改善については、改定した学びの図を踏まえての今後の検討課題であることを確認した。

「特色ある保育養成教育の構築」については、令和４年度到達目標は達成できた。令和５年度から特色ある科目として３科目創設した。新科目創設にあたっては、学科 FD 研修「高田短期大学子ども学科の特色ある保育者養成教育について」を行い、教員間で新設科目に期待すること含め学科の教育活動に対し意見を交わし今後を展望した。

なお「研究」において学科教員の共同研究の充実を掲げたが、令和４年度は特にアクションを起こせなかった。その他に「社会連携・社会貢献」で掲げた卒業生との学び合いの機会の促進を目標とした取組みの内容と方法の検討についても次年度に持ち越しとなった。

「その他」として、教員の業務見直し・改善を目標と掲げた。令和４年度は学科共有フォルダに課題提案シートをアップし随時書き込みできる体制づくりと年度末の協議会で議題に挙げて意見を交わす機会を創出した。

２）学生募集のための方策

学科入試委員から、学科のアピールや広報方法に関するアイデア等を教員協議

会で聴取し、入試委員会での提案材料ともした。また、授業の様子の発信が他大学において盛んであることもあり、学科教員として発信できる材料（写真や動画）の提供を学科入試委員が要望した。

３）学生指導や支援に関すること

学生支援委員会が設置され、新年度当初は主に高校からの情報提供を受けた学生中心にケース会議実施により、他部署からの支援内容を共有できた。しかしながら本人が望む支援につなげられているか、大学や学科の支援の方向性はどうかということはケースの振り返りを行いながらの継続課題と考える。

また、履修指導体制や方法については、学生自身の単位取得に対する自律した態度を尊重し行っているが、令和３年度生は、免許・資格の未取得及び卒業できない学生が例年よりも多かった。学生の自律を求めながらもこの結果をどのように捉えるのかは次年度の検討課題と考える。

４）学科教員募集

令和５年度の新規採用教員２名を人事委員会立ち上げて行った。「保育内容-言葉」等担当として１名、「保育内容-環境」等担当として１名の採用に至った。しかしながら、令和５年１月に「保育内容-環境」で採用予定であった者が内定辞退となり、結果的に専任教員の新規採用は１名であった。

３．新たな課題

学科中長期計画に沿った取組みが計画的、意識的に遂行できる体制づくりが必要である。特に掲げた目標に対するプランは前年度の課題等を踏まえ検討し効果ある取組みを行い、いわゆるPDCAサイクルにより積み重ねていきたい。

学生募集については、保育者志望を増やす、受験対象者を広げる、との視点での方策が必要である。入試広報課のみならず学科としてもいかに保育の魅力、保育職のやりがいの発信をするか、受験対象として社会人学生を見据え、ニーズに応じた受入れ体制の整備などが考えられる。また令和５年度生として委託訓練生が入学する。委託条件が種々あるなかでの指導・支援が求められるので随時、教員間でも共有し、今後のさらなる受入れの可能性について考えていきたい。その他、特色ある教育として「自然保育」が科目創設と資格取得を掲げて次年度からスタートする。いかにこの教育活動を構築するか、学生募集に繋がるかにも注力必要である。

学生支援については、学生が変われば支援内容・方法は変わるので次年度もケースごとの対応が必要である。最近の傾向としては、発達支援、学習支援の必要性とそれに伴う進路選択にかかわる支援、入学前の進路選択と入学後のミスマッチによる学習意欲低下学生への対応が比較的多い。今後も関連部署と連携しながら支援ケースを積み重ねることが必要である。

令和５年度は新型コロナウイルス感染症が５類になることにより学生生活が変化する場面が多々起こると思われる。その変化への適応にあたり心身に影響を受ける学生も現れることが予測されるので注視が必要と考える。

昨年同様に、これらの学科課題に取り組んでいく専任教員数の増が必要である。令和５年度採用が叶わなかった分野での採用は必須である。それとともに専任教員の校

務に係る比重を抑え、教育・研究へ注ぐ時間の捻出も昨年に引き続き大いなる課題といえる。

４．次年度（令和４年度）取り組むべきこと

① 子ども学科中長期計画の遂行（継続）

目標に基づくプランの検討・計画と遂行できる体制づくりと実施。

② 学生募集のための方策（継続）

保育の魅力・保育者のやりがいの発信と受験対象を広げるための方策の検討

③ 学生指導や支援に関すること（継続）

学生支援委員会との連携による学生支援の充実。

④ 学科教員募集

令和５年度採用予定であった専任教員確保による令和６年度採用の教員募集。

Ⅱ-(1)

キャリア育成学科　オフィスワークコース

年次報告書

学科長兼コース長　野呂　健一

Ⅰ　昨年度からの課題

(1) 入学者数確保（学科）

学科の目標として 100 名を超える入学者確保を目指す。

(2) カリキュラム改訂の推進

高校生にとってより魅力的な教育内容となるようカリキュラムを編成する。

(3) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

ビジネス、情報分野の検定試験を中心に、合格者増に向けた取り組みを継続する。

(4) 就職への意識を高めるための取り組み

就職活動に踏み出せない学生に対し、関係部署と連携し、きめ細かい支援を行う。

Ⅱ　本年度改善されたこと

昨年度末にあげた、令和 4 年度にキャリア育成学科、及び、オフィスワークコースとして取り組むべき課題についての取り組みは、以下のとおりである。

(1) 入学者数確保

キャリア育成学科で 100 名以上の入学者確保に向け、特別授業の見直しを行い高校に向け PR を行ったほか、新カリキュラムについてもオープンキャンパスや高校訪問等で周知を図った。また、入試広報委員会の高校訪問と別に、皇學館高校と飯南高校には学科教員が直接訪問した。オフィスワークコースの入学予定者は 57 名と定員に満たなかったが、介護福祉コースは、コロナ禍で留学生の出願が大幅に減少する中、高校生の入学予定者が 20 名を超えるなど、合わせて 34 名となり、次年度以降に希望が感じられる。

(2) カリキュラム改訂の推進

令和 3 年度から引き続き、カリキュラム改訂プロジェクト会議において、科目の新設及び廃止、新たに導入する検定・資格の検討を行い、8 月学科会議において新カリキュラムを決定した。改訂の主な内容は以下のとおりである。

①地域活性化のための科目の新設

地域活性化の方法論を学ぶ科目（「地域マネジメント論」）とチームで協力してプロジェクトに取り組む科目（「チームプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」）の新設。

②実践的な資格取得を目指す科目の新設

カラーコーディネーターや文書デザイン検定合格を支援する「広告デザイン演習」、ホスピタルコンシェルジュ検定合格を支援する「医療接遇演習」、リテールマーケティング（販売士）取得を支援する「リテールマーケティング」の 3 科目を新設。

③公務員試験や企業の筆記試験対策

基礎学力向上や一般常識の強化を図る科目として、1 年前後期に「キャリアベーシックⅠ・Ⅱ」を新設。

そのほか、ビジネス現場で不可欠な法意識を身につける「法学（民法・商法・会社法）」、職場での人間関係についてケースを基に議論を行う「職場の人間関係」、従来の情報系の 2 科目を統合した「情報・ネットワーク活用論」の 3 科目を新設した。

新設科目、廃止科目の一覧は次表のとおりである。

新設科目（13 科目）	廃止科目（13 科目）
キャリアガイダンスⅡ	ビジネス実践
キャリアベーシックⅠ	ボランティア実践Ⅰ
キャリアベーシックⅡ	ボランティア実践Ⅱ
地域実践	ケース・メソッド
チームプロジェクト演習Ⅰ	オフィス英語Ⅰ
チームプロジェクト演習Ⅱ	オフィス英語Ⅱ
職場の人間関係	地域産業論
法学（民法・商法・会社法）	サービス実務総論
地域マネジメント論	マーケティング論
リテールマーケティング論	流通論
情報・ネットワーク活用論	情報処理論
広告デザイン演習	ネットワーク活用
医療接遇演習	オフィスコンテンツ制作

また、8 科目の名称変更や、キャリア育成学科の卒業必須単位数を現行の 70 単位から 72 単位に引き上げること等を決定した。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

新入生に対して資格取得への意識付けを行うため、年度当初のゼミナールにおいて、スキルアワード制度について周知するとともに、資格取得計画を立てさせた。

秘書検定、サービス接遇検定、ワープロ、表計算、医療事務等の資格については、授業内で演習を繰り返すなど支援を行い、簿記については、6 月、11 月、2 月の検定前にそれぞれ対策講座を実施した。

今年度 2 年生は昨年度年に比べ資格取得件数が少なく、2 年間の一人当たり合格件数も過去 5 年の中で 2 番目に少なかった。ここ数年合格者のいなかった医療事務管理士認定試験に 2 名合格したのが明るい材料である。1 年生についても、さらに資格取得件数が少なくなっており、特に秘書検定、サービス接遇検定については合格者のみならず受験者自体が少なかった。

(3) 就職への意識を高めるための取り組み

就職活動に踏み出せない学生について、ゼミ担当教員とキャリア支援センターのスタッフが情報を共有し、きめ細かい支援を心がけた。今年度は、早まりつつある就職活動に備えるためキャリア支援センターによる面談の時期を例年より 1 か月ほど早めたほか、例年 3 月に行っていた模擬面接を 2 月初めの補講期間に行った。

就職に対する保護者の意識を高めるため保護者懇談会への参加を促し、今年度は 21 名の参加があった（参加率 35%）。当日配布する資料を見直し、就職活動の状況についてイメージしてもらえる内容とした。

新カリキュラムでは、就職意識をさらに高めるため就職講座や業界研究セミナー等を 1 つの科目とし、新入生全員が履修するように指導する。また、筆記試験で求められる基礎学力や一般常識を身につける科目も導入した。

Ⅲ　新たな課題

令和４年度に策定した中期目標に掲げた以下の目標を着実に遂行していくことが来年度以降の課題である。

(1) 新カリキュラムの着実な遂行

今年度改訂したカリキュラムを着実に遂行するとともに、新カリキュラムの概要やねらい等を改めて周知する。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

企業や医療機関等の事務職として求められるスキルを高めるため、各種検定の受験者、合格者を増やす。

(3) 就職活動への意識向上

入学当初から就職活動に対する意識を高める。特に、前向きになれない学生についてきめ細かな支援を継続する。

(4)　コース教員の研究力向上

研究活動推進のため教員間の協力体制を整備する。

(5)　授業と連動した地域貢献の推進

地域貢献を行う授業科目についてコース教員全員で支援する体制を築く。

Ⅳ　次年度取り組むべきこと

(1)　新カリキュラムの着実な遂行

新規科目の授業担当者と連携しながら着実な遂行を図る。就職講座を組み込んだキャリアガイダンスⅡについては、オフィスワークコースの学生の準必修科目と位置づけ就職を予定する新１年生全員に履修させる。その他の新規科目についても、履修登録時に履修を強く呼びかける。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

年度当初に各ゼミナールで１年間の取得計画を立てさせ、中間時点での点検を強化する。2 年生には、1 年次に取得できなかった資格も含め積極的にチャレンジするように意識付けを行う。非常勤講師が担当する資格取得支援科目（秘書学、医療事務等）について、学生への意識づけや授業内での支援を、学期当初に改めて要請する。

(3) 就職活動への意識向上

キャリアデザインⅡについては、従来の就職講座でのノウハウを生かしながら、コース教員全員が協力して実施する。意欲に欠ける学生や問題を抱えた学生について、キャリア支援センターや学生相談室と連携して支援を行う。

(4)　コース教員の研究力向上

コース会議や FD 等で研究活動について情報交換を行うことを検討する。

(5)　授業と連動した地域貢献の推進

チームプロジェクト演習については、新任教員が担当することもあり、授業畝伊東に関する助言を行うとともに、報告会開催等についてコース教員全員が関わる。学外でのボランティアを行う地域実践については、ボランティア支援室と連携するとともに、評価方法を明確にする必要がある。

Ⅱ-(2)

キャリア育成学科　介護福祉コース

年次報告書

コース長　中川　千代

Ⅰ．昨年までの課題

本コースはキャリア育成学科介護福祉コースとなって 10 年目となった。昨年は、コース学生全体の留学生が占める割合が 79.2%であった。留学生が大半を占める中、日本語の習得や日本文化の理解に力を注がずにはいられない状況であり、本来の介護福祉士養成教育から少し外れた形になりながらいかにして質の確保をしていくのかが課題であった。また、コロナ禍で感染対策が重要視され学生の施設実習が困難を極めた。そのような中、介護福祉士資格取得を諦める学生が 1 名出たもののほとんどの学生は介護福祉現場への就職が実現できている。ただし、介護福祉士国家試験の留学生の合格率は伸びず、ようやく非漢字圏の留学生から 1 名の合格者を出すことができた程度で留まっている。

Ⅱ．本年度改善されたこと

今年度は、日本人学生の入学者が多少増えたことによりコース学生全体で留学生が占める割合が 62.3%に下がった。1 年生は 44.8%が委託訓練生を含む日本人学生となり、少し授業中の雰囲気も落ち着きがみられた。

今年度は、三重県介護福祉士養成施設協議会が国の地域医療介護総合確保基金事業の一環として、FM 三重の生放送での介護福祉士の魅力発信を行ったり、「オンライントークで気軽に介護のお話！」という事業を行い高校生や保護者、高等学校教員等に向けて介護福祉士養成校の現状を PR した。事務局入試広報課の活動に加えこれらが日本人学生確保につながっていくと考える。

また、1 年次最後に介護福祉士資格取得を目指さない方向になった学生も退学することなくオフィスワークコースの科目を絡めてスキルアップを図れるよう履修指導を行い就職につなげることができたことは、本コースおよびキャリア育成学科の汎用性のあるカリキュラム編成にあると思われる。

そして、キャリア育成学科オフィスワークコースとともに新規教員採用に向け全国に公募を行い令和 5 年度より新規の専任教員を確保できたことは本コースを安定的に運営していくにあたり非常に心強い成果となった。

Ⅲ．新たな課題

令和 5 年度入学生は、すでに日本人学生 23 名、留学生 6 名が確保されており、現在委託訓練生も 5 名程度の見込みである。人間介護福祉学科開設以来、また介護福祉コースに変更されてからも初めての学生数であり、ゼミナール運営や介護実習先のスムーズな確保、就職先の支援など新たな課題が山積しているが、事務局や各委員会、各部署と情報共有、連絡を密にとり学生に不利益のないように進めていきたいと考える。

介護福祉士資格を取得せずに卒業した学生が就職した会社を半年ほどで辞めたことがわかり、その学生が自分で探してきた会社だっただけに残念である。ミスマッチングであったように思われる部分もあり、2 年次の就職支援はもう少し丁寧な指導が必要だと感じる。

教員 1 名が産前・産後休暇、育児休暇を取得することから、1 年間の特任講師を

招くことになる。新規採用職員とともに円滑なコース運営や学生指導、授業の進行ができるように先ずは、しっかりとした体制づくりを目指していく必要がある。令和 6 年度から 2 年間は三重県介護福祉士養成施設協議会の幹事校を本コースが担うことになっており、その体制づくりにも着手する必要がある。

留学生が新 1 年生は 6 名となることから、少数の留学生が学習についていけるような環境作りも課題である。

Ⅳ．次年度取り組むべきこと

令和３年度から始まった新カリキュラム体制下での学生が卒業を迎えたことから、その総括を行う必要がある。卒業生から声を集め、自己点検・評価委員会のアンケート調査とも連動させて検証したい。

また、今年度は定員の半数以上の日本人学生の確保ができたため引き続き入学者確保に向けてできる活動を継続したい。留学生の人数は減るが日本語能力向上と国家試験合格に向け、留学生支援室と連携しながら「日本語補習講座」や「介護福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の科目を活用し学生が自ら学べる充実した学習支援体制を構築していきたい。

令和６年度は公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が主管の日本介護福祉教育学会が東海北陸ブロック会が担当で開催される予定であることから令和５年度は実行委員会を立ち上げ本コース教員も委員として役割を担う必要がある。これらの事業は介護福祉士養成に携わる他の養成校との連携・協働することにより教育の質と学生の量を確保するために欠かせない取り組みであるため尽力していきたい。

Ⅲ

仏教教育研究センター

年次報告書

センター長　松山　智道

Ⅰ.昨年までの課題

1.運営委員会について

令和 3 年度の運営委員会はすべて Web 会議で実施され、特に問題は生じていないが、令和 4 年度では、対面の会議に戻る時期、および一部委員による Web 参加の可能性を、今後検討しなければならない。

2.各講座について

(1) 公開講座について

令和 3 年度の公開講座は、二回とも参加者が少なかったので、令和 4 年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

(2) 専門講座について

令和 3 年度の専門講座は、コロナ感染予防対策のため、運営委員会で協議して会場実施が 4 回中止となったが、令和 4 年度の実施には、Web 活用や最終の試験方法も含めて、運営委員会で再検討する必要がある。

(3) 基礎講座について

二年間、コロナ感染予防対策のため、一般受講者に対しては開講されていなかったので、令和 4 年度は、広報も含め、充実した基礎講座になるように運営委員会で検討しなければならない。

3.研究会について

ZOOM を使用した Web 活用で、愛知、京都からも参加できる状況であるが、ZOOM の無料使用は 40 分に限定されており、また研究会の当日に資料を配布すると、Web 参加の人には閲覧しにくい。

4.センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

Ⅱ.本年度改善されたこと

1.運営委員会について

令和 4 年度の運営委員会（6 回）は、すべて Web 会議で実施されたが、各委員の意見が各講座に反映された。

2.各講座について

(1) 公開講座について

令和 4 年度、会場は昨年度と同じで、高田会館ホールを使用し、第 1 回の

公開講座の出席者は28名、第2回の公開講座の出席者は31名であった。出席した方々のアンケートは二回とも概ね好評であった。

（2） 専門講座について

令和4年度、会場は高田会館ホールを使用して実施した。年11回開催の予定であったが、本山宗務院の都合（宗議会の開催）により1回の中止があったため、10回の会場実施となった。最終回は会場で試験を実施したが、その後、講座を担当していた安藤章仁氏が逝去されたため、運営委員会で話し合い、受験者には一律「良（7)」の成績を付けることになった。

（3） 基礎講座について

令和4年度は、コロナ感染拡大防止対策を取り入れながら実施した。通常通りの五日間の講座で、出席者は一般 8 名、教師検定 9 名であった。最終日に試験を行ったが、受験者は 10 名（一般 1 名、教師検定 9 名）であった。

3.研究会について

令和4年度の研究会では、令和5年3月に研究書が発刊できるように、執筆者を8名の研究員に限定し、毎回の会議内容を密にすることができた。

4.センター蔵書の整備について

令和4年度も、金信昌樹研究員に一任し、作業が進められた。

Ⅲ.新たな課題

1.運営委員会について

令和 4 年度の運営委員会はすべて Web 会議で実施され、特に問題が生じていないが、令和 5 年度では、対面の会議に戻る時期、および一部委員によるWeb参加の可能性、あるいは昨年度同様にすべてWeb会議で行うかを今後検討しなければならない。

2.各講座について

（1） 公開講座について

令和 4 年度の公開講座は、二回とも参加者が少なかったので、令和 5 年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

（2） 専門講座について

令和 4 年度の専門講座では、コロナ感染予防対策のために Web を活用したが、会場で受講した上でさらに Web 活用で再学習する受講者も少なくなかった。二回ほど撮影機材に問題が生じたので、令和5年度の専門講座では、機材の充実も含めさらなるWebの有効活用を考えたい。

（3）　基礎講座について

コロナ感染予防対策を図りながら実施したが、受講者からその対策の不備を指摘されることもあったので、令和５年度の基礎講座では、その反省を活かして安全安心の講座が開かれるように運営委員会で検討しなければならない。

3.研究会について

昨年度と同様に、ZOOM を使用した Web 活用で、愛知、京都からも参加できる状況であったが、ZOOM の無料使用は 40 分に限定されているため再接続に時間を要した。40 分以内で研究会が実施できるように、事前準備を工夫したい。

4.センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

Ⅳ.次年度に取り組むべきこと

1.運営委員会について

事前準備や Web の活用も含め、会議がスムーズに進行し、協議内容が充実するとともに、センターの活動に運営委員の意見が一層反映されるように工夫したい。

2.各講座について

（1）　公開講座について

従来は、中日新聞「人生のページ・宗教トピックス」への掲載を依頼して、県内外からの参加を呼びかけていたが、令和２年度、３年度、４年度は、コロナ感染予防対策の一環として新聞掲載を控えていた。令和５年度は、新聞掲載も含め、運営委員会で広報の充実を検討したい。

（2）　専門講座について

課題に挙げたように、Web を有効に活用しながら、講座が一層充実したものになるように運営委員会で検討したい。

（3）　基礎講座について

公開講座と同様に、一般受講者への広報活動に力を入れ、また、課題に挙げたように、今後のコロナ感染状況によっては安全安心に講座が開かれるように運営委員会で検討しなければならない。

3.研究会について

年々、Web 参加が増えているので、当日に検討する資料を事前にメールに添

付しておくことや「ドロップボックス」を活用するなど、研究会をスムーズに進行させる工夫を考えなければならない。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているので、金信研究員が作業しやすい条件や作業上の課題など、金信研究員と話し合いたい。

Ⅳ

育児文化研究センター

年次報告書

センター長　青木　信子

Ⅰ．昨年度までの課題

1．運営委員会について

今までの事業内容を今まで通り実施するという考え方ではなく、その内容や方法についてていねいに検討しつつ進めていく。また、学内運営委員会の事項書をあらかじめ運営委員に送付し、運営委員全員が提案事項を念頭に置いて学内運営委員会に臨めるようにする。そのことで、スムーズな委員会の運営につながる。

2．地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

親子の参加人数が減少している原因が、新型コロナ感染症によるものなのかあるいはおやこひろばを求める親子が減少してきているのかを探る。その結果によっては、ひろばの対象者や内容を検討し、今後、変化する子育て支援の状況の把握に努め、高等教育機関で開設するひろばの役割を模索していく必要がある。

(2)子育て講座

アンケート調査などを通してどのような講座を希望するのかも探っていき、今後は希望に沿った講座内容も考えていきたい。

(3)ひろば運営会議

会議で検討した内容が、ひろばでどのように活かされているのかを振り返り、PDCA サイクルと意識した会議としたい。

次年度以降は、気になる親子に関する話題だけでなく、ひろばの現状から今後のひろばをどのようにしていくかという広い視野で検討していきたいと考えている。

3．研究活動

(1) 定例研究会

他のセンターの定例研究会の提案発表者をどのように決定しているのかも参考にし、積極的で多くの視点からの提案になるようにしていく。

4．学生支援事業

(1)地域保育関連の学生ボランテイア活動(子育て応援隊)支援

この支援事業については担当者の負担を考慮し、ボランティア支援室が主担当となるよう継続して検討していく。

(2)三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

今後の課題については、すでにこどもの城側から次年度の開催について午前・午後に分散し、2 日の開催を希望されている。そのため、活動内容の早期決定と開催日の調整が必要となる。また活動内容については、今年度参加した保護者対象のアンケート調査結果(ものづくり、水遊び、リトミック、1 ～2 歳児対象の遊びなど)を参考に、こどもの城の自然豊かな環境を活かした親子で楽しめる活動を提供していきたい。

(3)おやこひろば保育ボランティア

ひろばに参加することに代わるボランティアの経験(例:壁面作り、教材作り等)も考える。

(4)おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

昼休みや長期休業中などに活動時間を設定することが可能かを探り、学生が主

体的にひろばに関われるようにしていきたい。

Ⅱ．本年度改善されたこと

1．運営委員会について

学内運営委員会の事項書をあらかじめ運営委員に送付し、運営委員全員が提案事項を念頭に置いて学内運営委員会に臨めるようにした。

2．地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

9月が育文室のエアコンの工事であったため、おやこひろばは閉鎖とした。そこで、手遊びやパネルシアターなどの様子を撮影し、動画としていつでも見られるように配信した。いつでも何度でも視聴できるというメリットもあり、閲覧数は1月になっても増加傾向であった。幼少期には実際に触れ合ったり体験したりすることが重要ではあるが、参加したくてもできない状況の親子にとっては動画配信も一つの手段と言えるのかもしれない。

戸外でのひろばは、天候に左右されるというデメリットはあるものの、参加親子には好評であり学内の環境を活かすという意味でも、今年度は開催回数を 5 回に増やした。

コロナ感染症対策のために朝の受付時間を限定していたが、親子の生活時間に合わせることを重視し、受付時間は設定せずに開催時間内であればいつでも参加できるようにした。そのことにより、親子が自分のペースで参加できるというゆとりが感じられるようになった。また、おやこひろばの参加者の増加にもつながった。

以前に比べると親子の参加人数が減少傾向であるため、その原因を探り今後のひろばの内容を考えるために、参加者を対象にアンケート調査を実施している。

(2)子育て講座

参加者による講座内容の希望調査の結果と研究員の日程とを調整し、計画を立てた。その結果、学外の研究員のベテランの元保育者による講座が多くを占めた。核家族の傾向にある参加親子にとって、ゆったりとした講師の雰囲気に安心感を持ったり子育てについて相談したりする機会となった。

(3)ひろば運営会議

会議で検討した内容がひろばでどのように活かされており、その結果どのように変化したのかという PDCA サイクルを意識した会議となりつつある。

参加している運営委員の意識により、現状の問題をどのように改善していくべきかという視点での討論は活発になってきた。

(4) 主催事業　（子ども学科との共催）

「身近な自然を活かした保育実践から　～環境・人とつながって育つ～」

講　　師　　松本　信吾（岐阜聖徳学園大学教授）
日　　時　　令和４年５月２８日（土）　１４：００～１６：００
場　　所　　高田短期大学　カフェテリアおよび森のひろば
参加対象者　　保育関係者･学生（主催・共催側を含めて４０名程度）

昨年度までの課題として、今までの講演会形式での開催は感染対策上難しいと考え、少人数での開催を計画した。

昨年度１月に実施だった主催事業は、コロナ禍のため今年度５月に実施をした。子ども学科との共催事業として、子ども学科の教員、学生と共に自然保育について学ぶ機会となった。感染対策上参加対象を限定した開催だったため、関心のある地域関係機関にも内容を視聴できるようセンターたより「いくぶん」第２７号にてQR コードを添付し広報した。

3．研究活動

学外研究員による発表があり、学内研究員にとり良い意見交換の場となった。

4．学生支援事業

(1)地域保育関連の学生ボランテイア活動(子育て応援隊)支援

コロナウイルス感染症は相変わらず流行しているが、本年度は中止された活動は無く、申し込んだボランティアに全員参加することができた。

事前指導は、募集段階から日程を周知し対面でおこなうことができた。

(2)三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

コロナ禍ではあったが感染対策をしつつこどもの城の協力も得ながら学生の学びの機会は例年通り確保することができた。

(3)おやこひろば保育ボランティア

自ら絵本の読み聞かせや手作り教材を披露したいと申し出る学生が一部見られた。

(4)おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

5 月 23 日　昼休みに第 1 回の集まりをし、1 年生と 2 年生の初顔合わせをおこなった。その時の議題として以下の点を確認した。

・定例活動日を決める（学生の希望を出し合う）
・本年度の活動内容について（ひろばの年間計画、学生がしたいこと）
・スタッフによるひろばの説明
・ファミリーデーへの参加について

本年度は、7/2（土）ファミリーデー、3/6（月）おやこひろばの主担当としてたんたんクラブメンバーが主になって保育に入ることができた。また、両日を実施するにあたり、学生自らが連絡を取り合って準備する姿があり少しではあるが、主体性がでてきたことが伺えた。

Ⅲ．新たな課題

1．運営委員会について

今までの事業内容を今まで通り実施するという考え方ではなく、その内容や方法についてていねいに検討しつつ進めていきたいと考えている。しかし、新たな切り口や発想ということに難しさを感じる。

2．地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

次年度より毎週月曜日に加えて第 1・第 3 木曜日も実施をする。木曜日に関して

は、「○○の日」などテーマに沿って開催する。初めての試みであるため、どのくらいの保護者が参加し、どのようなことが求められるのかということを予想しながら、1年間を通して試行錯誤を繰り返していく必要がある。

(2)子育て講座

希望する講座内容のアンケートを取ってはいるが、講座の参加者に聞いているため内容が偏ることが考えられる。

日頃のおやこひろばでの内容との違いを出し、講座ならではの内容となるように講師の依頼をしていく必要がある。

(3)ひろば運営会議

ひろばの内容を検討していくならば、ひろばの運営や方法及び課題だけではなく、ひろばスタッフの意識や考え方も引き出しながら会議を進めていく必要がある。

運営会議開催日時が平常授業時間で行われているため、授業が重なっている運営委員は参加できず、議事内容が共有しにくい。

3．研究活動

(1)定例研究会

新規の研究員の入会が少なく、また長年在籍していた学外研究員の退会等もあり、研究会への参加者が固定化されてきている。

(2)グループ研究会

一部の研究員の参加になっているため、幅広い研究員の参加ができるように支援していくことが必要である。

4．学生支援事業

(1)地域保育関連の学生ボランテイア活動(子育て応援隊)支援

子育て応援隊の支援事業は、平成24年度からボランティア支援センターと連携を取りながらおこなってきた経緯がある。今後は、担当者の負担を考慮しボランティア支援室が主担当となることが決定している。育児文化センター（子ども学科）としては、地域とのつながり（例：夏祭り、運動会、生活発表会等への参加）を大切にしつつボランティアに送りだしてきた。このことを引き継いでいくことが必要である。

(2)三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

教員主体となった学生の学びが多いため、学生が主体となった企画・運営等を含めた学びの場を提供していけるようにすることが必要か。

(3)おやこひろば保育ボランティア

一部ではあるが、ボランティアをこなすためという受け身の姿勢が見られる。また、おやこひろばに入るにあたっての注意事項や持ち物・服装を確認していない学生がいる。

(4)おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

・活動日の設定

サークル活動は、学生の時間割の都合上定期的な活動日の設定が困難であり、学生が主体となって活動できるよう活動日の設定を工夫することが必要である。

・学生主体の活動
活動内容を決める場合、まずは学生の考えを聞くようにした。出た意見をまとめ発展させていく主体性が必要である。

Ⅳ．次年度に取り組むべきこと

1．運営委員会について
運営委員のメンバーが変わるため、今までとはまた違った視点からの意見等を受け、さらに育児文化研究センターの活性化を図りたい。
2．地域開放事業
(1) おやこひろば「たかたん」
ひろば参加者を対象にひろば参加に対する意識やニーズについてのアンケート調査を引き続き実施する。
新たに始める木曜のひろばについて、参加者の様子を探りながら課題等がみつかれば検討し改善しながら進める。
今まで就園児は受け入れていなかったが、8 月の夏休み期間のみ就園児も参加対象児とする。
学生の参加意識を高める。さらに、能動的ではなく自主的に自分たちで取り組めるように意識づけをしていく。
(2)子育て講座
子育て講座内容のアンケート調査の対象者を講座参加者のみだけでなく、ひろば参加者も対象者とし、幅広くニーズの調査を行う（上記のおやこひろばのアンケート内容に含める）。
様々な講座内容を実施できるように、いろいろな分野の研究員を増やす。
(3)ひろば運営会議
会議を欠席した運営委員には、後日議事録を配付する。
ひろばの現状にとどまらず、今後のひろばをどのようにしていくかという広い視野でスタッフの意識や目的を高める会議にしたい。
3．研究活動
学外研究員の拡大に向けて勧誘する範囲を検討する
(1) 定例研究会
他のセンターの定例研究会の提案発表者をどのように決定しているのかも参考にし、積極的で多くの視点からの提案になるようにしていく。
4．学生支援事業
(1)地域保育関連の学生ボランテイア活動(子育て応援隊)支援
ボランティア支援室への引継ぎをしっかりと行う。
(2)三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援
学生自身が見通しをもって活動していけるように早い時期からこどもの城イベントについて周知してくようにしていきたい。
多くの学生が参加できるように、複数のイベント日の確保や時間設定などを検討していくことが必要である。

(3)おやこひろば保育ボランティア

　おやこひろばに受け身で入るだけではなく、自主的に運営していく意識を持たせる。

　ボランティアに入る学生の人数制限を緩和する。

　授業によりおやこひろばのボランティアに入る時間が取りにくい学生も予想される。ひろばに参加することに代わるボランティアの経験（例：壁面作り、教材作り等）の機会を作る。そのためには、スタッフが早めに製作物の具体的なイメージや締切日等を示すことが必要である。

(4)おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

・年度当初からリーダーを中心に学生が定例会の日程や活動内容の調整等をする。
・ひろばのスタッフに自ら質問する機会を増やす。
・スタッフからもサークルで経験して欲しい内容の提示や指導に入ってもらう。

V

キャリア研究センター

年次報告書

センター長　中畑　裕之

１.昨年度までの課題

昨年度取り組むべき課題として挙げられたのは、中期目標に対応して以下の項目となっている。

（１）地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

地域のニーズに対応し地域課題の解決に資することができるよう、機能、体制の改善・充実を図る。

（２）研究活動の活性化、研究成果の普及

研究員間の情報交換・意見交換が活発となる環境を整え、研究活動の活性化を進める。また、研究成果、研究員の知見を普及するとともに、地域に還元していく。

（３）地域を支える人材の育成

卒業生、進路先事業者等へのリカレント教育を行うことにより、社会情勢や環境変化に対応できる人材を育成する。地域課題をテーマとした PBL を行うフィールドを提供するなど、学生の自律的で実践的な学びに資する。

２.本年度改善されたこと

課題として挙げられた事項につき、次のような取組みを行った。

（１）地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

一身田商工振興会との連携事業に令和 3 年度より新たに川喜田ゼミが関わり、高田会館あかりや、和菓子店春乃舎とイセイモの皮を使用した和菓子の企画開発を開始した。5 月には「サンジノイセイモ」として商品化され、販売も良好である。

従来一身田寺商工振興会との連携事業は中畑ゼミ（今年度は一身田寺内町マップ作成・配布）が中心に行ってきたが、川喜田ゼミが関わることで２つの案件に対応でき、活動が広がった。

9 月に有限会社湯元榊原館と高田短期大学の連携協定が締結され、連携先が拡充された。湯元榊原館との連携活動の一環として、同館の日帰り温泉施設「湯の庄」への来訪者アンケートの企画にキャリア研究センターとして関わった。1 月、2 月にはボランティア学生が湯の庄でアンケート調査を行った。

これまで学外での活動はほとんど一身田商工振興会との連携事業であったが、湯元榊原館が加わったことで、連携事業のバリエーションも広がったと考える。

（２）研究活動の活性化、研究成果の普及

研究活動の活性化を目的に、令和 4 年度から新たに学習会を開始した。研究員が行っている研究活動や地域貢献活動、教育活動で感じている課題などを気軽に情報交換、意見交換できる場づくりを行うものである。

9 月 5 日（月）に「一身田寺内町活性化事業の経過と困っていること」（中畑裕之センター長）、2 月 17 日（金）に「ガクチカ作成のための 2 年間の取り

組み」（岡田一範研究員）をテーマに開催し、活発な意見、情報交換が行われた。

研究成果の普及としては、研究員の研究成果等をとりまとめた紀要・年報第9号を発刊した。また、第1回研究会では、福田研究員が取り組んでいる研究テーマ災害と介護・福祉について、「介護・福祉における災害での現状と課題」と題して講演をいただいた。

（3）地域を支える人材の育成

リカレント教育の一環として就業支援セミナーを開催した。8月に「クレーム対応基礎講座」（講師：長谷川聡子研究員）、2月に「マーケティングの基礎と考え方講座」（講師：中畑裕之キャリア研究センター長）を、公開講座として行った。「マーケティングの基礎と考え方講座」は新規での開催である。

学生の実践的な学びに資するPBLの取り組みとしては、先にも上げた川喜田ゼミ学生による新しい和菓子「サンジノイセイモ」の企画開発・販売や、中畑ゼミ学生による「一身田寺内町マップ」の作成・配布などを行った。

３.新たな課題

昨年度策定した中期目標に沿って課題を設定しており、特に大きな環境変化や活動して来ての違和感はないことから、掲げている課題に継続して取り組むこととする。

（1）地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

地域のニーズに対応し地域課題の解決に資することができるよう、機能、体制の改善・充実を図る。

（2）研究活動の活性化、研究成果の普及

研究員間の情報交換・意見交換が活発となる環境を整え、研究活動の活性化を進める。また、研究成果、研究員の知見を普及するとともに、地域に還元していく。

（3）地域を支える人材の育成

卒業生、進路先事業者等へのリカレント教育を行うことにより、社会情勢や環境変化に対応できる人材を育成する。地域課題をテーマとしたPBLを行うフィールドを提供するなど、学生の自律的で実践的な学びに資する。

４.次年度取り組むべきこと

課題として挙げた事項につき、次のような取組みを行っていく。

(1) 地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

・構成員の拡大

従来非常勤講師の方中心に研究員の声掛けを行ってきたが、これを地域活性化に取り組んでいる方、企業の人材育成・教育に関わっている方、卒業生などに拡げる。連携協力するメンバーを拡充することで、活動の幅、対応できる課題

を拡げる。
・複数の研究員による連携しての取り組み
取り組む課題や事業によっては複数の分野にわたる知識や経験、スキルが必要なこともあり、複数の研究員が関わることで対応できる幅を広げる。また、連携経験のある研究員から学んだり、地域とのつながりを共有したりできるように機会を設けたり、勉強会で情報交換を行うなどしていく
・連携機関の拡充
活動の必要に応じて連携機関を拡充していく。また、セミナーやイベントの企画・開催、参加者の募集活動などで協力を強化していく。

(2) 研究活動の活性化、研究成果の普及
・学習会での情報交換、活動支援
令和 4 年度から開始した研究員の行っている研究活動や地域貢献活動、教育活動で感じている課題などを、気軽に情報交換、意見交換できる学習会を継続する。これにより研究員相互の情報共有、アドバイスや提案、連携などを密にし、研究の活性化につなげていく。また、PBL などのノウハウ、経験などの交換を行う。
・グループ研究テーマの探索
研究員の専門分野が異なることから、統一した研究テーマを見つけることが難しい状況があるが、学習会などで問題意識を交換する中から、グループ研究のテーマとなるものを探索していく。
・紀要の発刊、HP への掲載。研究員の発表の機会創出
紀要第 10 号を発刊し、合わせて研究成果を本学 HP に掲載することで、一般に研究成果を公表し普及する。また、センター会議での研究会や公開講座など発表の機会を創出していく。
・研究サポート機能（事務局機能）の検討
研究や地域貢献活度をサポートする機能が現状脆弱なことから、どのような機能が必要か、どのようにしてその機能を構築できるかの検討を行う。
(3) 地域を支える人材の育成
・リカレント教育につながるセミナーの企画、開催
就業支援セミナーとして一般向けにこれまで実施してきており、令和 5 年度は 8 月に「クレーム対応基礎講座」、「伝わるプレゼン　PowerPoint 基礎講座（仮称）」、2 月に「マーケティングの基礎と考え方講座」の開催を予定している。
今年度は卒業生や卒業生の進路先がどのような分野・内容の教育を求めているのかにつき、ニーズの収集を行う。
・情報発信、募集に役立てる、リスト、メーリングリストの作成
卒業生進路先、社会体験実習先、卒業生の連絡先を収集し、リスト化、メーリングリストの作成、利用を進める。また、講座ニーズの収集などに活用していく。

Ⅵ

介護福祉研究センター

年次報告書

センター長　中川　千代

Ⅰ．昨年までの課題

本研究センターは設立 9 年目となった。研究員の入れ替わりはあるものの少しずつ研究員は増加している。活動は、定例研究会を中心に教員、卒業生、地域の福祉関係者との連携に重点を置き、介護福祉や社会福祉の研究を行い、その成果を学内外に広め、地域の介護・福祉の発展に寄与しているところである。

コロナ禍が継続しており白子公民館高齢者と学生の交流サロンの中止、施設との連携事業を控えるなど活動範囲は縮小している。介護福祉士を目指す学生たちがボランティアとして活躍する場の確保が難しく実践的な学びの機会が減少している。

第 2 回作文コンクールへの協力は応募数 638 作品と亀山地区を中心に多くの応募が得られたが、地元津市や鈴鹿市の協力が少なくより広報に努める必要がある。また、作文コンクール事業に費やす業務量の多さも課題である。

Ⅱ．本年度改善されたこと

研究員数については、研究員の任期を終えた方々の辞退は数名あったものの地道な勧誘や広報活動の成果として新規研究員が入り 49 名となり前年度－3 名に留まった。今年度はセンター長と主任研究員という 2 名の運営委員と新たな庶務係 1 名の体制であったが、第 3 回作文コンクールの応募者は 690 名となった。津市一身田中学校、鈴鹿市大木中、創徳中学校から応募があったことが広がりを感じた点であった。表彰式では受賞者のうち 5 名の小中学生に朗読の機会を設け、充実した式典となった。また、その様子は三重テレビ放送で放映され、中日新聞、三重タイムスに掲載され、PR となった。

コロナ禍ではあったが感染対策をしながら定例研究会を 4 回実施することができ、なかでも 9 月に開催した第 49 回定例研究会は卒業生を話題提供者として招き、自身の施設の取り組みの様子を報告してもらった。研究員以外に卒業生にも参集してもらい参加者 17 名の賑やかな会となった。その際、津市障がい福祉課主幹にもご出席いただき本研究センターの取り組みにご意見をいただくことができた。本研究センターの根幹である定例研究会を通して卒業生のリカレント教育と年代を超えた交流ができたことが成果であった。

介護福祉セミナーに関しても、興味関心の高いテーマを長谷川研究員と外部講師にて計画し 25 名の一般県民を含む参加者が得られ好評であった。

また、全国障害者問題研究会東海ブロック研究集会 2022 in MIE を 3 月 18 日に本学を拠点とした Zoom 開催で行い 50 名の参加を得た。全障研の実行委員とともにセンター長、川喜田研究員、寺家研究員が Zoom 拠点として主催者側と連携貢献した。

Ⅲ．新たな課題

令和 5 年度は、新規採用教員がセンター長の役割を担うため、円滑なセンター事業運営ができるよう連携を密にとりながら進めていきたい。また、主任研究員が不在であり運営委員も 3 名中 2 名が新規の委員となるため庶務係とともに連携を図りながら安定した事業運営が図れるようにしていくことが重要な課題である。

センター研究紀要である「介護・福祉研究」は第 9 号を刊行することができたが、研究論文 1 編、実践報告 3 編の内容となった。執筆希望者が増えず減少気味であることから研究員等への呼びかけを強化する必要がある。

また、作文コンクールは一旦、開催せず様子をみることになったが第3回の「文集」を年度末に製作したため活用して介護福祉への啓発活動もしっかりと行っていく必要がある。

令和 5 年度はコロナ禍の状況にも少しずつ制限がとかれていく可能性がある。介護福祉コースゼミナール活動として一身田青年団と連携して「七夕まつり」イベントに参画していくことから本研究センターも側面的に連携しながら協力していくことによって、学生が地域と繋がりながら活動できる環境を創造していくことも課題の一つである。

Ⅳ．次年度取り組むべきこと

介護福祉研究センターの事業に一般県民はもとより介護福祉施設関係者がさらに参加してもらえるよう「介護福祉セミナー」の内容を今年度同様魅力あるものとするため、音楽療育施設リズムラビット所長を招き企画中である。実施時期が確定したら、各方面にうまく広報活動できるよう進めていきたい。

また、定例研究会も回数は縮小するが広く研究員や卒業生に呼びかけ、参加者を確保し実りのある会を運営したい。

令和 5 年度は、最小限の事業を円滑に実施できる体制づくりとこれまでの 9 年間の蓄積された実績を途切れさせないように引き継いでいくことが現センター長の責務であると考える。その上、在学生と卒業生を繋ぐ取り組み、学生と地域を繋ぐ取り組みも他機関と連携しながら協力し環境作りを行っていきたい。

Ⅶ

自己点検・評価委員会

年次報告書

委員長　梅林　久高

Ⅰ．令和４年度自己点検・評価委員会の構成員と役割分担

１．構成員

梅林 久高（学長・委員長）
山口 昌澄（副委員長、ALO、学務委員長）
福西 朋子（子ども学科長）
野呂 健一（キャリア育成学科長・コロナ対策副委員長）
中川 千代（キャリア育成学科介護福祉コース長・介護福祉研究センター長）
鷲尾 敦　（IR 本部長）
山本 敦子（キャリア支援委員長）
青木 信子（育児文化研究センター長）
中畑 裕之（キャリア研究センター長・外国人留学生支援委員長）
賓來 敬章（入試広報委員長）
生駒 昌之（教学部長）
大橋 一喜（事務局長）
藤山 真宣（総務課長）

２．各作業部会とその構成員

	作業部会	部会長	担当者					事務局
1	授業評価・見学	山口	中川	野呂				藤善
2	高短生調査	青木	中畑	賓來				山川
3	FD･SD	福西	野呂	大橋				藤山
4	卒業生・就職先調査	山本	中畑	山口	生駒			岡
5	IR	鷲尾	賓來	中川	(梅林)			藤澤
6	外部評価・相互評価準備	山口	梅林	鷲尾	福西	野呂	中川	竹内
			生駒	大橋				

３．各作業部会の業務と今後の課題

（１）授業評価・見学作業部会

１）昨年度までの課題

①授業評価アンケート

令和元年度から高短教務システムによるアンケート実施を継続しているが、利便性が高まる一方、回答率の低さが課題である。

②授業見学

活用率の低さが課題として挙げられた。

２）本年度改善されたこと

①授業評価アンケート

一部遠隔授業で行われた授業もあったが、質問項目は従来どおりの内容で、予定通り実施することができた。

②授業見学

教授会の場で、積極的活用を呼び掛けるとともに新任教員はぜひ見学するよう依頼した。

３）新たな課題

①授業評価アンケート

今年度前期は、対面での実施呼びかけに関わらず、回答率が 61.1%と昨年度より低下した。

②授業見学

活用を呼び掛けたが、今年度は 0 件であった。

４）次年度取り組むべきこと

①授業評価アンケート

授業改善に確実につなげていくため、アンケート結果についての学科・コースでの議論を継続する必要がある。併せてアンケート結果の信頼性を高めるべく、回収率向上のための方策を検討する。

②授業見学

学期始めの案内に加え、学期途中にも見学を促す連絡を行うこととしたい。また新任教員には自身の授業運営の改善のために授業見学を行うよう個別にも案内する。

（２）高短生調査作業部会

１）昨年度までの課題

令和 3 年度は、調査協力の呼びかけ、実施も完全に遠隔（manaba）で実施したこともあり、回答率低下が課題であった。また、数値だけでなく自由記述に学生の率直な意見が表れていると捉え、その分析や公表についても視野に入れたい。

２）本年度改善されたこと

①令和 3 年度「高短生調査」

全学年を対象とした学習への取り組み、意欲、生活の状況、教育支援の満足度を把握する目的で「高短生調査」を実施した。実施方法は学習管理システム manaba を利用した。調査項目は「基本属性」「1 週間の活動時間」「授業内外における学習行動」「短大生活全般」「学習・生活支援」「キャリア支援」「学習環境」等 35 問について選択肢および自由記述により回答を得た。

結果のほとんどで昨年度と違いが見られなかったが、「ボランティアの参加回数」は昨年度より減っており、新型コロナ感染症の影響を受けていると言える。一方で「グループワークの頻度」は増えており、グループワークでの学習効果を考え感染

症対策をした上で実施していることが考えられる。また、学生生活での不満に関する自由記述は今年度は記述内容の羅列にとどまらず、テキストマイニング分析し分析結果の可視化を行った。結果は、自己点検委員会において共有し、大学として改善できる点を検討した。

調査の協力を何度も呼び掛けたが、遠隔での回答であったため本年度の結果も回答率が低く、改善に至らなかった。

②令和 4 年度「高短生調査」

昨年度の調査結果をもとに作業部会において協議、検討した。昨年度も今年度と同様にコロナ禍での大学生生活であったため、比較がしやすいように 3 年度と同じ質問項目とした。委員会での了承を得た後、全学生対象に成績交付日に調査を実施することとなった。今年度は対面で説明をし、その場での回答であったために回答率は昨年度よりは高いことが予想される。

調査結果はこれまでと同様に、次年度 4 月以降に集計を持って作業部会で分析し、結果を委員会に報告する。その後公表する予定である。

３）新たな課題

令和 4 年度の調査内容を検討する際、その回答によって学生生活の何に繋がるのかが明確でない質問項目も見受けられた。今の学生の実態と学生生活の実情をしっかりと捉えることができる項目を検討する必要がある。

また、委員会で自由記述内容を公開しても、教職員がその内容を受け止め改善しようと意識することが見えてこないことが大きな課題である。

４）次年度取り組むべきこと

ここ何年か質問項目を大きく変えずに行ってきたが、次年度は他大学の学生調査を参考にしながら、項目を見直していきたいと考えている。

（３）FD・SD 作業部会

１）昨年度までの課題

昨年度は、実施予定の研修が新型コロナウイルス感染症の急拡大により中止となった。学内のみの参加で計画したもののグループワーク中心の内容ということでやむを得ず次年度に再計画することとした。

２）本年度改善されたこと

本年度は、昨年度計画した学内研修を行った。実施内容は以下の通りである。学内研修は教職員が一堂に会し改善に向け意見交換したり検討したりする機会にできることがメリットである。今回の研修については、学内課題からのテーマ設定というよりも講師である大野特任教授のこれまでのワークショップ形式の研修経験から学内での開催を今年度も望んでのことであった。講師は京都大学教授、三重県博物館館長を務められ、学生はじめ様々な対象に化石を通したワークショップを

数多く行われていたこともあり、FD、SD の区別ない内容であると判断し、以下の通り研修を計画した。目的は教員、職員の垣根を越えて提示されたテーマで意見を交わすこと、とした。

研修はランダムに構成した 7 グループに分かれ、講師の説明とワークシートをガイドに行った。「貝殻観察」という切り口から、物事（貝殻）をよく見る・捉える（観察）、自身の考えを持つ、他者に伝わるように表現する、グループ員と意見を交わしグループなりに解を導いていくというプロセスを経験した。他者と協働して物事を進めることの良さを再発見できたと考える。大学運営や学生の教育・支援は見通し持って物事が進まないことも多々あるなかで、このワークショップで得られたことは今後に有効であると考える。

３）新たな課題

研修後に参加者に対しての振り返り、アンケートはこれまで行っていない。今回、講師から振り返りシート記入が促されたが、委員会としても行うことで次回の研修テーマ検討の資料とすることができるのではないかと考えた。

４）令和 5 年度（2023）取り組むべきこと

今年度の学内教職員対象にワークショップ形式での研修は好感触であった。目的と理由をもって引き続き学内研修を行うのか、学内研修は隔年開催と委員会で共有しているため学外参加も見込んでの研修を行うのか、協議後に研修方法・内容を検討することとする。

（４）卒業生・就職先調査作業部会

１）昨年度までの課題

①卒業生対象調査の回答率の上昇

②就職先対象調査については、「採用側が最低限求める専門的な能力とは何か」（自由記述形式により具体的回答を求める）に特化して調査を行う。

③得られた結果は、学修成果の点検や、各学科コースの教育での対応の向上につなげられるようにするため、学内 Web にて公開し、自己点検・評価委員会、および各学科コースでの報告や情報共有を行い、教職員への周知に努める。さらに、学外に対してもホームページ上で公開を行う。

④卒業生への調査については、詳細な分析は来年度に持ち越している。また、就職先への調査については、「専門的な能力」に特化して、来年度実施する予定であることから、就職支援における具体的な活用については未実施である。

２）今年度取り組んだこと

①卒業生対象調査では、締め切り前にキャンパスネットにて回答依頼のメールを出して、回答率の向上に努めた（4.66%上昇）。教育内容の改善に活かすため、学科コースを選択する質問項目を追加した。

②就職先対象調査については、「採用側が最低限求める専門的な能力とは何か」（自由記述形式により具体的回答を求める）に特化して調査を行い、得られた回答をもとに観点とキーワードを抽出、学科コース間で確認、ディプロマポリシーや建学の精神との関連性の検討を行った。
③卒業生対象調査の結果については、学内 Web にて公開し、自己点検・評価委員会、および各学科コースでの報告や情報共有を行った。今後、学外に対してもホームページ上で公開を行う予定である。
④キャリア支援センターの協力により、調査内容の企画、資料作成、回答内容の統計処理作業を円滑に進めることができた。

３）新たな課題

今年度の就職先対象調査の作業（上述）をさらに捕捉・調整したものを部会や委員会にて確認し、専門的な能力に特化した内容での調査を実施する。就職先が求める「専門的な能力」の習得状況や、習得のための各学科の教育方法やカリキュラムの点検につなげていくことが望まれる。

４）来年度取り組むべきこと

①卒業生対象調査を継続して実施、データを蓄積する。
②就職先対象調査については、「卒業時に身につけておいてほしい能力（知識・スキル)」（専門的な能力）に特化した内容で調査を行い、結果を分析する。
③卒業生や就職先の情報把握・共有の機会としても活用できるようにする。

（５）IR 作業部会

１）昨年度までの課題

1. 昨年までの課題

（１）取り組むべき課題の選定

取り組む課題として、昨年度検討したもの、実施中のものなどから分析対象として次のものが作業部会で挙げられた。来年度の実施に向けて何を実施するか検討しなければならない。

①2021 年度後期科目の成績分布
②DP ルーブリック集計、分析
③どの高校の学生の成績が良いか、伸びるか、どの高校からの出身者が増えているか
④実習の成績と授業成績との関連性
⑤退学者、休学者の状況分析

（２）集計、分析の作業者

DP ルーブリックを取ることが自己点検・評価委員会で決まったがどのように分析していくか、誰が担当するかについては決まっていない。（１）の他の分析す

べき事項もあわせて、作業担当者を決めておく必要がある。

（３）集計、分析結果をどのように扱うかの検討

集計し見える化した結果や分析結果をどのように扱うか、そもそも集計、分析をする目的は何かを事前に明確にしておく必要がある。

２）本年度改善されたこと

（１）取り組むべき課題の選定

取り組む課題として、次の 2 つを選定し、集計分析し、自己点検評価委員会にて報告した。

①2021 年度後期科目の成績分布

②DP ルーブリック集計、分析

（２）集計、分析の作業者

作業部会のメンバーが集計、分析、統計に詳しいわけではないので、集計分析した結果を評価する役割とした。実際の作業は、部会のメンバーでもある教務課職員と作業部会長の方で実施した。成績分布については、基本的なデータ収集、グラフ作成等は、教務課職員でルーチン化できるようになった。

結果、令和 3 年度卒業生の卒業時の共通 DP ルーブリック、各学科コースの専門ルーブリックの結果をもとに、当該学生らの入学時共通 DP ルーブリックも使いながら、学生の学修到達目標の学修成果と課題についてデータを集計分析し、10 月自己点検評価委員会に提出した。

（３）集計、分析結果をどのように扱うかの検討

今年度も、自己点検評価委員会の報告をした。今のところ、教学上の課題から IR を利用しようという考えはないようなので、自己点検評価の一環として毎年の課題について報告する状況となっている。

（４）成績評価における GPA と評価結果の対応

兼ねてより懸案となっていた GPA の評価と成績評価が連動していない件（教授会でその方向性が決められていたが、長く教務システムが対応できないとのことで寝かされていた案件）であるが、新しい教務システムの導入が来年度 4 月から実施される。それにともない、GPA でいう 3 と 4 の成績評価を、両者ともに「優」から、3 は「優」、4 は「秀」となることが教授会で報告された。

３）新たな課題

（１）DP ルーブリックの改善

オフィスワークコースの専門 DP ルーブリックでは、キャリアの学生の自己評価が大変低くあった。しかし、ルーブリックの最高レベルが社会人になってか

ら、次のレベルが短大で到達する最高目標、となっており、記述の表現からは、もともと高い評価となるものではなかった。数値化して分析する以上は、他の学科コースの目標レベルも見直して、各段階の目標レベルが揃うよう検討する必要があると思われる。

4）次年度取り組むべきこと

（１）成績評価状況の見える化のルーチン化

令和４年度は、令和３年度の後期の成績評価の状況（成績評価分布）を作成し自己点検評価委員会に提出したが、意識して作業部会で取り組まなければ実施されない状況である。毎回同じ処理で済むことと、来年は学事支援システムも新たになり、データの整理もしやすくなると思われるので、処理の簡単化、ルーチン化が実現すると思われる。

（２）成績評価分布結果の担当教員へのフィードバック

上記分析結果を教員に返すことで、教員一人ひとりが評価について考える機会となると思うが、現状なされていない。大学評価にも必要となってくる基本的な点検項目であるので、実施体制、結果のフィードバック体制を明確にしてはどうか、検討すべきと思われる。

（３）DP ルーブリック評価実施の議論

令和４年度は、DP ルーブリック自己評価の実施は、委員会で副委員長の意見ですることとなったが、ルーブリックの内容や実施方法、評価の使い方など、自己点検委員会で議論すべき時期に来ているように思える。

現学長が交代したばかりの頃の委員会で、実施に懐疑的な意見があり、また積極的に活用する意見もなかったこともあり、廃止の方向にあった（対外的には、コロナ禍を理由としていたが)。担当してきたものとすれば、いつの間にか復活したイメージがあり、再スタートしてもらいたい。

（４）DP ルーブリックの改善

新たな課題に示したように、DP ルーブリックの自己評価の分析を進めていくためには、あらためて評価レベルを統一したルーブリックの記述語の改善を進めていく必要がある。

（６）外部評価・相互評価準備作業部会

１）昨年度までの課題

大阪城南女子短期大学との 2019 年度、2020 年度の相互評価（2020 年度はオンライン）報告書完成、基準協会への提出。さらに今後の外部および相互評価への計画・取り組み検討も課題として挙げられた。

２）本年度実績・改善されたこと

相手校 ALO とも連絡を取りながら、報告書原案、修正案のやり取りを行った。相手校 ALO に基準協会への確認をしていただいた結果、原案に少し手を加え提出すれば良いことも分かった。

３）新たな課題

今年度、相手校側の学長（自己点検・評価委員長）始め、運営メンバーの大幅な刷新、認証評価時期も重なり、やり取りも難航した。現在の所、報告書原案はほぼできているものの、相手校からの要望もあり、最終的な完成や基準協会への提出には至らなかった。

4）次年度取り組むべきこと

次年度には相手校の認証評価も終わり、腰を据えて完成に向けた作業に取りかかれる見込みである。相手校との連携も図りながら、完成、基準協会への提出、公開に向け努める。今後の外部・相互評価については、新システム導入や各学科新カリキュラムの施行等、まずは学内教育活動に専念するべく当面の間は行わない。次回認証評価の時期（令和 10（2028）年度）に併せて、実施の適否について継続検討を行なう。

その他、認証評価にも関連する本学「中・長期計画（今年度制定・施行)」についても、年度達成評価票作成にも取り組む。

Ⅷ

学務委員会

年次報告書

委員長　山口　昌澄

Ⅰ　昨年度からの課題

1.遠隔授業のルール作り

昨年度は遠隔授業において計画的に課題がこなせない学生、課題提出における剽窃やオンライン試験時の友人同士での相談等の不正行為が疑わしいケースが散見され、改善が求められた。

2.新教務システムへの対応

次年度（2023年度）の教務システム変更に向け、教務課を中心に取扱い業者との調整、準備が進められてきた。委員会協議の場等を有効活用し、進捗状況共有や教員要望等を反映させたものとなるよう努める必要がある。

3.授業時や学内等でのマナー向上

上述の不正行為、指定教室・指定席での黙食マナー違反等が問題行為として挙げられる。学生マナー向上は、例年課題として挙げられているが今後も指導を粘り強く行っていく必要がある。

Ⅱ　本年度改善されたこと

令和4（2022）年度課題に対する取り組み・改善状況（成果）は、以下のとおりである。

1.遠隔授業のルール作り

本年度は全面的な対面授業の復活に伴い、遠隔授業はごく一部の実施にとどまった。よって特別新たなルール作りを行った訳でないが、授業担当者からの指導もあり、知る限りにおいて教員や学生より不正行為や不都合等の訴えはなかった。

2.新教務システムへの対応

一時は世界的な半導体不足から、新システム（株式会社電翔「Active Academy Advance（以下『AAA』)」）用のサーバ納入が年度末までに間に合わない等、導入遅延も危ぶまれた。だが本年度末、納入目途も立ち、無事次年度4月からの運用を迎えるに至った。導入に関する進捗状況については、都度教務課より学務委員会や教授会等で共有され、教員の要望も取り入れつつ内容面の調整が図られた。

令和5年3月23日には本学非常勤講師向けの新システム説明会、その後常勤講師向けの説明会を実施。

3.授業時や学内等でのマナーの指導

マナー違反等の苦情は、昨年度に続き本年度も比較的少なかった。学務委員会でも、この件については情報共有し、指導のあり方について検討し学内指導にも活かせたと考える。

非常勤講師には、令和5年3月23日開催の打ち合わせ会時にも受講マナー等、さらなるご指導をお願いした。

昨年度からの課題以外に、本年度の新たな取り組み（成果）は以下のとおりである。

・授業科目ナンバリング改定

昨年度制定・導入された科目ナンバリングについては、カリキュラム体系のさらなる明示が課題として指摘された。本年度は、上記ナンバリングを一部改訂し、科目（領域）間の繋がりがより分かりやすいものに変更した。新ナンバリングは次年度学生便覧やシラバス等にも付記され、周知を図る。

・各学科・コースにおけるカリキュラム改定

地域社会・学生ニーズ変化への対応、学科・コース特性を活かした魅力ある教育プログラムの提供を図るべく、両学科とも令和５年度入学生より新たなカリキュラムが導入されることとなった。子ども学科においては自然保育や子育て支援等に特化した独自科目、キャリア育成学科では公務員試験対策を始め就職支援強化、地域連携、資格取得、留学生の日本語能力向上等に対応した新設科目（領域）を開設するに至った。

・学生イベント開催

この数年、新型コロナウィルス感染防止の観点から学園祭を始め学生イベントがほぼ開催できない状況が続いた。本年度は感染防止にも十分配慮しつつ、規模縮小ながら複数の学生イベント（TJC祭、学園祭、抽選会等）を実施できた。

様々な制約の中、企画運営を担当した学生自治会の奮闘も特筆すべきものがある。

Ⅲ　新たな課題

1.新システムの円滑な運用およびサポート体制づくり

先述の通り、次年度「AAA」導入に伴い、学生生活・学修情報等の一括的管理・サポートにあたる。出席管理、学生諸連絡（授業課題含む）、遠隔授業等における有効活用が大いに期待されるが、旧システム（manaba、高短キャンパスネット等）との違いに戸惑う教職員（および学生）が出てくることも予想される。新システム運用側の教職員における習熟はもとより、困った際の適切な対応が求められる。

2.保護者懇談会

本年度保護者懇談会については、ここ数年の形式を変え、冒頭に学長挨拶を含む全体説明会を復活させる形で開催した。ただその後の個別相談会まで待機を要される保護者がいたことが課題として指摘された。より適切な開催形式を検討すべきである。

3.学生イベントの充実

次年度、新型コロナウィルスの５類相当への引き下げにともない、様々な学生イベントが例年通りの開催形式に戻ることが予想される。引き続き感染予防には

十分配慮しつつ、学生生活の充実に向け、より魅力あるイベントを実施することが求められる。企画・運営の中心・主体はあくまで学生自治会となるが、外部に向けたイベント（例：学園祭）実施をする場合、サポートはもとより、学生指導も一定以上必要となる。学生の主体性や参加意欲、充実感を損なわせず、安全かつ有意義な機会の提供が目指される。

Ⅳ　次年度取り組むべきこと

Ⅲで挙げた課題については、他部署等の連携も図りつつ、取り組みを進めていく。

1．については、授業担当者向けの説明会を複数回実施する他、教務課を中心に新システムの対応窓口としての機能体制化を図る。

2．については学務委員会での協議・検討はもとより、学科・コースや運営員会にも諮りながら、最善の形式での実施に向け努力する。

3．については業務担当としては学生課が中心となるが、学務委員会全体のサポートやゼミナール担当教員への協力要請を行う。特に自治会メンバー募集が近年難航しており、ゼミ担当教員からも入会呼びかけをお願いしたい。

その他、令和5年度入学生からは両学科とも新カリキュラムが実施される。学生進路にも関わる卒業認定や免許・資格取得も関連するので、履修登録については漏れや不具合等がないか十分に確認を行なう。さらに新科目ナンバリングについても運用状況をみつつ、さらなる改善が図れるか検討していく。

Ⅸ

入試広報委員会

年次報告書

委員長　賓來　敬章

Ⅰ　令和 4 年度概況

1．入試広報委員会運営

令和 4 年度の入試広報委員会は、以下の構成員により運営された。

委員長　實來　敬章

委　員　福西　朋子、亀澤　朋恵、川喜田　多佳子、長谷川　恭子、
生駒　昌之、大橋　一善、眞﨑　俊明、佐々木　秀英、久保田　奈央

全 12 回の委員会を開催した。

直近の 2 年間においては、新入試制度の導入や子ども学科における定員大幅超過等、大きな動きが見られたものの、人口減に加えて大学進学希望者の県外受験の傾向が戻るなど、今年度募集は厳しい状況が考えられる。よって本年度は、新しい動向もにらみつつ、より積極的な広報活動展開が求められた。

本年度の活動目標・ビジョンとして、以下事項が、委員会共有された。

・本学ブランディング強化（本学の伝統・歴史性、学科コースの魅力明示化）
・情報発信強化（インターネットを中心とした、途切れない広報展開）
・効果的な広報手段重点化（進学ブース増、オープンキャンパス内容精査等）
・チーム感醸成（職位、経験、教職、部署の垣根を越えた協力体制の構築）

2．実施入試種別

- 総合型選抜入試（一次選考・二次選考）
- アスリート総合選抜入試
- 学校推薦型選抜指定校推薦入試
- 学校推薦型選抜一般推薦入試Ⅰ期・Ⅱ期
- 学校推薦型選抜アスリート推薦入試
- 一般選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期
- 社会人等入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期
- 大学等卒業生入試(受験者なし)
- 本学卒業生入試(受験者なし)
- 海外帰国生徒入試(受験者なし)
- 外国人留学生入試Ⅰ期・Ⅱ期
- 委託訓練入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期

3．問題作成者決定と委嘱

問題作成者については非公開とし、担当者通知後､学長より委嘱した。オープンキャンパスでの説明や外部問い合わせ時用に「過去問題集」も作成し、必要に応じて配付した。

4．本年度入試実施上の留意点

入試広報委員会で、各回の入試の日程、タイムスケジュール、担当者、受験生案内などを確認した。昨年度と比べコロナ対策は緩やかとなったものの、最低限

の対策を行い、大きな問題なく学内にて実施できた。

5. 本年度入試志願者と合格者

全学科・コース合計

	総合型	アスリート総合型	指定校	アスリート推薦	推薦Ⅰ期 専願	推薦Ⅰ期 併願	推薦Ⅱ期 専願	推薦Ⅱ期 併願	一般Ⅰ期	一般Ⅱ期	社会人Ⅰ期	社会人Ⅱ期	社会人Ⅲ期	海外帰国生徒	大学等卒業生	外国人Ⅰ期	外国人Ⅱ期	外国人Ⅲ期	委託訓練Ⅰ期	委託訓練Ⅱ期	委託訓練Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	73	8	134			5	3		4	1		1					14	9	1	5	3		261
受験者数	69	8	134			5	3		3	1		1					14	9	1	5	3		256
(検定料不要者)			4				2																6
合格者数	69	8	134			5	3		3	1							5	2		3	2		235
入金者数	59	－	97	－		1			1	1						－	－	－	－	－	－	－	159
(高田高校生)	2		22				3				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	27
(女子サッカー)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
(バレーボール)	－	3	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3
入学予定者	69	8	132			1	3		1	1							4	2	2	4	2		229
入学者数	69	8	132			1	3		1	1							4	2	2	4	2		229

子ども学科

	総合型	アスリート総合型	指定校	アスリート推薦	推薦Ⅰ期 専願	推薦Ⅰ期 併願	推薦Ⅱ期 専願	推薦Ⅱ期 併願	一般Ⅰ期	一般Ⅱ期	社会人Ⅰ期	社会人Ⅱ期	社会人Ⅲ期	海外帰国生徒	大学等卒業生	外国人Ⅰ期	外国人Ⅱ期	外国人Ⅲ期	委託訓練Ⅰ期	委託訓練Ⅱ期	委託訓練Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	46	3	86			1	2		2							－	－	－	3	2	2		147
受験者数	42	3	86			1	2		1							－	－	－	3	2	2		142
(検定料不要者)			4				1									－	－	－					5
合格者数	42	3	86			1	2		1							－	－	－	2	1			138
入金者数	41	－	74			1			1							－	－	－					117
(高田高校生)	1		12				2									－	－	－					15
(女子サッカー)																－	－	－					
(バレーボール)		3														－	－	－					3
入学予定者	42	3	86			1	2		1							－	－	－	2	1			138
入学者数	42	3	86			1	2		1							－	－	－	2	1			138

キャリア育成学科(両コース合計)

	総合型	アスリート総合型	指定校	アスリート推薦	推薦Ⅰ期 専願	推薦Ⅰ期 併願	推薦Ⅱ期 専願	推薦Ⅱ期 併願	一般Ⅰ期	一般Ⅱ期	社会人Ⅰ期	社会人Ⅱ期	社会人Ⅲ期	海外帰国生徒	大学等卒業生	外国人Ⅰ期	外国人Ⅱ期	外国人Ⅲ期	委託訓練Ⅰ期	委託訓練Ⅱ期	委託訓練Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	27	5	48			4	1		2	1		1					14	9	1	5	3		121
受験者数	27	5	48			4	1		2	1		1					14	9	1	5	3		121
(検定料不要者)							1																1
合格者数	27	5	48			4	1		2	1							5	2		3	2		100
入金者数	18	－	23	－						1						－	－	－	－	－	－	－	42
(高田高校生)	1		10				1				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	12
(女子サッカー)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
(バレーボール)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
入学予定者	27	5	46				1			1							4	2		3	2		91
入学者数	27	5	46				1			1							4	2		3	2		91

キャリア育成学科オフィスワークコース

	総合型	アスリート総合型	指定校	アスリート推薦	推薦Ⅰ期 専願	推薦Ⅰ期 併願	推薦Ⅱ期 専願	推薦Ⅱ期 併願	一般Ⅰ期	一般Ⅱ期	社会人Ⅰ期	社会人Ⅱ期	社会人Ⅲ期	海外帰国生徒	大学等卒業生	外国人Ⅰ期	外国人Ⅱ期	外国人Ⅲ期	委託訓練Ⅰ期	委託訓練Ⅱ期	委託訓練Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	19	5	33			4	1		1	1		1							－	－	－		65
受験者数	19	5	33			4	1		1	1		1							－	－	－		65
(検定料不要者)							1												－	－	－		1
合格者数	19	5	33			4	1		1	1									－	－	－		64
入金者数	18	－	23	－						1						－	－	－	－	－	－		42
(高田高校生)	1		10				1									－	－	－	－	－	－		12
(女子サッカー)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
(バレーボール)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
入学予定者	19	5	31				1			1									－	－	－		57
入学者数	19	5	31				1			1									－	－	－		57

キャリア育成学科介護福祉コース

	総合型	アスリート総合型	指定校	アスリート推薦	推薦Ⅰ期 専願	推薦Ⅰ期 併願	推薦Ⅱ期 専願	推薦Ⅱ期 併願	一般Ⅰ期	一般Ⅱ期	社会人Ⅰ期	社会人Ⅱ期	社会人Ⅲ期	海外帰国生徒	大学等卒業生	外国人Ⅰ期	外国人Ⅱ期	外国人Ⅲ期	委託訓練Ⅰ期	委託訓練Ⅱ期	委託訓練Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	8		15						1								14	9	1	5	3		56
受験者数	8		15						1								14	9	1	5	3		56
(検定料不要者)																							
合格者数	8		15						1								5	2		3	2		36
入金者数		－		－												－	－	－	－	－	－		
(高田高校生)																－	－	－	－	－	－		
(女子サッカー)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
(バレーボール)	－		－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
入学予定者	8		15														4	2		3	2		34
入学者数	8		15														4	2		3	2		34

※外国人入試：キャリア育成学科のみ実施

※委託訓練入試：子ども学科及びキャリア育成学科介護福祉コースのみ実施

Ⅲ　令和 4 年度の取り組み(課題と今後の改善計画)

１．学生募集(高校訪問･ガイダンス含)

(1)年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

・ 入試広報を目的とした大学周辺の里山の整備と活用に関する全学的な取り組みの推進と、積極的な広報活動の実施。
・ ガイダンスでは相手（高校生や教員）との対話を積極的に取り入れ、要望に合わせて内容を常にブラッシュアップしていきたい。
・ チラシやポスターを掲示してもらえるところを新規開拓し、知名度アップを図る。
・ 少子化に対応した広報戦略の選定
・ 学内広報の徹底。教職員の広報活動に対する意識向上とモチベーションアップが課題。
・ 競合他校の分析と市場動向の把握、情報力の向上が課題。
・ 10 月独自オープンキャパス参加者からの出願実績も毎年出せている。一人でも多くの入学者確保につながるよう、魅力ある内容と好印象を与える場の雰囲気作りを検討していく。
・ 次年度オフィスワークコースのマンパワーが不足する。どのように乗り切っていくかが課題である。コースの「売り」になる内容は前面に出せるようにしていなかければならない。
・ 高校訪問等の担当場所は複数年継続することで高校教員とも信頼関係ができ、情報を得られやすくなるため、可能ならば職員の変更は極力最小限にする。
・ 高校訪問の回数、内容など精査し、受験のたびにお礼に行くことは高校教員の時間と、短大教職員の時間を考えて効果の高いタイミングのみとする。また高校訪問の際に、学科教員と入試広報課のどちらが訪問するのがよいか、精査する。
・ 高校側の情報源として、現学生への聞き取りが多いことからも、現在の学生の短大生活満足度の向上が求められる。
・ 入学案内や学生募集要項はホームページに載せ、配布を中止することで予算の削減につながる。また現在オープンキャンパスに複数回参加した人には毎回配布するなどの無駄も多く、高校訪問時に毎回持参し、高校側も不要の場合が多いことから、無駄を削減する必要がある。
・ 受験のエントリーも Web にすることで高校生の負担も減り、かつ入試広報課として受験票（番号）の送付等も不要となる。

(2)(1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・オープンキャンパスでの里山活用の模擬授業を展開し、入試（面接）で高校生の志望動機を聞く

　限り手ごたえを感じた。

・大学周辺の里山活用は授業等で行い、その様子をインスタグラムに挙げるように写真提供した。

・ガイダンスに関して、保育ばかりでなく、ビジネスや福祉なども積極的に参加できており、特に
介護福祉コースの募集改善に大きく寄与できたものと思われる。
・オープンキャンパスの際、好印象を与える場の雰囲気作りとして、介護棟の入り口の印象を明る
くする工夫、飾り付けや壁面の工夫などを行った。
・オフィスワークコースでは新年度に向け、新カリキュラムを作成。オープンキャンパスの早い段
階から独自チラシを作成し、高校生に向け配布した。
・高校訪問を職員中心で実施した。学科・コース問わずどの学校にも共通の情報が伝えられたのは
よかったと感じる。また、高校教員との関係性も築けてきて、雑談の中から有益な情報を得る機
会も増えた。次年度は教員が訪問したほうがより高い効果が得られる高校や時期を模索し、職員
と同行してもらうことも検討したい。
・高校への出前授業等で高校の先生や生徒との交流の場が持てた。1、2年生の参加者が多かった
が、すでに保育系への進路を強く希望する生徒が一定数いることは感じる。
・今年度の介護福祉コースはここ数年と比較して日本人の募集に成功したと感じる。専門学校の募集停止も影響はあるが、昨年度から増やした介護の分野別ガイダンスでの周知も影響していると感じる。引き続き積極的にガイダンス等へ参加し、入学金免除や奨学金、資格を持って働くことの重要性などを伝えていきたい。

(3)(2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・学生広報スタッフの立ち上げと活動。1年目で手探りの中の活動となったが、OCを中心にこれ
までのボランティア学生と比べ特に責任を持って活動をしてくれた。ノベルティや印刷物等も
学生の意見を取り入れ、より高校生に好評なものを選択できた。
・10年近く継続している学科独自模擬授業「伊勢学園コースの日」では、在学生の中から対象コ
ース卒業生（他高校出身の友人2人も加え）も参加してもらい、先輩からの生の声としてコース
の魅力を伝えてもらった。高校の先生にも大変喜んでいただくことが出来た。

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

・高校訪問（1～4回。5月、6月、10月、12～1月）

・オープンキャンパス６月、７月、８月、３月の里山を利用した模擬授業

高大教育交流事業:模擬授業等(協定校)

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者		形式	学年	開催場所	参加者
5月13日	金	11:00～12:50	久居	福西			幼児コミュニケーション①	3	久居高校	
5月20日	金	13:00～14:30	高田	寳來	野呂	長谷川	特別授業	2～3	高田高校	
5月21日	土	10:45～11:35	皇學館	寳來			模擬授業		皇學館高校	
6月15日	水	12:30～13:20	飯南	福西	大橋	長谷川	模擬授業	1	高田短期大学	25
6月17日	金	11:00～12:50	久居	笠原	大山		幼児コミュニケーション②	3	久居高校	
7月8日	金	12:45～14:15	名張	長倉			模擬授業	2	名張高校	
7月12日	火	12:40～14:30	相可	金森			特別授業	1～3	相可高校	
11月4日	金	11:00～12:50	久居	亀澤			幼児コミュニケーション③	3	久居高校	
11月10日	木	13:25～15:15	亀山	福田			特別授業		亀山高校	
11月11日	金	11:00～12:50	久居	寳來			幼児コミュニケーション④	3	久居高校	
11月17日	木	9:45～11:05	四日市四郷	野呂	久保田		職業別体験授業	1	四日市四郷高校	10
11月18日	金	11:00～12:50	久居	大野			幼児コミュニケーション⑤	3	久居高校	
11月25日	金	11:00～12:50	久居	長倉			幼児コミュニケーション⑥	3	久居高校	
12月13日	火	12:45～14:30	名張	金森			模擬授業	2	高田短期大学	
12月15日	木	10:30～12:10	飯南	青木眞	久保田		体験授業	2	飯南高校	8
12月16日	金	10:40～12:20	四日市西	寳來			模擬授業	2	四日市西高校	3
1月24日	火	12:40～15:00	飯南	鷲尾	佐々木		模擬授業	1	飯南高校	36
~~1月25日~~	~~水~~	~~13:00～15:20~~	~~久居~~	~~福西~~			~~模擬授業~~	~~2~~	~~久居高校~~	
2月9日	木	13:25～15:15	亀山	寳來			体験授業	2	亀山高校	13
3月7日	火		名張	權部			体験授業	2	名張高校	
3月17日	金	8:30～10:50	久居	青木眞			体験授業	2	久居高校	21
3月23日	木	12:45～14:15	高田	長倉	川喜田	長谷川	特別授業	1～2	高田短期大学	34
										46

高大教育交流事業:ガイダンス(協定校)

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	開催場所	参加者
4月19日	火	15:10～17:00	四日市四郷	久保田			学校別説明会(キッズ・コーポレーション)	3	四日市四郷高校	4
4月27日	水	13:15～14:30	飯南	久保田			学校別説明会(さんぽう)	3	飯南高校	5
5月7日	土	10:30～13:25	明野	佐々木			学校別説明会(さんぽう)	2～3	明野高校	7
5月7日	土	14:20～15:20	松阪商業	生駒			保護者説明会(マネー講座)(さんぽう)	保護者	松阪商業高校	–
5月11日	水	10:30～12:45	明野	佐々木			職業別説明会(保育)(さんぽう)	2	明野高校	31
5月11日	水	13:10～15:25	相可	久保田			学校別説明会(さんぽう)	3	相可高校	11
5月19日	木	11:00～12:00	松阪商業	佐々木			学校別説明会(さんぽう)	3	松阪商業高校	3
5月20日	金	13:00～16:05	いなべ総合	久保田			模擬面接指導、学校別説明会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	2、3	いなべ総合学園高校	1
5月25日	水	10:30～12:40	名張	久保田			学校別説明会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	3	名張高校	7
5月25日	水	13:50～15:20	松阪商業	佐々木	久保田		分野別(保育・福祉)説明(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	2	松阪商業高校	6
6月4日	土	10:30～12:00	高田	寳來			保護者会	保護者	高田高校	28
6月8日	水	13:10～15:20	四日市四郷	佐々木			学校別説明会(保育分野)	3	四日市四郷高校	9

6月13日	月	14:30～17:30	亀山(亀山市文化会館)	佐々木			学校別分科会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	1～3	亀山市文化会館	12
6月15日	水	11:30～12:45	明野	生駒			分野別(保育)模擬面接指導	3	明野高校	14
6月15日	水	13:45～15:00	いなべ総合	野崎	佐々木	久保田	面接対策講座	3	いなべ総合学園高校	－
6月22日	水	12:20～16:30	いなべ総合	久保田			分野別(保育)・学校別説明会(昭栄広報)	1～3	いなべ総合学園高校	48
6月22日	水	12:50～15:10	三重	佐々木			学校別説明会	3	三重高校	26
6月22日	水	12:55～15:15	飯野	大橋			学校別説明会・質疑応答・面接指導	3	飯野高校	2
7月11日	月	13:00～16:00	亀山	佐々木	久保田		学校別説明会・添削指導	1～3	亀山高校	10
7月13日	水	9:00～11:00	白子	大橋	佐々木		学校別説明会・添削指導	3	白子高校	7
7月14日	木	13:00～16:00	高田	佐々木	久保田		なんでも相談会	1～3	高田高校	4
7月15日	金	13:00～16:00	高田	佐々木	久保田		なんでも相談会	1～3	高田高校	0
7月21日	木	9:30～13:00	津商業	佐々木	久保田		学校別説明会	1～3	津商業高校	0
8月4日	木	9:05～9:55	四日市商業	生駒			志望理由書、面接講座	3	四日市商業高校	50
8月20日	土	10:10～11:10	高田	久保田			オープンスクール	中学生	高田高校	6
8月22日	月	10:10～11:10	高田	久保田			オープンスクール	中学生	高田高校	6
8月23日	火	13:30～16:00	三重	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜対策講座	3	三重高校	10
8月25日	木	9:15～12:00	四日市四郷	佐々木	久保田		幼稚園見学バスツアー	1～3	まきば幼稚園	9
8月25日	木	12:40～16:50	鈴鹿地区合同面接指導	生駒			模擬面接指導(就職)	3	飯野高校	－
8月26日	金	8:40～12:10	津商業	生駒			模擬面接指導(就職)	3	津商業高校	－
8月26日	金	9:00～11:00	白子	佐々木	久保田		総合型選抜対策添削指導	3	白子高校	7
9月1日	木	10:50～11:40	四日市商業	佐々木	久保田		志望理由書、面接講座	3	四日市商業高校	60
9月18日	日	10:10～11:10	高田	佐々木			オープンスクール	中学生	高田高校	－
9月19日	月	10:10～11:10	高田	佐々木			オープンスクール	中学生	高田高校	－
9月21日	水	13:10～15:20	久居	佐々木			職業別説明会(保育)(ｷｯｽﾞ･ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ)	1	久居高校	13
10月5日	水	12:55～14:05	飯野	佐々木			職業別説明会(ﾋﾞｼﾞﾈｽ)	1	飯野高校	3
10月21日	金	12:00～13:40	皇學館	佐々木			系統別説明会(保育)	2	皇學館高校	20
10月21日	金	13:30～15:05	皇學館	佐々木	久保田		職業別説明会(保育・ビジネス)	1	皇學館高校	75
10月27日	木	15:30～18:30	四日市商業	佐々木	久保田		模擬面接指導	3	四日市商業高校	－
11月4日	金	15:30～18:30	四日市商業	佐々木	久保田		模擬面接指導	3	四日市商業高校	－
11月9日	水	13:50～15:20	松阪商業	生駒			学校別分科会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	2	松阪商業高校	10
11月10日	木	15:30～18:30	四日市商業	佐々木	久保田		模擬面接指導	3	四日市商業高校	－
11月16日	水	14:00～15:10	いなべ総合	生駒	佐々木	久保田	学校見学会	1	高田短期大学	25
12月9日	金	10:50～13:10	高田	佐々木	久保田		学校別説明会(さんぽう)	2	高田高校	63
12月12日	月	13:00～15:10	四日市商業	久保田			学校別分科会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	2	四日市商業高校	13
12月12日	月	12:30～14:30	明野	佐々木			分野別説明会(保育)		明野高校	12
12月13日	火	9:40～10:30	四日市四郷	佐々木	久保田		学校見学会(昭栄広報)	2	高田短期大学	12
12月13日	火	14:45～16:00	宇治山田商業	佐々木	久保田		分野別説明会(保育・介護)	1・2	宇治山田商業高校	13
12月14日	水	10:50～12:40	四日市四郷	佐々木			学校説明会(昭栄広報)	2	四日市四郷高校	10
12月14日	水	12:55～15:15	亀山	生駒	大橋	久保田	職業別分科会(保育・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・介護)(JSｺｰﾎﾟﾚｰｼ	1	亀山高校	121
12月14日	水	13:25～14:55	松阪商業	佐々木			系統別分科会(ﾋﾞｼﾞﾈｽ)(さんぽう)	1	松阪商業高校	14
12月15日	木	9:25～11:45	明野	金森			分野別説明会(保育)(さんぽう)	2	明野高校	14
12月15日	木	11:25～12:45	津商業	生駒			分野別説明会(保育)(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	2	津商業高校	8
12月19日	月	11:30～12:40	四日市西	生駒			職業別説明会(公務員)	1	四日市西高校	16
1月18日	水	8:35～9:45	白子	佐々木			系統・分野別説明会(保育)(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	1	白子高校	12
1月18日	水	13:40～15:20	四日市四郷	竹内	久保田		職業別説明会(ﾋﾞｼﾞﾈｽ・介護福祉)(さんぽう)	1	四日市四郷高校	16
~~1月25日~~	~~水~~	~~13:00～14:35~~	~~飯野~~	~~大橋~~			~~系統別(事務・ビジネス)説明会(さんぽう)~~	~~2~~	~~飯野高校~~	
~~1月25日~~	~~水~~	~~13:30～15:10~~	~~菰野~~	~~佐々木~~	~~久保田~~		~~系統別(保育、介護)説明会(さんぽう)~~	~~2~~	~~菰野高校~~	
2月14日	火	13:00～15:05	津商業	生駒			系統別(保育)説明会(さんぽう)	1	津商業高校	29
2月15日	水	9:50～12:20	四日市商業	生駒	大橋		職業別(保育・事務)説明会(さんぽう)	1	四日市商業高校	134
2月15日	水	12:55～15:15	白子	佐々木			系統別(保育)、学校別説明会(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐｰ)	1・2	白子高校	44
3月7日	火	12:20～14:00	皇學館	久保田			分野別説明会(介護福祉)	1・2	皇學館高校	2
3月16日	木	9:40～11:25	亀山	生駒			学校別説明会	2	亀山高校	2
3月16日	木	9:40～10:50	明野	佐々木			学校別説明会	2	明野高校	8
3月16日	木	12:45～15:05	高田	大橋	佐々木		系統・分野別説明会(保育・ﾋﾞｼﾞﾈｽ)(ﾗｲｾﾝｽｱｶﾃﾞﾐ	1	高田高校	56
3月17日	金	11:10～12:45	四日市四郷	久保田			学校別説明会	1・2	四日市四郷高校	2
										1126

協定校外模擬授業等

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	開催場所	参加者
6月15日	水	12:50～15:10	志摩	青木	鷲尾	川喜田	職業別体験授業	2	志摩高校	
7月9日	土	9:00～11:30	伊勢学園	川喜田			模擬授業	2	伊勢学園高校	27
7月9日	土	10:00～11:30	伊勢学園	生駒	大橋	佐々木、久保田	模擬授業、学校説明、キャンパスツアー	2～3	高田短期大学	30
7月11日	月	10:00～12:50	伊賀白鳳	山本	佐々木	久保田	模擬授業、学校説明、キャンパスツアー	2	高田短期大学	33
7月12日	火	12:40～14:00	木本	亀澤			模擬講義	2	木本高校	9
10月19日	水	17:05～19:10	飯野(定時制)	中畑			分野別体験授業	1～4	飯野高校	19
10月26日	水	13:50～15:10	久居農林	佐々木			模擬授業	2	久居農林	11
10月29日	土	9:00～11:30	伊勢学園	川喜田			模擬授業	2	伊勢学園高校	35
11月10日	木	9:50～11:50	紀南	亀澤			模擬講義	1	紀南高校	
12月2日	金	13:35～14:55	第一学院	佐々木			模擬講義	1～2	第一学院四日市キャンパ	10
12月20日	火	13:30～14:50	木本	青木	久保田		分野別模擬授業	1	木本高校	6
1月19日	木	13:20～14:45	昴学園	海住			職業別体験授業(ライセンスアカデミー)	1	昴学園高校	8
~~1月25日~~	~~水~~	~~13:50～15:10~~	~~志摩~~	~~川喜田~~			~~体験授業~~	~~1~~	~~志摩高校~~	
3月16日	木	10:00～12:40	四日市ドーム	亀澤			体験ブース	1～3	四日市ドーム	20
										118

高校内ガイダンス

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	主催	参加者
5月7日	土	14:50～15:45	伊勢学園	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	11
5月18日	水	13:50～15:10	菰野	佐々木			学校別説明会	3	さんぽう	8
5月18日	水	13:55～15:20	伊賀白鳳	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	6
5月21日	土	10:30～12:50	暁	佐々木			学校別説明会	3	さんぽう	7
5月25日	水	13:15～14:55	松阪工業	大橋			学校別説明会	3	さんぽう	2
5月25日	水	13:00～14:55	桑名北	竹内			学校別説明会	2・3	昭栄広報	12
5月25日	水	13:35～15:10	志摩	生駒			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	3
5月26日	木	14:00～15:20	一志学園	久保田			分野別指導理由書指導(保育)	3	さんぽう	2
5月26日	木	12:45～14:55	白山	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	5
6月1日	水	9:20～10:55	四日市農芸	久保田			学校別説明会	3	さんぽう	9
6月1日	水	13:05～14:55	鳥羽	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	3
6月3日	金	12:30～14:15	英心(伊勢観光文化会館)	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	4
6月8日	水	13:50～16:15	久居農林	久保田			学校別説明会・入試対策	3(1～3)	ライセンスアカデミー	6
6月8日	水	13:50～15:30	朝明	生駒			学校別説明会	3	さんぽう	6
6月8日	水	13:25～15:20	南伊勢(度会)	北川			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	2
6月14日	火	10:20～11:30	昴学園	久保田			分野別説明会(福祉)	2	ライセンスアカデミー	2
6月17日	金	12:35～14:00	昴学園	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー	3
6月22日	水	15:00～17:10	尾鷲(中央公民館)	生駒			学校別分科会	1～3	ライセンスアカデミー	10
6月22日	水	14:50～16:15	木本	藤山			学校別分科会	3	ライセンスアカデミー	3
7月13日	水	12:15～14:25	尾鷲	生駒	久保田		分野別説明会(保育・福祉)	2	さんぽう	10
7月19日	火	13:15～14:15	尾鷲	佐々木			分野別志望理由指導(保育)	3	さんぽう	3
8月29日	月	12:10～15:00	稲生	久保田			集団模擬面接指導(就職)	3	ライセンスアカデミー	–
10月20日	木	12:50～15:10	鈴鹿	佐々木	久保田		系統・分野別説明会(医療秘書、事務・福祉)	2	ライセンスアカデミー	8
~~11月15日~~	~~火~~	~~10:15～11:40~~	~~昴学園~~	~~佐々木~~	~~久保田~~		~~分野別説明会(保育・介護福祉)~~	~~2~~	~~さんぽう~~	中止
11月21日	月	11:05～12:45	鳥羽	久保田			分野別説明会(介護福祉)	2	ライセンスアカデミー	3
12月13日	火	11:05～12:30	暁	生駒			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー	3
12月14日	水	12:10～14:10	菰野	長倉			ちがいは講座(保育士・幼稚園教諭)		ライセンスアカデミー	34
12月14日	水	9:50～11:30	白山	大橋	藤山		学校見学	2	ライセンスアカデミー	15
12月15日	木	9:20～11:30	稲生(鈴鹿青少年センター)	佐々木			学校別分科会	2	ライセンスアカデミー	6
12月15日	木	11:30～12:50	稲生	佐々木			分野別説明会(保育・幼児教育)	1	JSコーポレーション	20
12月16日	金	9:30～10:35	四日市農芸	生駒	佐々木		マナー指導	2	さんぽう	39
~~12月16日~~	~~金~~	~~10:20～11:25~~	~~四日市農芸~~	~~佐々木~~			~~職業別説明会(介護福祉)~~	~~2~~	~~さんぽう~~	なし
12月19日	月	10:50～12:10	紀南	久保田			職業別説明会(介護福祉)	1	ライセンスアカデミー	2
12月20日	火	13:00～15:00	尾鷲(名古屋国際会議場)	佐々木			学校別説明会	2	さんぽう	2
12月21日	水	13:30～14:40	木本	久保田			系統別説明会	2	木本高校	2
12月22日	木	10:20～11:55	桑名北	佐々木	久保田		職業別説明会(経理・事務、介護福祉)	1	さんぽう	15
~~12月22日~~	~~木~~	~~11:40～12:40~~	~~桑名北~~	~~佐々木~~			~~学校別説明会~~	~~2~~	~~さんぽう~~	なし
~~1月25日~~	~~水~~	~~13:40～14:30~~	~~津工業~~	~~生駒~~			~~職業理解(保育・幼児教育系)~~	~~1~~	~~昭栄広報~~	~~3~~
1月27日	金	13:00～15:00	英心(伊勢観光文化会館)	久保田			系統別・分野別説明会(福祉)	2	ライセンスアカデミー	2
2月7日	火	9:20～11:25	伊勢学園	久保田			学校別説明会	2	さんぽう	36
2月14日	火	13:40～15:10	伊勢学園	佐々木			職業理解(保育・幼児教育系)	1	昭栄広報	19
2月14日	火	10:50～12:20	昴学園	久保田			分野別説明会(保育・介護)	2	さんぽう	16
2月16日	木	13:50～15:10	海星	竹内			職業別説明会(事務・秘書)	1	さんぽう	10
2月17日	金	12:45～14:30	朝明	佐々木			学校別説明会	1・2	昭栄広報	15
3月13日	月	10:50～12:10	紀南	久保田			分野別面接指導	2	さんぽう	4
3月13日	月	12:30～14:00	四日市農芸	佐々木			学校別説明会	1・2	さんぽう	1
3月14日	火	10:40～12:30	松阪工業	久保田			分野別説明会(保育)	2	昭栄広報	10
3月14日	火	10:50～12:00	久居農林	河内			職業別説明会	1	さんぽう	4
3月15日	水	10:00～12:10	松阪工業	久保田			分野別説明会(保育・介護)	1	さんぽう	8
3月15日	水	8:50～9:50	紀南(オンライン)	佐々木			分野別説明会(福祉)	2	ライセンスアカデミー	2
3月16日	木	9:30～11:50	四日市メリノール	北川			学校別説明会	2	さんぽう	7
3月17日	金	9:30～11:30	白山	中村			分野別体験授業(保育)	1	ライセンスアカデミー	8

会場ガイダンス

月日	曜	時間	会場	担当者	担当者		ガイダンス名	学年	主催	参加者
4月18日	月	13:45～18:15	四日市市総合体育館	久保田			会場ガイダンス	1～3	ライセンスアカデミー	7
4月25日	月	15:45～18:00	ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ響ﾎｰﾙ	佐々木			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	15
4月26日	火	15:45～18:00	アスト津	佐々木	久保田		会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	17
4月27日	水	15:30～18:30	四日市市文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3	日本ドリコム	2
5月24日	火	15:45～18:00	白子オーシャンテラス	久保田			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	5
5月31日	火	15:45～18:00	都ホテル四日市	佐々木			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	2
6月3日	金	13:55～18:15	サンアリーナ	大橋			会場ガイダンス	1～3	ライセンスアカデミー	23
7月12日	火	12:30～16:30	メッセウイング・みえ	久保田			会場ガイダンス	1～3	さんぽう	19
9月21日	水	15:40～18:00	アスト津	久保田			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	7
10月26日	水	15:40～18:00	都ホテル四日市	久保田			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	3
11月2日	水	14:30～17:30	白子オーシャンテラス	久保田			会場ガイダンス	1～3	さんぽう	2
11月9日	水	15:00～17:00	松阪商工会議所	佐々木			会場ガイダンス	1～3	さんぽう	8
11月14日	月	15:40～18:00	ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ響ﾎｰﾙ	佐々木			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	8
11月17日	木	15:45～18:00	白子オーシャンテラス	佐々木			会場ガイダンス	1～3	昭栄広報	2
12月16日	金	15:10～18:00	四日市総合体育館	久保田			会場ガイダンス	1～3	ライセンスアカデミー	7
2月8日	水	16:00～18:00	ｼﾝﾌｫﾆｱﾃｸﾉﾛｼﾞｰ響ﾎｰﾙ	佐々木			会場ガイダンス	1～3	日本ドリコム	10
3月16日	木	10:00～12:40	四日市ドーム	久保田			説明ブース	1～3	四日市ドーム	14
										151

日本語学校、留学生対象会場ガイダンス

月日	曜	時間	学校名	担当者	担当者		形式	対象	開催場所、主催	参加者
6月9日	木	10:10～16:00	ウインクあいち	久保田			日本留学フェア		ウインクあいち	3
9月30日	金	10:00～14:30	インターナショナル	久保田			学校内進路説明会		ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ日本学校	31

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

・(1)に挙がった課題を年度初めの委員会で確認する機会がなかったように思う。特にチラシやポスター、入学案内冊子などの紙媒体の広報ツールについては、今年度の委員会でも今後は方向転換（Web 活用）するべきとの議論があった。これら年次報告で挙がった課題を年度当初に精査し改善方策を協議しなければならないと思う。

・他校がガイダンス業者への契約金や参加に係る費用の単価をあげているため、特に保育の分野別ガイダンスの案内が減っているように感じる。引き続きガイダンス業者との友好な関係を築きつつ、協定校を中心に高校進路へも本学にある分野のガイダンスは指名で呼んでもらえるようお願いすることも必要だと感じる。（実際に指名で呼んでもらっている協定校もある。）

・高田高校への積極的な企画提案を行う。高校側からの要請に応じるだけでなく、短大側から企画を進路指導室や学年主任などに持ちかけることが必要ではないかと思われる。例えば「出前授業」「面接指導講座」「幼稚園・保育園見学」「介護施設見学」などを能動的主体的に提案し実施していく。限りなく大きなパイをみすみす逃しているように思えてならない。高校から短大へ進学してもらって当たり前の完成を払拭しなければならないと考える。

・高校訪問時に職員だけでなく教員が訪問した方がより高い効果が得られる高校や時期を模索し、職員と同行する回を設けてはどうか。

・高校訪問の実施時期や回数または担当において、見直す必要があると思われる。本学スタッフあるいは高校の先生の負担を考慮し、的確な訪問時期の設定を再検討したい。また、係の二人に偏り過ぎている担当者をもう少し教員も入れて無理のない担当配分にしたい。また、高校訪問の実施状況が思わしくない担当者へのフォロー体制をしっかりと構築し、訪問できていない状況が続いている

ことは回避したい。
・高校への訪問数、予算の削減により、入学者数増でなかった場合には、予算・労力を見直し、必要箇所には惜しまずかけていく。
・保護者目線での学生募集を行っていく必要がある。保護者が気になること、保護者が知りたいところ、保護者を引き付けるものは何かなどを検討し、募集活動全般に生かしたい。その一方で、高校生、社会人、高校教員、保護者など立場の違うもの各々に対応して、的確な募集活動を体系的に整理していく必要があるのではないかと考える。
・オープンキャンパスでの保護者対象の説明会の充実を図る。
・オープンキャンパスでの教職員のモチベーション維持向上を図る。せめて昼食を出してほしいという声をいくつか頂いた。
・学生広報スタッフの活躍の場を増やす。
・介護のガイダンスに行ける職員が不足しているように感じる。介護福祉コース教員数が限られていることから、入試広報係久保田さん以外の職員も対応できるとありがたい。
・介護福祉コースの「売り」になる内容を継続して考えていく必要がある。
・Web 出願について本格的に検討する。
・受験生、保護者が早期に出願先を決めてしまう傾向にあると言われている。オープンキャンパスへの参加などを通して様々な大学・短大から志望校を絞り込むのではなく、自分の知っている１～２の学校から選択する場合も多いようである。１年次から高校生、保護者と接触し、本学について知っていただけるよう戦略を練る必要があると思われる。
・高校生の４大指向が強まっている。短大の魅力や強みを明確にアピールする必要がある。

２．オープンキャンパス

(1)年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

①ブース内容の充実を図るため、非常勤講師への体験ブース依頼を検討する。
②教員の負担を減らすために、企画、内容を精査し効果が低いものの実施可否を検討する。
③オリジナルポロシャツ着用について、一部ではなく全員でという意見もあるが、オフィスワーク
　コースの場合、ボランティア学生のスーツ姿に対する保護者受けがよくイメージアップにもな
　っている部分もある。
④内容の重複を避けるためにも非常勤講師ブースを設けることも検討。武藤助教の退職に伴い、自
　然保育ブースの実施に関する調整が課題点としてあげられる。
⑤競合他校との徹底比較を行う必要がある。本学独自の魅力を伝えられるブース内容と、学内での

徹底的な情報共有を行う。少子化により参加者減は避けられないため、歩留まりの向上を目指す。
⑥８月前半は通常 OC に合わせて入試対策講座を実施し、８月後半は通常 OC を実施する。より出
願に繋がる時期での OC 開催に力を入れたい。
⑦オープンキャンパス周知のためのＤＭや広告など、あらたな方法を検討していく必要がある。

(2)(1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

①と④について

・非常勤や卒業生、保育園の協力により様々な体験ブースが実施できたのはよかった。次年度も継
続すべきだと感じた。
・非常勤講師に登壇してもらう機会を設けた。当日は新型コロナウイルス感染拡大の為オンライン
での実施にはなったが、スムーズに行うことが出来た。
・自然体験に関しては子ども学科入試委員で実施し、相変わらずの盛況であったと思われた。
・学外の方を迎えてのブースを行うことは、自ずと短大の教育資源の幅広さをアピールすることに
も繋がるので今後も多彩に行っていくとよいと考える。

②について

・子ども学科ブースとして「座学+ワークショップ」のスタイルで行った。実践と座学というメリ
ハリをつけたかったことを狙いとして、結果的にそのブースでの参加者の評価は高かった。

⑤について

・入試広報スタッフの任命を行ったことは、広報力の強化、学生目線の情報収集の強化などに寄与
できており、大きな前進であったと思う。
・学生ボランティアと事前打ち合わせを行い、高校生との交流の際に質問項目を予め準備した。ま
た、高校生との交流の際にはより話しやすい雰囲気づくりの為に、グループに分かれて対面しな
がら話せる環境作りを行った。

⑥について

・今年度は人数制限や参加をお断りすることなく全日程開催できたことはよかった。1・2 年生も
OC への参加が夏休みの宿題となっている学校も複数あり、8 月に 2 回実施した

のは参加者数か
　らみても有益だったと感じる。
③と⑦については特になし。
(3)(2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと
・学生広報スタッフの動員により全体会や一部のコース紹介でこれまでとは違った試みが実施で
　きた。また、各体験コーナーを高校生目線で見直し意見をもらうことで、より良いものにしてい
　くための流れがつくれた。
・ミニ OC 追加開催。内容はとてもよかったが、急遽計画したため募集期間が短かった。
・子ども学科の 7 月末のミニ OC を急遽実施した。参加生徒の評判は良かったようであるが、やは
　り無理があり結果的にも参加生徒が募集増につながったとは言えなかった。
・介護棟入り口付近は薄暗い雰囲気がある為、少しでも印象良く LED ランプを設置、装飾を施す
　等の対応を行った。
・入国制限があり対象者が限定的であったことより、当初少なかった。本年度卒業生がいる日本語
　学校に個別で臨時の留学生対象のオープンキャンパスを提案し、一定の参加者を確保すること
　ができた。また、その後の出願に誘導することができた。

(4)今年度１年間の活動、具体的内容
オープンキャンパス実施日（参加人数）
2022/6/4（99 名）、7/10（127 名）、8/6（221 名）、8/21（175 名）、10/29（7 名）、12/18（41 名）、
2023/3/12（未定）　※参加人数は保護者除く
【参考】学科別の参加人数（第 1 回から第 4 回まで）および過去 5 年の参加人数は下の図の通り。

		2018年（平成30）	2019年（令和元）	2020年（令和2）	2021年（令和3）	2022年（令和4）	うち2023卒
子ども学科	第1回	130	118	96	88	77	58
	第2回	169	115	140	123	80	72
	第3回			97	85	135	99
	第4回				60	124	39
	ミニ1					11	6
	ミニ2					21	17
小計		299	233	333	356	448	291
キャリア育成学科 オフィスワークコース	第1回	47	41	36	24	16	15
	第2回	63	39	40	33	29	28
	第3回			35	20	63	45
	第4回				26	42	20
小計		110	80	111	103	150	108
キャリア育成学科 介護福祉コース	第1回	7	19	5	4	6	6
	第2回	30	0	27	15	18	13
	第3回			10	6	23	16
	第4回				6	9	2
小計		37	19	42	31	56	37
第1回小計		184	178	137	116	99	79
第2回小計		262	154	207	171	127	113
第3回小計				142	111	221	160
第4回小計				0	92	175	61
合計		446	332	486	490	654	436
翌年の子ども学科入学者数		124	129	190	158		
翌年のキャリア育成学科オフィスワークコース入学者数		64	68	69	61		
翌年のキャリア育成学科介護福祉コース入学者数		32	26	24	31		

(5)　次年度に向けた課題、改善すべき点

①広報に関すること

・高校や高校生に向けて配布しているイベントチラシ等については教員に事前に共有してほしい。

・各回の具体的内容を早い段階でチラシやホームページに公開し、各種イベントへの参加をを促す。

・オープンキャンパス準備風景もインスタ等で頻繁にアップできると良い。

・これからの広報の方向性を決める。限られた予算と人員でいかにアピールするか、ターゲットと
　する若年層の情報キャッチの方法と嗜好性を捉えた広報の検討。＊紙よりネット・SNS

・広報の対象の拡大。社会人、委託訓練入試も意識した広報の検討。

②ブースに関すること

・参加アンケートのコメント等を参考にした上でのブース案の検討・検証も必要。

・保護者企画の充実検討。短大側の企画の意図を明確にするとともに保護者のニーズも捉えた内容、
　広報の方法（気軽に参加しやすい等）の検討。

・学科と入試広報課との連携による内容充実。

③学生と連携したOC

・学生広報スタッフを中心に学生への意見聴取を行うことも含め、高校生が求める内容、参加者目

線の内容の検討が必要。
・学生主体のオープンキャンパスをさらに意識した企画や実施方法の検討。

3．入試検討･追跡調査

(1)年度当初に把握していた課題(昨年度から引き継いだ課題)

・総合型２次選抜における出題内容・方法の再検討
・試験会場の事前清掃・会場整備の徹底（本学の外的な評価にも繋がるため)。
・早期の留学生入試実施の継続化。
・日本語学校教員との連携による、留学生に関する情報共有。
・社会人入試、一般入試面接試験における、自由度の高い質問への変更等検討。
・試験時間の検討（例：小論文…高校生 60 分／社会人 50 分の妥当性等)。

(2)(1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・社会人入試面接においては、規定の質問の後、「より具体的に」などの質問を加えたことにより、学びへの意欲や能力等を評価することができた。
・外国人留学生入試の早期化により、今年度も一定数の学生を確保することができたと考える。
・９月の留学生入試Ⅰ期が出願なしとなり、Ⅱ期とⅢ期に出願が集中する結果となった。本年度は
入国制限が要因と考えられるが、次年度はⅠ期の出願が主となると思われ、現状の入試スケジュ
ールが適切だと考える。
・総合型選抜 2 次選考「小論文」の試験時間を 60 分に統一（次年度入試より実施予定)。

(3)(2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・委託訓練入試を 1 回追加しⅠ期からⅢ期とした（それにあわせて試験問題も追加作成)。
・例年実施していた入試対策特別委員会を今年度は運営会議の中で実施した。

(4)今年度の活動、具体的内容

・高校訪問、オープンキャンパス、各所ガイダンス時の説明(年間)
・入試問題作成者委嘱(4-5 月)
・総合型選抜入試対策講座(8 月)
・入試問題検討会議(8 月)
・指定校推薦エントリー数に関する高等学校ヒアリング(9 月～)

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

・ 社会人入試の面接には総合型と同様、自由に質問する形にしてはどうか。または質問数はそのまま、自由に質問する時間を多くとってもよいとするなど。

・　次年度は在日外国人の出願増が予想され、日本人入学者数との兼ね合いも考え留学生を確保する。
・　試験会場の事前清掃については、机の中に菓子のゴミや忘れ物（折り畳み傘）が目立った。
・　留学生入試における選択問題の検討。簡単な問題でも良いので記述式を中心とした問題作成。
・　今後、更に拡大することが予想される委託訓練入試については、受験者の意向及び他の養成校の入試手法を勘案の上、入試方法の見直しを検討する。
・　入試担当者事前打ち合わせの時期や方法を変更・簡略化する。時期は少なくても出願締め切り後にするべき。

４．高大教育交流

(1)年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

・コロナの感染が再拡大した場合の、代替案の用意。
・高大教育交流連絡協議会における実施方法・内容等の精査・検討
・高校生が本学の通常授業を観覧できる機会の検討。
・高校教員に対する広報活動の検討・計画・実施（生徒向けとは別に）
・介護福祉分野に興味のある生徒対象の介護施設見学バスツアー実施
・その他、高校側のニーズの把握、それに基づく新規事業の積極的な検討・実施。

(2)(1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・現在行っている高大教育交流事業について、実施していない高校にも提案を行った。新たに実施に至ったものは少なかったが、引き続き提案を行っていきたい。
・高大教育交流連絡協議会は対面で実施した。また、昨年度に引き続き、高校教員に本学を知ってもらうという目的で学科（コース）の内容の紹介を行った。
・高校教員との関係性が築けてきて、高校側のニーズの聞き取りなども以前より行えたと感じる。
　今後はそういった情報を学内で共有するだけでなく、具体的な実施に向けて委員会などで検討
　していきたい。

(3)(2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・ここ数年継続して行っている高大教育交流事業でも、内容をブラッシュアップしたり回数を増やしたりした。

(4)今年度１年間の活動、具体的内容

・出前授業、本学での特別授業の実施（年間通じ約 40 回）
・本学、高校内、会場ガイダンスの実施（年間通じ約 120 回）
・保護者会への出席（2 回）

・面接対策講座の実施（4 校）
・個別面接指導の実施（1 校）
・幼稚園見学バスツアー（1 校）
・総合型選抜対策講座（4 校）
・就職希望者向け面接対策（3 校）
・高大教育交流連絡協議会開催（2 月）
※体験授業、ガイダンスの分野の内訳（保育約 55 件、ビジネス系約 20 件、介護約 25 件）

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

・特に高校生が通常授業を見学できる機会や高校教員への広報活動。
・「高校生への接触・広報」と「高校教員への接触・広報」の整理や役割分担、実施方法の検討。
・学生の成長事例の収集・把握をした上で、高校へのフィードバック。
・子ども学科の自然保育の取組みに関心のある学生の募集という観点から、例えば、四日市農芸、久居農林など自然や森林教育に近いコースに在籍する生徒を巻き込んだ取組みを本学の森で実施することの検討。
・介護福祉分野に興味のある生徒対象の介護施設見学バスツアーを実施するのであれば、どのような内容で行うのかを精査する必要があると感じる。高齢者施設は感染予防対策が厳しいため施設内見学はまだまだ難しい状況にある。食事体験を実施するのであれば、外国人留学生は宗教上の問題で食べられない物が多く、事前の把握が難しい。
・高大教育交流連絡協議会のスケジュールがタイトすぎるので検討の必要がある。

5．ホームページ・SNS

(1)年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

・SNS については、引き続き動きのある科目や演習科目を中心にピックアップし、事前に入試広報課に伝え、情報発信に繋げる。
・高短生アンケート結果では、入学前のホームページ閲覧への数値結果が高い。コース独自の活動報告も依頼をしたら早めにアップしていただきたい。また他大のデザインを模すだけでなく、本学ならではの情報と魅力が伝わる表現方法も意識刷る必要があるのではないか。
・インスタ記事の中で、すべての写真でマスクをせず子ども達とふれあっているものがあった。先方からの許可があるので本学としては OK、という判断で Web 発信してしまうのは危険ではないかと感じた。（現に記事を見た知り合いから「大丈夫なんですか、これ」と指摘されました）
・SNS の更新に際し、高校生が興味のある内容について学生の意見や記事を取り入れていきたい。
・公式ホームページ更新に係るルールやガイドライン作成が課題。
・SEO 対策や流入数、滞在時間を分析し、プレビュー数の多いページを重点的に改善する。

・受験生向け特設ページを開設し、受験情報を一元化する。
・高校生目線でのサイト作成のため、大規模なレイアウト変更も検討する。

(2)(1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

①SNS に関して
・学生広報スタッフから写真や動画をもらい、回数は少ないが新たにストーリーズへの投稿も行い、
よりフォロワーの目につきやすいようにした。
・例年より動画記事を増加させた。固い印象を与えるのではなく、POP な印象を与えることがで
きる動画もいくつか登校できた。
・授業風景などを前年度より積極的にインスタグラム等に掲載できるよう、入試広報課と連携した。
・演習の授業を屋外で行った際、撮影ができたことは良かった。
②WEB ページの改善について
・プレビュー数の多いページや重要ページ、特設ページへの導線を短くし、流入増加を図った。特
に訴求力の強い学科ページについては重点的に内容改善も図った。
・各学科コースの TOP ページを充実化した。内容についても頻繁にブラッシュアップを行った。
・自然保育特設ページでは、本学ならではの自然保育の学び、魅力的な実施内容の訴求を行った。

(3)(2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・ホームページの入試情報に学生が高校時代に行った入試対策や現在の学校生活についての体験
談を掲載しオープンキャンパスでも周知した。
・就職、入試、キャンパスライフ、自然保育の特設ページを新たに設置した。
・公式 WEB について、TOP ページから各特設ページへ直接流入できる導線（大型バナー）設置。

(4)今年度１年間の活動、具体的内容

・公式 WEB 記載内容の更新（平均 5～10 回/月）
・TOP ページ新着情報更新 54 件
・インスタ更新 57 件（2/16 現在）
・フェイスブック 45 件
・HP 更新 51 件

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

・ 学生広報スタッフからの写真や動画の提供をさらに増やし、ストーリーズも活

用していきたい。
- SNS の更新に際し、高校生が興味のある内容を学生広報スタッフの意見も多く取り入れて行う。
- インスタグラム掲載を学生広報スタッフが行うことで、より早く掲載ができるのではないか。
- SNS について、動きのある科目や演習科目を中心に掲載できるよう心掛けてきたが、広報的にどのような内容が求められているのかがわからなかった。その辺り、学生の意見も取り入れられると良いと感じる。高校生、学生へ訴求力が高いメディアとして、インターネット、SNS を重点的に使用することは必須であろう。すでに年度当初の課題に挙がっているが、学生目線の発信内容、高校生目線に立ってより伝わりやすい方策（ＳＮＳ活用含め）を継続的に検討する必要がある。学生の広報スタッフの活用や学生の意見聴取を行いながら、情報発信にかかわる SNS 使用にあたってのガイドライン作成などは急務であろう。
- SNS および公式 WEB については、メインターゲットである高校生目線での発信が重要である。
- 公式 WEB について、導線の簡略化と情報の一元化が必須である。現在多階層にわたって掲載されている各種情報についてグループ分けののち一元化を行う。
- 公式 WEB の TOP ページについて、情報の充実化と現代的なページレイアウトへの刷新を図る。受験生向け特設ページも新規開設し、そこに受験生情報を一元化することが効果的である。

６．大学案内

(1)　年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- 介護福祉コースは日本人学生も増えることから、より多くの学生撮影およびコメントを掲載し、魅力ある内容としたい。
- モデル学生の人数が多く、撮影に苦労した。特に今年度は学祭が延期に伴い撮影日が休日になってしまい、1 人 10 分程度で終わる撮影のために多くの学生にわざわざ登校してもらう必要があったのは反省点である（当初は学祭準備日の平日を予定)。次年度はもう少し人数を絞り、メインの撮影以外は平日に実施できるようにしたい。
- コロナにより各種学校イベントが中止になっていることから、掲載できる情報、写真等が減少してしまった。学校行事に頼らない、日常生活からの情報発信を検討していく必要があるのでは。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- モデル選出には、事務局と連携を取り人選を行っている。ゼミ生以外の学生とも普段から関わることにより、的確な学生情報を提供しつつ人選を行う事ができた。
- 介護福祉コースは日本人学生の増加に伴い、写真の掲載箇所が増え、よりイメ

ージが出来やすかったと感じる。何度も同じ学生が登場するのではないので、印象も良いのではないかと思う。

・ 表紙などのメインの撮影以外は平日に実施し、なるべく学生の負担にならないよう進められた。
・ 授業撮影の際、モデルとなっている学生を主として撮影したため効率よく進められた。

(3) (2) で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・ゼミ生からの選出が多かったため、調整もスムーズであった。
・学生からよく見た内容を聞き取り、2 年生就職内定者の掲載を増やした。

(4)今年度 1 年間の活動、具体的内容

5 月　学生モデルの選定、TJC 祭撮影
6 月　学生モデルから承諾書回収
7 月　イメージ原稿の確認、表紙や学科扉の撮影
8 月　オフィス、介護実習撮影、OC 撮影
10 月　学生、高短祭の撮影
11 月　保育実習、卒業生、授業の撮影
12 月　授業風景、学生の撮影
1 月　学生の撮影
2 月　1 稿回覧
3 月　2 稿、最終稿提出、印刷
（4 月中旬完成予定）

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

・本学は女子学生の数が圧倒的に多いのは事実であるが、男子学生にも着目してもよい。
・介護福祉コースは日本人も掲載しつつ、多様性のあるコースである魅力も発信できると良い。
・（あくまでも日本人向けではあるが）現場で活躍する外国人留学生を掲載しても良いのではないかと考える。
・全体のイメージラフの提出が遅く、担当者との会議や学生たちの意見を聞く機会が遅れた。次年度は遅くともメインの撮影までには全体のラフをもらい進めるようにしたい。

X

キャリア支援委員会

年次報告書

委員長　山本　敦子

Ⅰ．昨年までの課題

1．学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

（子）1年生の就職ガイダンスについて、目的に応じた方法を検討する。

（オ）講座および関連授業を通じ、就活に必要な知識、情報の提供をコンスタントに実施する。

（介）1年次の就職講座から自身の進路に対して意識づけを図る。

2．個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

（子）2年生190名への多様な就職・進路希望への対応を可能な限り行う。

（子）マナバの積極的な活用により、全体的・個別的な支援機会の充実を図る。

（オ）1年生を対象としたキャリア支援センターサポーターによる個別面談実施。

（オ）コロナ禍によるWeb面接、Web説明会への対応。

（介）留学生への報告、連絡、相談、質問の整理方法等の指導を強化する。
介護分野以外の就職支援に際し、センター・コースとの連携を維持強化する。

3．就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

（全）各学科・コースの講座・授業において必要な内容を計画し、実施する。

4．就職講座への参加率の向上

（オ）紙ベースでの案内、掲示に加え、マナバでの情報発信を活用する。

（介）ゼミ担当教員を通してコース全体で講座への参加を呼び掛ける。

5．キャリア支援センターとの連携・情報共有

（子・オ）委員会前の学科・コース別ミーティングにおいて情報共有を継続する。

6．課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

（全）保護者や学内外の専門部署との連携により総合的、適切な支援を提供する。

7．卒業後の状況把握、支援

（オ）令和3年度より実施の方法（5月状況把握、8/9月進路先訪問）を継続する。

8．外部機関との連携

（介）実習巡回等の機会を活用し、奨学金対象施設との連携を強化する。

Ⅱ．本年度改善されたこと

1．学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

（子）1年生の第2回就職ガイダンスでの「先輩の就活体験談」の動画活用により、就職先ごとの就活方法の違いについて学生の関心や理解を効果的に促せた。

（オ）Web面接、Web説明への対応について講座に付け加えた。また、Web面接、Web説明会の際に教室の貸し出しを行った。

（介）1 年次から毎回の就職講座にて進路希望アンケートを実施。個々の学生の希望を早期把握することができ、学生自身の進路への意識づけに繋がった。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

（子）就職・進路先選択、就活状況、受験準備について、学科教員にも、遠隔授業期間中の学生への聞き取りや相談対応など、協力を仰ぎながら進めた。

（子）講座や授業の案内、受講前後のアンケート実施等、全体的な連絡の際にマナバを活用した。個別的な連絡の際には個人指導コレクションを活用した。

（オ）就職講座の回数を増やし、個々の進捗状況に応じて、必要なタイミングで必要な情報が得られる体制に変更した。

（介）留学生に対しては留学生支援室と連携し、情報共有を密に行った。介護分野以外の就職支援においては、介護以外の進路変更を決めた段階でキャリア支援センターと連携し、支援を行った。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

（全）各学科・コースの講座・授業において必要な内容を計画し、実施した。

4. 就職講座への参加率の向上

（オ）開催日程に配慮し、学生が参加しやすい日時で計画し、実施した。

（介）留学生は 1・2 年ともに早期に就職先が決定した為、就職講座には参加していないが、日本人学生については全員が毎回参加し出席率が高かった。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

（子・オ）委員会前の学科・コース別ミーティングにおいて情報共有を行った。

（子）1 年次 3 月以降の公立園での自主実習・見学希望学生に対し、キャリア支援委員による聞き取りや、センターによる市町への依頼の体制を整えた。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

（全）学生支援委員会の立ち上げにより、課題のある学生や配慮の必要な学生に対する情報共有の機会が持たれ、外部機関との連携により適職検査の実施により、当該学生への支援を適切に進めることができた。

7. 卒業後の状況把握、支援

（オ）コロナウィルスの感染拡大を理由とした訪問の中止の件数が減少し、対面での状況把握の件数が増加した。

8. 外部機関との連携

（介）奨学金対象施設との連携においては留学生支援室からの情報を受け、コース内で情報共有を行った。

Ⅲ．新たな課題

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

（オ）入学段階から学修意欲、勤労意欲の低い学生が目立ち、就職支援以前に、卒業用件を満たすことを優先さなくてはいけないケースの増加。

（介）日本人学生の比率増加により、個々への意識づけと早期把握が必要となる。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

（子）公務員採用試験の実施時期の早期化や分散化、施設実習中の遠隔授業期間に就職活動（自主実習や見学）を行う習慣が定着しつつある。小規模保育（院内保育含む）や放課後デイサービスなどへの就職志望者が一定数見受けられることや、県外の保育職への就職志望者が若干増加している。就活の停滞している学生がキャリア支援センターからのメッセージ発信に応答しないケースも見られ、学生支援委員会にも情報提供がなされた。

（オ）キャリア支援以前の、学生生活全般に対する指導・支援（学生支援）の充実の必要な学生の増加。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

（オ）講座内容、授業内容の体系的な組み立て。

4. 就職講座への参加率の向上

（オ）講座の授業化により本課題は一部解消される。面接練習等への参加意欲喚起。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

（子・オ）キャリア支援関連の講座の授業化により、学生の受講意識やキャリア形成への向上が期待されるが、教員への負担増加も一部懸念される。

（全）学生支援、キャリア支援に対する認識の統一。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

（子）免許・資格の取得を辞退（断念）する学生が例年より多く見受けられた。結果、保育職の正規採用から保育補助に変更せざるを得ないケースや、保育職外のアルバイトに従事するケースが目立った。これらは 2 年生後期に発覚することも多く、早期の支援が難しい状態である。

（オ）他の委員会、事務局などとの連携強化

7. 卒業後の状況把握、支援

（子）卒業生について、実習の受け入れ園以外（企業含む）に就職した学生や在学時に課題があった新卒生の勤務状況の把握や情報共有を行う機会が少ない。

（オ）個人情報保護などの理由による、企業側の教員訪問に対する意識の多様化。

8. 外部機関との連携
（オ）ハローワーク、労働局などとの連携強化、情報共有。

Ⅳ. 次年度取り組むべきこと

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ
（オ）ゼミナールや授業などでの活動内容の見直しによる、学生の主体性の向上。
（介）進学希望の学生への早期対策。1 年生への進路希望アンケートの継続実施。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施
（子）進路希望調査や授業・講座でのアンケートの記入内容を読み取り質問には返答することで、個々の学生の内容理解、意識向上へとつなげる。学生がキャリア支援センターを早期から身近に感じられるようなアプローチも必要である。
（オ）学生支援委員会との連携により、個別の支援ニーズの早期把握と早期対応。
（介）就職講座時には引き続き進路調査アンケートを行い、個別面談に繋げていく。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援
（全）各学科・コースの講座・授業において必要な内容を計画し、実施する。
（オ）講座内容、授業内容の体系的な組み立てにより、効果の最大化を図る。

4. 就職講座への参加率の向上
（オ）授業、講座、面接練習を総じて参加意欲や意義を感じられる内容の検討。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有
（子・オ）委員会前ミーティングの継続実施により、情報共有や業務分担に努める。
（全）学生支援、キャリア支援に対する役割認識の統一。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化
（全）学生のキャリア形成や進路就職先選択に関わる課題が見受けられれば、学年を問わず、委員会前ミーティング、学科会議でも積極的に情報提供・共有を図り、必要に応じて、学生支援委員会や事務局との連携下で議論を進めること。

7. 卒業後の状況把握、支援
（子）卒業生の勤務状況の把握や情報共有の機会を可能な限り設けること。事前ミーティングで卒業生に関する話題提供の場を設ける、卒業生就職先調査の結果や卒業生のキャリア支援センター利用状況を学科内で共有する、など。
（オ）訪問に拘らず、タイムリーに状況把握できる体制の確立。
（介）卒業生が就職した施設には実習巡回等の機会を活用し、聴き取りを行う。

8. 外部機関との連携

（オ）ハローワーク、労働局などとの連携により、課題のある学生支援、卒業後の就労支援などの強化。

ＸＩ

図書委員会

年次報告書

委員長　大野　照文

Ⅰ　令和４年度会議日程と主な議題

第 1 回　図書委員会

日時　令和４年４月４日(月)　10：00～場所　図書館内館長室

〈協議事項〉

1　令和 4 年度の課題について
2　令和 4 年度図書委員会の開催日程(案)について
3　令和 4 年度図書委員会役割分担(案)について
4　令和 4 年度図書委員会の予算について
5　令和 4 年度図書館資料費配分方法の検討
6「高田短期大学通信」57 号について
7　令和 4 年度公開講座について
8　令和 4 年度図書館公開講座について
9「高田短期大学紀要」について
10「図書館だより」第 56 号について
11 令和 4 年度図書館メイトの活動について
12 非常勤講師への授業参考図書についてのアンケートに
13 その他

〈報告事項〉

1　「コミュニティカレッジ 2022」について
2　その他

第 2 回　図書委員会

日時　令和 4 年 5 月 16 日(月)　9 時～場所　図書館館長室

〈協議事項〉

1　令和４年度図書予算について（・推薦図書・テーマ図書）
2　令和 4 年度公開講座および図書館公開講座について
3　「高田短期大学紀要」について
4　医学中央雑誌の著者抄録許諾契約書について
5　その他

〈報告事項〉

1. 図書館利用状況について（4 月）
2. 図書館メイトの活動について
3. 「短大通信」について
4. 図書館だよりについて
5. その他

第3回　図書委員会
日時　令和4年6月13日(月)　9：00～場所　図書館内館長室
〈協議事項〉
1. 創作作品展について
2. 「図書館だより」第56号について
3. 公開講座について
(1)役割分担
(2)申込状況
(3)学生アシスタント料
4.　図書館公開講座について
(1)申込状況
(2)受講者への図書貸出
5.　次年度外国雑誌について
6.　図書館システム（おすすめ図書の掲載）について
7.　新書の購入について
8.　その他
〈報告事項〉
1　IT コンシェルジュの状況について
2　図書館利用状況について（5月）
3　図書館メイトについて
4　非常勤講師の方の利用者カードについて
5　未返却者への対応について
6　その他

第4回　図書委員会
日時　令和4年7月11日(月)　9：00～場所　図書館内館長室
〈協議事項〉
1　学長公開講座の準備について
2　創作作品展について
3　「高田短期大学通信」第57号の反省について
4　新書の購入について
5　図書館システム（おすすめ図書の掲載）について(2)
6　三重県図書館協議会の助成金事業について
7　学外の方の図書館利用について
8　その他
〈報告事項〉
1　図書館利用状況について（6月）
1　「図書館だより」第57号の原稿依頼について
2　公開講座について
3　アカデミックセミナーについて

4　テーマ図書、推薦図書について
5　夏休みの長期貸出及び閉館について　　　　　　資料 22
6　医学中央雑誌刊行会との著者抄録利用許諾契約について
7　その他

第５回　図書委員会
日時　令和４年９月 26 日(月)　9：00～場所　図書館内館長室
〈協議事項〉
1　後期の推薦図書について
2　新書の購入について
3　創作作品展、雑誌リサイクルについて
4　次年度の「高田短期大学通信」について
5　その他
〈報告事項〉
1　「高田短期大学紀要」第 41 号について
2　公開講座について
3　令和４年度講読の外国雑誌
4　図書館の利用状況（７～８月）について
5　「図書館だより」について
6　図書館メイトについて
7　研修報告について
8　その他

第６回　図書委員会
日時　令和４年 11 月 7 日(月)　9：00～場所　図書館内館長室
〈協議事項〉
1　「高田短期大学紀要」第 41 号について
2　次年度推薦図書の配分方法について
3　令和 5 年度の公開講座について
4　「高田短期大学通信」第 58 号について
5　創作作品展の投票結果について
6　その他
〈報告事項〉
1　公開講座について
2　「図書館だより」第 57 号について
3　冬期休業中の開館について
4　令和５年度講読の外国雑誌について
5　図書館予算執行状況について
6　図書館の利用状況（９～１０月）
7　図書館メイトの活動について　　　　　　　　その他

第７回　図書委員会

日時　令和４年 12 月 14 日(水)　９：00～場所　図書館内館長室

〈協議事項〉

1　「高田短期大学紀要」第 41 号について
2　次年度推薦図書の配分方法について
3　令和５年度予算案について
4　令和５年度公開講座の計画について
5　その他

〈報告事項〉

1　図書館利用状況について（11 月）
2　年度末の開館日程について
3　その他

第８回　図書委員会

日時　令和５年１月 16 日(月)　９：00～場所　図書館内館長室

〈協議事項〉

1　令和５年度予算案について
2　令和５年度「短大通信」のレイアウトについて
3　図書予算の執行状況について
4　令和５年度公開講座の計画について
5　アカデミックセミナー2023 について
6　その他
　(1)図書館メイト反省会
　(2)その他

〈報告事項〉

1　図書館利用状況について（12 月）
2　紀要校正作業日程
3　その他

第９回　図書委員会

日時　令和５年２月 13 日(月)　９：00～場所　図書館内館長室

〈協議事項〉

1　「短大通信」の反省と来年度の準備について
2　「コミュニティカレッジ 2023」スケジュールについて
3　2022 年度の年次報告について
4　図書予算の執行状況について
・オンライン新聞データベース、切抜き速報等
5　公開講座について
　(1) 短大公開講座
　(2) 図書館公開講座

6 ホームページの年度末更新について
7 図書の整理について
8 その他
〈報告事項〉
1 「高田短期大学紀要」校正スケジュールについて
2 アカデミックセミナーについて
3 年度末の特別貸出について
4 図書館利用状況について（1 月）
5 図書館メイトのアンケートについて
6 その他

第 10 回　図書委員会
日時　令和 5 年 3 月 6 日(月)　9：00～
場所　図書館内館長室
〈協議事項〉
1. 次年度の図書館開館スケジュールについて
2. 令和 5 年度特別貸出スケジュールについて
3. 新入生オリエンテーションについて
4. 「短大通信」第 58 号の紙面構成及び執筆者について
5. 令和 5 年度公開講座について
6. 一般利用者の利用、座席数の制限について
7. 推薦図書の執行について
8. その他
(1)本の整理について
〈報告事項〉
1. 令和 5 年度予算の確認について
2. 機関リポジトリについて
3. 図書館利用状況について（4～2 月）
4. 2022 年度予算執行報告について
5. 蔵書点検と臨時閉館について
6. その他
(1)図書館利用者カードについて
(2)休刊の雑誌について

Ⅱ 令和 4 年度委員会運営体制

1. 委員会構成

委員長：大野　照文

委員：亀澤　朋恵（子ども学科）、日下　清佳（キャリア育成学科）、古　幸弘（図書館）

庶務担当：西尾　綾（図書館）

2. 委員の役割分担（第 1 回委員会で承認）

短大紀要	主担当（大野）	副担当（亀澤・日下）	事務主担当（瀬古）
短大通信	主担当（亀澤）	副担当（日下）	事務主担当（西尾）
公開講座	主担当（亀澤）	副担当（日下）	事務主担当（瀬古）
図書館だより	主担当（日下）	副担当（亀澤）	事務主担当（瀬古）
創作作品展	主担当（日下）	副担当（亀澤）	事務主担当（西尾）
図書館活性化（ラーニング・コモンズ、図書館メイト）	主担当（大野）	副担当（亀澤・日下）	事務主担当（瀬古） （西尾）

3. 2022 年度図書館資料費は以下のように決定された

	令和４年度	令和３年度（参考）
子ども学科	2,368,000	2.208,000
キャリア育成学科	1,904,000	1,864,000
合計	4,272,000	4,07200

Ⅲ　委員会活動と主な成果

1. 図書館運営に関すること

(1)選定図書に関すること

テーマ図書のテーマ及び配分は、図書委員会より各学科コースへ推薦を依頼。

〈選定スケジュール〉

1)テーマ図書の締切は、10 月末日とする。

2)教員推薦図書に関しては、教員一人あたり 4 万円分を前期締め切りとして 8 月末日までに選定。後期は 9 月中に予算金額を告知したうえで、12 月 16 日（金）に締め切る。

図書予算枠でDVD購入可能なことを改めて図書館側から告知。

3)高額の図書や著作権処理済みの DVD を購入するために、前後期合わせた額を前期に消費してもよいこと、複数の教員がそれぞれの予算枠を合算して使用してもよいことが図書館側から告知された。

(2)令和４年度蔵書状況・受入冊数状況

蔵書の状況は、次の通りである（図書館以外の保管図書を除く）。

和書(冊)	洋書(冊)	雑誌(種)	視聴覚資料(点)
50,565	2,641	524	1,832

令和4年度の受け入れ冊数は､図書668件､絵本52件､視聴覚資料29件､合計749件であった。

	和書(冊)	洋書(冊)	視聴覚資料(点)	合計
R4	718	2	29	749
R3	859	0	19	859
R2	736	1	32	769
R1	663	1	54	718
H30	949	12	49	1010
H29	913	5	31	949
H28	726	0	37	763
H27	904	0	13	917
H26	626	0	49	675
H25	863	0	24	887
H24	822	1	17	840
H23	1085	2	72	1159

年間受け入れ雑誌数の推移は次の通りである。

	和雑誌	洋雑誌	白書等	合計
R4	86	7	31	124
R3	84	8	33	125
R2	87	8	38	133
R1	82	9	36	127
H30	82	9	38	129

(3)図書館の利用状況

①令和４年度の図書利用状況

図書の貸し出し冊数の状況、入館者数の状況は、次の通りである。

【図書貸出統計】(のべ貸出冊数)

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
子ども学科1年	159	70	169	119	181	22	8	41	223	79	156	136	8	1212	7.6	999	25	11	0
子ども学科2年	191	103	58	48	90	94	45	147	50	45	37	14	0	731	3.8	587	0	3	0
キャリア育成学科 ｵﾌｨｽﾜｰｸｺｰｽ1年	61	1	28	20	4	0	0	0	0	1	1	0	0	55	0.9	65	1	0	2
キャリア育成学科 ｵﾌｨｽﾜｰｸｺｰｽ2年	69	1	0	35	15	0	0	16	24	14	1	11	4	121	1.8	107	0	0	0
キャリア育成学科 介護福祉ｺｰｽ1年	30	12	44	25	8	5	11	8	17	8	1	2	0	141	4.7	47	0	0	0
キャリア育成学科 介護福祉ｺｰｽ2年	24	1	4	6	0	0	0	10	4	3	1	0	0	29	1.2	11	0	0	0
合計	534	188	303	253	298	121	64	222	318	150	197	163	12	2289	4.3	1816	26	14	2

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
教職員	141	69	45	81	102	63	68	70	78	79	52	71	40	818	5.8	1024	61	78	34

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
一般利用者(団体含む)		20	10	21	10	9	19	8	10	1	8	7	1	124		30	7	3	1

【未登録図書貸出統計】(のべ貸出冊数) ※未登録図書貸出統計は、令和4年6月から開始(基準は図書返却時)。

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り
子ども学科1年	159			1	8	0	0	2	0	0	0	0	0	11	0.1
子ども学科2年	191			5	0	3	4	1	1	0	0	0	0	14	0.1
キャリア育成学科 ｵﾌｨｽﾜｰｸｺｰｽ1年	61			2	1	0	0	4	3	3	3	2	0	18	0.3
キャリア育成学科 ｵﾌｨｽﾜｰｸｺｰｽ2年	69			2	2	3	0	1	1	0	0	0	1	10	0.1
キャリア育成学科 介護福祉ｺｰｽ1年	30			0	0	1	4	2	9	1	0	2	0	19	0.6
キャリア育成学科 介護福祉ｺｰｽ2年	24			0	0	0	0	1	0	4	2	2	0	9	0.4
合計	534			10	11	7	8	11	14	8	5	6	1	81	0.2

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り
教職員	141			0	4	5	7	3	7	0	2	2	4	34	0.2

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	一人当り
一般利用者(団体含む)				0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	

※今年度 6 月より未登録図書の統計を開始。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のこと。返却日を基準とした統計となっている。

②図書館への入場者数・ラーニングコモンズの利用回数

【入館者数】(のべ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	当一り人	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
全体	2296	2415	2482	2365	1302	1426	2259	1896	1872	1890	1496	768	22467		22103	800	1232	710
うち一般利用者	6	2	3	9	3	17	5	1	3	0	3	2	54		34	2	0	3

【ラーニング・コモンズの利用】（利用回数）　※ラーニング・コモンズの利用統計は、平成25年10月から開始。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	当一り人	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
GWエリア	授業、ゼミ、補講等	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	7		12	0	0	0
	クラブ、自治会等	1	4	0	1	0	1	4	1	0	0	1	1	14		6	1	0	0
	会議･学内講座等	1	1	1	0	1	1	6	0	2	1	1	2	17		12	1	1	2
	説明会･公開講座等		1	2	1	1	1	2	1	2	0	2	0	13		5	1	0	0
ﾌﾟﾚｾﾞﾝ	授業等(自習･応接含む)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3		1	1	0	0
ﾗｳﾝｼﾞ	モニター利用	0	0	0	0	1	14	0	0	0	2	0	0	17		13	0	2	0
合計※		5	8	4	3	3	18	13	3	4	3	4	3	54	0	36	4	3	2

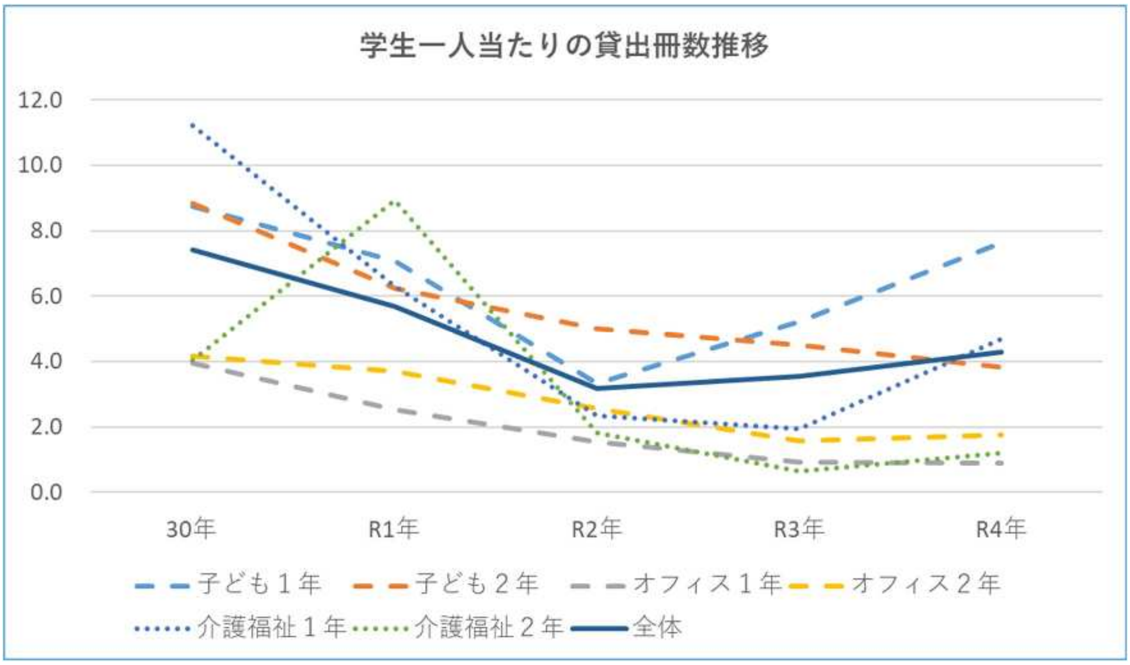
※　GWエリアおよびプレゼンテーションエリア利用の合計。

③学生への図書貸出し数と経年推移

学生の図書貸出冊数の推移（平成30年4月～令和5年3月23日）

			平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
子ども	1年	貸出冊数	1397	878	437	999	1212
		学生人数	160	124	131	191	159
		一人当たり	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6
	2年	貸出冊数	1421	995	589	587	731
		学生人数	161	159	118	130	191
		一人当たり	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8
オフィス	1年	貸出冊数	285	163	107	65	55
		学生人数	72	64	69	71	61
		一人当たり	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9
	2年	貸出冊数	251	255	156	107	121
		学生人数	60	69	61	68	69
		一人当たり	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8
介護福祉	1年	貸出冊数	202	202	61	47	141
		学生人数	18	32	26	24	30
		一人当たり	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7
	2年	貸出冊数	97	152	31	11	29
		学生人数	24	17	17	17	24
		一人当たり	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2
全学生		貸出冊数	3653	2645	1381	1816	2289
		学生人数	493	466	436	509	534
		一人当たり	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3

学生一人当たりの貸出冊数（平成30年4月～令和5年3月23日）					
	30年	R1年	R2年	R3年	R4年
子ども１年	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6
子ども２年	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8
オフィス１年	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9
オフィス２年	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8
介護福祉１年	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7
介護福祉２年	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2
全体	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3



(4)図書館メイトの活動

①人数と内訳

人数　2022 年度当初 9 名だったが 1 名退学があり 8 名。

内訳　子ども学科 2 年生が 2 名、子ども学科 1 年生が 4 名（うち 1 名退学）オフィスワークコース 2 年生が 1 名、オフィスワークコース 1 年生が 1 名、介護福祉コース 1 年生が 1 名。

②活動概要

図書館メイトの活動は、以下の通り。以下の他に返却期限票のイラストを作成してくれた学生もいた。空き時間が合わず、個別活動が多かった。活動量にも個人差があった(ミーティング以外の活動実績なしの学生は 2 名)。1 年生の学生 5 名は次年度も継続予定。年度末の反省会は、予定していた日が休講となったため、反省会は中止とし個別に活動アンケートを依頼するのみとなった。

令和４年度図書館ﾒｲﾄの活動	
月	内容
4 月	・本の装備作業 ・本の返却作業 ・紙芝居見出しづくり
5 月	・図書展示の打合せ
6 月	・本棚の整理（２F 保育関係図書）
7 月	・創作作品展作品募集チラシの作成 ・「あつい夏の風物詩」展示準備 ・本の返却作業
8 月	―
9 月	・図書館 PR 動画撮影 ・点字図書館で勤務経験のある図書館メイトによる「点字の書き方体験会」講座開催 ・おすすめ図書の選書と推薦コメントの作成
10 月	・「芸術の秋　創作作品展へのお誘い」「話題の本、よりどりみどり」「忘れていませんか？　リラックス」展示の見出しづくり ・雑誌リサイクルのための雑誌整理 ・雑誌リサイクルチラシ作成 ・短大祭での創作作品展コーナー作品展示
11 月	―
12 月	・本の返却作業
1 月	・活動アンケート

③図書館メイトアンケート

参加のきっかけは、「図書館の仕事に興味があったから」が 5 名、「課題であるボランティア活動の一つとして」が 4 名、「読書や図書館が好きだから」が 3 名、「高校生や中学生のときに図書委員をやっていたから」が 2 名、「先生に声をかけられたから」と「友達に誘われたから」が各 1 名だった。

活動の頻度は「やや少ない」が 6 名、「やや多い」が 2 名、活動しやすい時期は、夏休みと放課後が各 2 名の他、「昼休み」、「空き時間」、「定期テスト後の時期」、「10～11 月頃」が各 1 名ずつだった。全体的には、活動の頻度がやや少ないと感じた人が多かったので、個別活動と全体での活動を整理し、全体で出来る活動になるべく多くの学生が参加してくれるように工夫していきたい。

図書館サービス、図書館メイト活動についての具体的な意見は次のとおりであった。

（創作作品展・雑誌リサイクルについて）

・創作作品展で投票者に抽選で図書カードが当たる取り組みが良かった。

・創作作品展を玄関近くにもっと長く展示してほしい。一般の方にも見てもら

いたい。
- 創作作品展の出品方法や展示場所が分かりにくかった。
- 雑誌リサイクルの冊数制限について、どれが人気の本なのか知りたい。

（図書館の利用について）
- 実習前に季節に合ったおすすめ絵本の展示があると助かる。（2 名）
- 年齢別の絵本がまとめられたコーナーを希望。
- 実習前の貸出冊数を少し増やしてほしい。
- 卒業レポートの本は長く貸出してほしい。
- カウンターが無人の時がたまにあり自動貸出機を希望。
- ＤＶＤを貸出してほしい。

（図書館メイト活動について）
- 活動システムや提出期日をもう少し詳しく教えてほしかった。

今年度は 2 年生が 1 人しかおらず 1 年生は昨年度の様子が分からないため創作作品展・雑誌リサイクルの事前の話し合いでは意見が出にくかったが、年度末のアンケートの回答から、1 年間の活動参加や図書館利用を経て、改善点をしっかり考えてくれたことがうかがえた。

創作作品展・雑誌リサイクルの広報や展示の方法、絵本コーナーの改善、活動内容の整理などアンケートの意見を踏まえ、図書館メイトの協力の下、改善を進めていきたい。

(5)図書館コンシェルジュの活動状況

今年度実績はなかった。タブレットの普及により、コンピュータ関連の知識があるていどいきわたったことがその理由と考えられる。このサービスは廃止する。

(6)加盟団体での活動への参加

〈三重県図書館協会〉

三重県総合文化センターで総会が開催された（欠席により委任状提出)。

・「三重県図書館協会総会」（令和 4 年 7 月）

〈私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会〉

コロナウィルス感染拡大のため、書面による総会が実施された。

・「私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会令和 4 年度総会（書面審議)」（令和 4 年 9 月）

〈三重県大学図書館連絡会〉

連絡がなく開催状況不明

1.「高田短期大学紀要」の発行

(1)発行スケジュール

高田短期大学紀要 41 号編集・発行計画は以下のスケジュールで進めた。

高田短期大学紀要 41 号編集・発行計画

日　　　時	事　　　　項
5 月 2 日(月)	運営委員会に投稿規程新旧対照表を提出
5 月 9 日(月)	教授会にて審議
5 月 20 日(金)	執筆者募集(専任・非常勤教員)
8 月 25 日(木)	執筆希望締切日（執筆希望書を執筆希望の研究公正誓約書とともに提出）　図書委員全員にメールにて連絡
9 月 5 日(月)	紀要原稿執筆依頼　配布（教授会 報告後）
9 月 16 日(金)	執筆希望締切日 2 回目（執筆希望書を執筆希望の研究公正誓約書とともに提出）　図書委員全員にメールにて連絡
10 月 3 日(月)	研究活動一覧提出依頼
11 月 1 日(火)	紀要原稿提出依頼（念押し）配布
11 月 7 日(月)予定	第 6 回委員会：委員閲読担当決定
11 月 11 日(金)	紀要原稿の仮取りまとめ
11 月 15 日(火)	紀要原稿提出締切。（投稿誓約書とともに提出。）17:00 まで。研究活動一覧受付締め切り。委員閲読開始
12 月　1 日(木)	業者への見積もり依頼
12 月　5 日(月)10:40~ 予定	第 7 回委員会：委員閲読結果報告 紀要業者決定
12 月 5 日(月)13:00~　予定	臨時図書委員会：委員閲読結果報告
12 月 6 日(火) *臨時委員会翌日　予定	執筆者に閲読結果を伝え、原稿を返却。 執筆者に「抜き刷り希望部数調

	べ」を渡す。（状況によっては翌 12 月 7 日になる場合あり。）
12 月 15 日(木)	紀要原稿再提出、抜き刷り希望部数調べ回収
12 月 16 日(金)	原稿入稿 英文タイトルの校正依頼
1 月 17 日(火)	印刷業者から初校提出 英語担当教員による英文タイトルの校正結果提出
1 月 17 日(火)~ 1 月 26 日(木)	執筆者校正期間（英文タイトルの決定）
1 月 27 日(金)	初校戻し
2 月 2 日(木)	印刷業者から再校提出（執筆者・委員校正） ＊委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
2 月 9 日(木)	再校戻し
2 月 13 日(月)	印刷業者から三校提出（委員による最終校正） ＊委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
2 月 17 日(金)	三校戻し（最終校正業者渡し）
2 月 21 日(火)	責了（印刷直前の確認）
3 月 6 日(月)	紀要 41 号納品
3 月 10 日(金)	抜き刷り納品
3 月 17 日(金)	卒業式（来賓配布）

(2)　投稿一覧

令和４年度、紀要第 41 号の投稿一覧は以下の通り。

高田短期大学紀要第41号原稿執筆者希望書　提出一覧

原稿種別	番号	所属	氏名	ページ数	原稿種別	タイトル	単・共
研究論文	1	キャリア育成学科	福田　洋子	12頁	369社会福祉	「災害福祉」教育と介護福祉コース学生の防災リテラシー向上一留学生の学びを中心にー Disaster Welfare" Education and the Improvement of Disaster Prevention Literacy of Care Work Course Students-Focusing on the Learning of International Students	単著
	2	子ども学科	山口　昌澄	10頁	370教育	「高田短期大学ディプロマ・ポリシー」到達度に関する研究 A Study of Achievement in Diproma Policy of Takada Junior College	単著
	3	子ども学科	寳來　敬章	10頁	373教育政策	カリフォルニア州チャータースクール法とアカウンタビリティ California Charter School Law and Accountability	単著
	4	子ども学科	大野　照文	10頁	375教育課程	ワークショップ・アンケートから見える高田短大生の無意識の学びの力 The Power of Unconscious Learning of Takata Junior College Students as Seen from the Workshop Questionnaire	単著
文献紹介	5	元キャリア育成学科	庄村　長	11頁	336経営管理	「産業における仕事設計の総合的モデルの展開」について On the Development of a Comprehensive Industrial Work Design Model:An Introduction to the Reseach by Biman Das	単著
資料紹介	6	子ども学科	亀澤　朋恵	8頁	372教育史・事情	『図画教育通信』目次（３）——第221信（昭和２年４月１日）〜第229信（昭和２年11月１日）—— A Table of Contents “Zuga-Kyoiku Tsushin”（３） − from No.221（ Apr.1927） to No.229（ Nov.1927） −	単著

3. 「高田短期大学通信」の発行

1)「高田短期大学通信」第 57 号の発行部数と配布先

令和 4 年度の「高田短期大学通信」第 57 号を 2,800 部発行した。関係各所の協力を得て、在学生、前年度卒業生、教職員、名誉教授、学外の執筆者、学苑本部、中高、同窓会、研究センター、卒業生の就職先企業、オープンキャンパス参加者、高校訪問・来訪用、介護実習先、保護者懇談会等にて配布した。

本年度は高田学苑 150 周年記念の開催と、オープンキャンパスが通常通りの開催に戻ったことによる配布数増が見込まれ、昨年度より 200 部の増刷を行った。

2022 年度の配布実績は全体で 2331 部、図書館保管は 469 部となっている。内訳については以下のとおりである。

令和 4 年度 高田短期大学通信第 57 号 配布予定一覧

	配布先（敬称略）	2022 実績	関係部署
1	在学生	532	図書委員会で配布
2	前年度卒業生（前年度卒業生から各学科卒業生執筆者・留学生を引く）	199	図書委員会で配布
3	教職員	131	図書委員会で配布
4	杉山　常子（名誉教授）	1	
5	首藤　善樹（名誉教授）	1	
6	三宅　啓子（名誉教授）	1	
7	千草　篤麿（名誉教授）	1	

8	栗原　廣海（名誉教授）	1	
9	北端　一子（同窓会執筆者）	1	
10	各学科卒業生（執筆者）	3	
11	学苑本部	30	事務局
12	高田中・高等学校	100	事務局
13	高田中・高等学校 学苑 150 周年分	200	事務局
14	同窓会役員用	30	事務局
15	学外研究員、開放事業参加親子、地域連携事業参加者等	100	育児文化研究センター
16	企業等	100	キャリア支援委員長
17	研究員・専門講座参加者	55	仏教教育研究センター
18	客員研究員、各種講座受講者、高齢者サロン関係者	70	介護研究センター
19	百五銀行・百五総合研究所連携セミナー	50	キャリア研究センター
20	入試イベント用	600	広報入試
21	入試イベント用	-500	オープンキャンパス戻り
22	高校訪問先	50	広報入試広報
23	みえｱｶﾃﾞﾐｯｸｾﾐﾅｰ（大学展･当日配布）	150	事務局
24	実習反省会	30	教学部学生課（実習担当）
25	介護実習先	40	介護福祉コース
27	高校来訪用	70	広報入試
28	学苑本部理事会	50	事務局
29	保護者懇談会	57	学生課長
30	保管用	30	図書館
32	学長先生	5	図書館長
33	在学生の題字デザイン応募者	8	
34	中川先生	5	
35	図書館館長	3	
36	在学生執筆者	3	
37	実習先訪問	1	教学部学生課（実習担当）
38	介護作文表彰式参加の受賞者用	15	
39	高田本山売店	35	
40	介護福祉セミナー	23	参加者資料に封入
41	みえまちキャンパス	20	短大教員
42	子ども学科実習反省会	30	教学部学生課（実習担当）
43	配布部数合計	2331	

44	保管用	469	図書館
発行部数		**2800**	

2）令和 4 年度　「高田短期大学通信」第 57 号発行スケジュール

令和４年度の「高田短期大学通信」第 57 号の発行は、以下のスケジュールのとおり進行した。

令和 4 年度の「高田短期大学通信」第 57 号発行スケジュール

日　　時	項　　目
2 月 15 日（火）	各部署長へ掲載記事アンケート
2 月 22 日（火）	掲載記事アンケート締切
3 月 7 日（月）	第 10 回図書員会 「短大通信」紙面構成案作成（依頼方針、内容、体裁） 卒業予定者、新 2 年生の執筆予定者の報告
3 月 8 日（火）	卒業予定者、新 2 年生へ執筆依頼
3 月 8 日（水）～	印刷業者と折衝（デザイン、料金）
4 月 4 日（月）	第 1 回委員会　「短大通信」紙面構成の決定
4 月 12 日（火）	短大通信原稿依頼 印刷業者へ見積り依頼
4 月 25 日（月）	原稿締切
4 月 27 日（水）	入稿
5 月 9 日（月）	初校受取
5 月 12 日（木）	初校戻し
5 月 16 日（月）	再校受取
5 月 19 日（木）	再校戻し
5 月 23 日（月）	三校受取
5 月 26 日（木）	三校戻し
5 月 27 日（金）	校了
6 月 9 日（木）	納品
6 月 10 日（金）	教職員配布（アンケート添付）
6 月 12 日（日）	学苑 150 周年式典
6 月 30 日（木）	教職員アンケート締切
7 月 5 日（月）～	学生配布（図書館だより・夏休み期間中の図書館開館スケジュール添付）
7 月 10 日（日）	第 2 回オープンキャンパスで配布
7 月 11 日（月）	第 4 回委員会　短期大学通信の反省

3）「高田短期大学通信」第 57 号に関するアンケート

「高田短期大学通信」第 57 号に関して教職員にアンケートを行い、８名から

回答を得た。昨年度の 56 号に対するアンケート結果から、写真の少なさ、文字の濃さや大きさなどについて指摘があり、紙面のレイアウトに対して課題が示された。大幅に誌面の見直しを行い、写真や文字を大きく、初の試みとなる学長のインタビュー記事も盛り込んだ誌面づくりに取り組んだ。その結果、誌面デザインや初企画である学長インタビューは好評を得た。一方、読者を学生と想定するならば、オープンキャンパスの記事の取扱いは小さくても良いのではという指摘もあり、これは来年度の誌面作りに活かすこととする。

4. 公開講座の実施

1）広報について

公開講座の広報を下記のとおり行った。

① 広報のための印刷物および発行部数

公開講座のチラシを 2,000 部、コミュニティカレッジパンフレットを 3,300 部発行した。

② 配布先

後援依頼先や公民館、教育委員会事　務所、芸濃総合文化センター、生涯学習センター、子育て支援センター、津図書館（今年度より新規)、近隣の銀行、高田関係施設、学苑関係、県内大学、昨年度の受講者、教職員、教員免許講習、短大の研究センター、高校訪問・来訪、理事会、同窓会、企業、みえアカデミックセミナー等。

③ 新聞折り込み

公開講座のチラシ 15,000 部を新聞折り込みとした。

(2)　2022 年度高田短期大学公開講座

2022 年度高田短期大学公開講座としての例年どおりの２講座に加え、図書館講座（全４回）と学長講座（全３回）を企画した。

① 講座１　PowerPoint　自治会・町内会等で使える音声スライド作成講座

日　程　令和４年９月３日（土）～　14：00～16：00
講　師　川喜田　多佳子　【※中止】

② 講座２　「音楽と体操とおしゃべりタイム！

日　程　令和４年 10 月２日（日）10：00～11：30
講　師　長谷川　恭子
参加者　①16 名

③ 学長講座　全３回

日　程　①９/15、②10/20、11/17（木曜日）10：00～12:00

講　師　梅林　久高
参加者　①58 名　②50 名　③58 名

④　図書館講座　図書館司書と楽しむ文学とおしゃべり講座（全４回）

日　程　①令和４年６月 22 日、②９/21、③10/12、④11/30（水曜日）
14：40～16：10
講　師　瀬古　幸弘
参加者　①14 名　②15 名　③15 名　④14 名

４講座のうち、新型コロナウィルス感染症の感染状況を鑑み、（２）の講座１「PowerPoint　自治会・町内会等で使える音声スライド作成講座」を中止した。

公開講座を開催するにあたり、感染症予防を徹底、入場時の手指消毒、喚起、参加者同士
の距離の確保、飛沫、接触感染等の機会の回避に配慮した。

2022 年度　高田短期大学付属図書館公開講座

⑤参考

2022 年度において新規に「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」として下記 4 講座を開講した。水曜日の 14：40～16：10 に図書館 1 階グループワークエリアで開催し、講師は 4 講座とも図書館司書の瀬古幸弘が担当した。

【講座 1】「ドナルド・キーン　－ 日本文学再発見」
実施日　6 月 22 日（水）
【講座 2】「源氏物語　－ 序章」
実施日　9 月 21 日（水）
【講座 3】「詩をどう読むか」
実施日　10 月 12 日（水）
【講座 4】「小津安二郎　－ 世界の評価」
実施日 11 月 30 日（水）

4 講座一括での申し込みとしたため、4 講座とも同じ受講者が受講した。定員は 15 名で、ティーサービスと座談会を含めた構成とした。ティーサービスは、新型コロナウィルス感染症対策の一環として、最終的にはペットボトル飲料の提供とした。

【講座 1】で 1 名の欠席があった以外は、15 名の受講者全員が出席した。

各回で講座の内容について満足度のアンケートを実施した。
【講座 1】　非常に満足 12 名　やや満足 2 名　無回答 1 名
【講座 2】　非常に満足 9 名　やや満足 4 名　やや不満 1 名　無回答 1 名
【講座 3】　非常に満足 11 名　やや満足 3 名　やや不満 1 名
【講座 4】　非常に満足 9 名　やや満足 4 名　やや不満 1 名　無回答 1 名
おおむね満足を得られた結果となった。

最終回【講座 4】では詳細なアンケートを実施した。
図書館で司書が文献の紹介をするという講座の性質上、講座レジュメに加えて、ある程度の分量の資料を配布した。受講者に確認したところ、
（資料の分量について）　このままでよい 9 名　このままでよいがもっと説明が欲しい 1 名
減らしてほしい 5 名　（資料は）いらない 0 名　（複数回答可）
と、「資料はいらない」と答えた受講者がいなかっただけでなく、資料の質を理解し評価した受講者が多かった。担当講師は開講当初から「配布資料はご自宅で取捨選択のうえ、ファイリングしてください」と再三お願いしてきた。各講座実施日の間隔が開いている点も鑑み、受講後の発展的学習や知的な楽しみに配慮して資料を用意したことが、受講者に評価されていると確認できた。

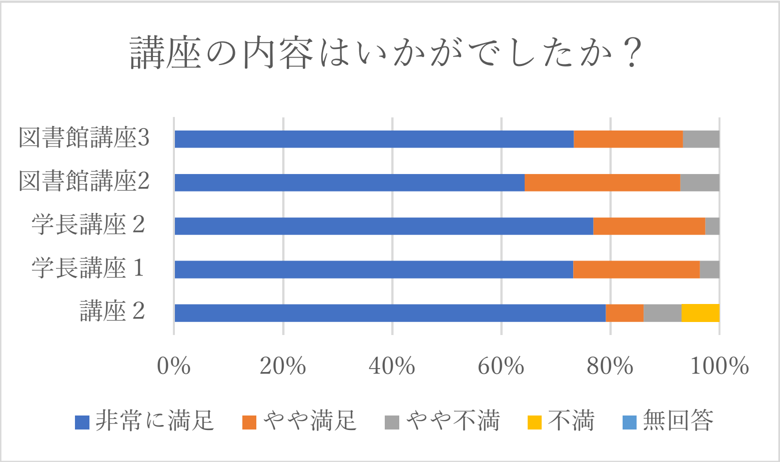
さらに個別の補足意見として、
「楽しいだけでなく、奥深い文学に触れることができた」「またこのような機会があればぜひ参加したい」「資料を後でじっくり読んでヘェーとびっくりしたり、より深く知ることができて、うれしかった」
「来年以降も、文学講座を（できれば毎月）開設してほしい」
などといった声が聞かれた。

（3）　公開講座アンケート集計

公開講座アンケートについて、回答がえられたものについての集計結果は以下のとおりである。

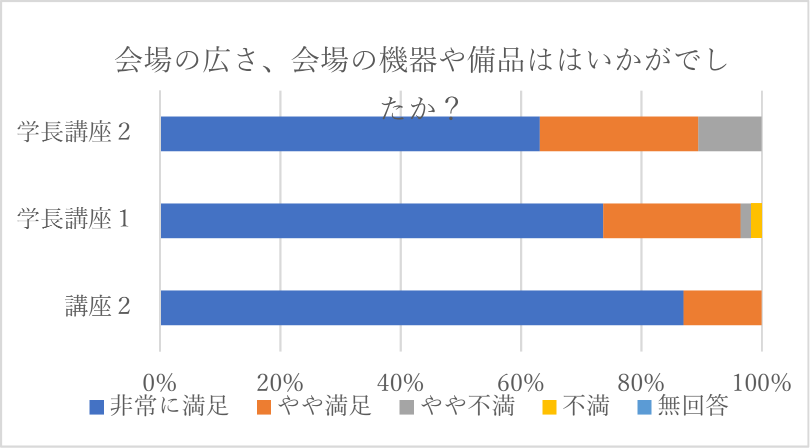
①　講座全体について

講座内容についての回答を集計したものを【図 1 】に示した。それぞれ関心の高い講義を受講しているためではあろうが、内容についてはほとんどの受講者から満足との回答を得られた。



【図１】質問「講座の内容はいかがでしたか？」

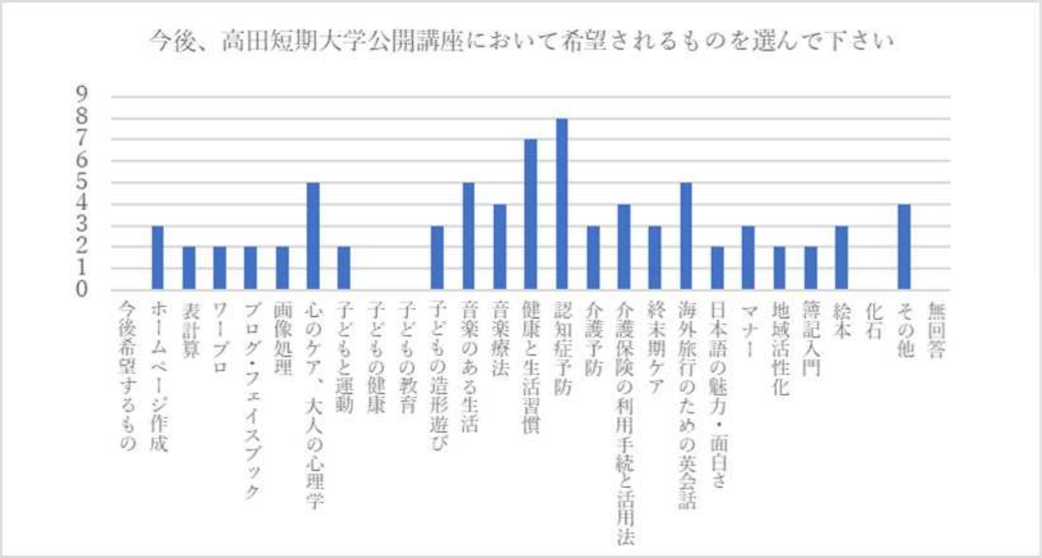
「会場の広さ、機器・備品」についての感想を集計したものを【図２】に示した。会場周りの設備については、おおむね満足して頂けたようである。不満の理由としては、空調関係（寒い、暑い等）の意見を頂いたた。



【図 2】質問　「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」

②　今後希望する講座

「今後希望する講座」につていの回答を集計したものを【図３】に示した。



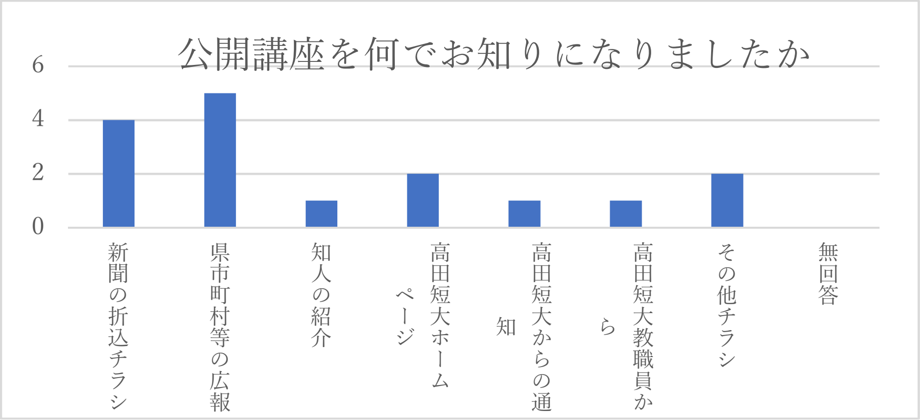
【図 3】質問　「今後、高田短期大学公開講座において希望されるもの

こちらは 2.2)の講座 2 での回答結果である。「認知症予防」(8)、「健康と生活習慣」(7)の順に希望が多く、次いで「心のケア、大人の心理学」(5)「音楽のある生活」(5)「海外旅行のための英会話」(5)にも関心が高かった。

次いで「介護保険の利用手続きと活用法」「音楽療法」が続き、高齢者や健康に関するテーマへニーズが高いことがわかった。

参加した講座との関連があるもの、高齢者や健康に関する講座へのニーズが読み取れる。

③　公開講座の情報源



【図 4】質問「公開講座を何でお知りになりましたか」

公開講座を知った情報源について集計したものを【図 4】に示した。「県市町村等の広報」(5)、「新聞の折り込みチラシ」(4)が多い傾向である。受講者の年齢層が高く、この層に対してはインターネットではなく紙媒体での告知が有効であることが示された。

④　その他

本年度は従前どおりの公開講座に加え、新たに上述のように図書館講座、学長講座を新たに企画し、いずれも好評を得た。次年度も継続するものも踏まえ、新たな試みを継続して検討する。

(5) 図書館だより

読者にとって興味深い情報発信ツールとすることが課題として挙げられている。そのため、従来から行っている図書の紹介にとどまらず、特集記事として、図書館メイトの活動のほか、研究活動に有効な翻訳アプリの紹介記事などを掲載した。

(6) 創作作品展

10 月 22 日から 28 日までの 7 日間、学生が創作した 10 点の作品の展示を行った。高短祭の 2 日間（10 月 22、23 日）は、学生玄関から 1 号館ロビーの間に展示スペースを設置し、その後は図書館内で展示を行った。期間中、学生・教職員あわせて 116 件の投票があった。

図書館メイトを対象に行ったアンケートからは、作品の募集や展示に関する広報の充実、展示期間の延長、展示の一般公開などの提案が挙げられていた。

(7) 図書展示

2022 年 4 月～2023 年 3 月の図書展示は以下のとおりである。

時期	展示テーマ
4 月	新着図書、「ウクライナ・ロシアの絵本」「芥川賞・直木賞受賞作と 2022 本屋大賞候補作」
5 月	新着図書
6 月	新着図書、「お仕事　はじめの一歩」
7 月	新着図書
8 月	新着図書、「あつい夏の風物詩」（図書館メイト協力）
9 月	新着図書、
10 月	新着図書、「芸術の秋　創作作品展へのお誘い」「話題の本、よりどりみどり」 「忘れていませんか？　リラックス」（図書館メイト協力）
11 月	新着図書、「がんを知ろう、相談しよう」（三重県図書館協会連携展示）
12 月	新着図書、「図書館メイトおすすめ本」
1 月	新着図書、「やまわきゆりこさんの本」
2 月	新着図書、「怖～い絵本」
3 月	新着図書、「芥川賞・直木賞受賞作と 2023 本屋大賞候補作」、「大江健三郎さんの本」

（以上の他に、１F 絵本コーナーで季節の絵本を随時入替展示）

(8) 雑誌リサイクルの実施

10 月 17 日～23 日に実施した。昨年度同様、密を避けるため、図書館前、2 階と 3 階の各渡り廊下に分散して配置した。案内ポスターは図書館メイトに作成依頼した。

持ち帰りは 1 人 1 冊となっているが、図書館メイトのアンケートでは、「冊数制限があったが、どれが人気なのか知りたい」という意見があった。

Ⅳ　令和 4 年度改善したこと

1.　閲覧室について

・２階閲覧室のスチール書架 10 本について、これまでは互いの書架の上部が木材で連結されていたのみだったが床固定も行い、書架転倒防止対策を講じた。

・閲覧室の維持・環境改善のため、２階の閲覧用椅子８脚のクリーニング、１階用の除湿器購入、１階と３階閉架書庫への温度湿度ロガーの取り付けを行った。

2.　図書館メイト

・昨年度に続きグループでの活動はあまりできなかったが、創作作品展や雑誌リサイクルは図書館メイトの協力の下、進めていくことができた。

・図書館メイト出演の PR 動画を制作。

・点字図書館での勤務経験がある図書館メイトからの申し出を受けて、9 月 8 日（木）に「90 分で学ぶ　点字の書き方体験会」を実施した。体験を含むため少人数の講座として企画し、教職員からの申込が 4 名あり、3 名参加があった。

3.　ホームページのおすすめ図書情報更新

・推薦図書の依頼時に、少なくとも 3 冊程度の推薦図書に推薦コメントをつけていただくことをお願いし、推薦コメントをいただいた図書をホームページの「おすすめの新着本」として掲載することができた。

Ⅴ　令和５年度に向けた課題

1．学生の利用促進

コロナ禍がほぼ終息しつつあり、学生の利用者数も回復しつつあるが、子ども学科２年生、オフィスワークコース 1､2 年生では、回復のスピードが遅く、利用促進のための施策が必要であろう。

2．紀要の投稿数の減少

令和２年度８件、３年度９件に対し、今年度は投稿が６件にとどまった。研究成果の発信をになう紀要なので、今後投稿数を増やす努力が必要であろう。

3．2 階および３階の本の整理

・2 階および３階の書架が手狭になってきたため、学科コースの協力をいただきながら、本の整理をしていく必要がある。

4．利用者カード

・令和 5 年度は現在の学生証が継続できることが決まったが、令和 6 年度以降の学生証については未定となっているため、学生証の形態によって、関係部署と連携をとりながら図書館利用者カードの形態を検討していく必要がある。

ⅩⅡ

学生支援委員会

年次報告書

委員長　長倉　里加

本委員会は今年度より設置された。

3　新たな課題

・学生支援の対象及び内容が多様化していることから、誰が何に対応するかなど役割分担や学生支援委員会で共有すべきことなどを明確にしていくこと。
・学生支援に関する専門家の配置の必要性。
・学生支援の情報共有、共有後の取り扱い等について、共通認識をつくっていくこと。
・学生支援委員会に限らず、教職員が学生支援について理解する機会を設けていくこと。
・発達に課題のある学生の学修支援について検討していくこと。

4　次年度取り組むべきこと

まずは支援や配慮が必要と思われる学生の情報を集約し、一定期間ごとにモニタリングできる仕組みをつくっていくことが急務であると考える。その際、学生、教職員が誰に（どこに）相談したらよいのか、どのような時に相談できるのか等をわかりやすく示すことや、情報の取り扱い、支援体制の構築についてもあわせて検討していく。また学生相談室の体制整備とともに学生支援委員会との連携方法についても構築することが必要である。

さらに教職員間で支援や配慮が必要であると考える学生についての認識や学生支援に対する温度差が感じられるため、全教職員が学生支援について共通理解を得られるような機会を設定することも必要であると考える

また合理的配慮を求める学生への支援については、学生支援員会を中心とし全学的に支援体制を確立できるよう整備する。

ＸⅢ

仏教行事委員会

年次報告書

委員長　松山　智道

Ⅰ. 昨年までの課題

1. 行事全般について
- 行事への出席者を増やすための工夫が必要である。
- 灌仏会の花を持参する学生数を増やす工夫が必要である。
- ミニレポートの内容を充実させる工夫が必要である。
- 他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
- 一般の出席者への呼びかけを強化する。

2. 聖歌隊について
- 昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、歌う機会がないまますべての仏教行事が終了した。昨年度同様、自治会と聖歌隊の兼務状況を今後どのように対応するかを検討する必要がある。

Ⅱ. 本年度改善されたこと

1. 行事全般について
- 灌仏会では、献花を持ってきた学生が、令和元年度が 35 名、令和二年度が 24 名、令和三年度が 61 名、そして今年度は 89 名と増えた。なお、当初、前年度の人数を参考にお礼のお菓子を購入したが、4 人分不足したため翌日に渡すこととなった。
- 灌仏会では、例年行事が終わってすぐに花御堂を解体しているが、行事中後方の座席の学生からはよく見えないため、1 回事務所前に翌日昼まで飾ることとした。近くで見たことのない教職員からも好評をいただいた。

2. 聖歌隊について
- 歌う機会は無かったが、昨年度同様に、年間を通して行事の準備や後片付けを手伝ってもらうことでボランティアのカウントとした。

Ⅲ. 新たな課題

1. 行事全般について
- 昨年同様、2 年生の出席率が極端に低くなっている。
- コロナ感染拡大防止のため、ミニレポートの提出は「まなば」を利用したが、その場で記述しないために、昨年同様、インターネットからコピー&ペーストをしている学生が多いように見受けられた。

2. 聖歌隊について
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も 1 年間歌う機会がない

まま終了した。感染状況が低下すれば、歌う機会を設ける工夫が必要である。

Ⅳ. 次年度に取り組むべきこと

1. 行事全般について

・特に二年生の出席者数を増やす工夫を考える。
・灌仏会の花を持参する学生数をさらに増やす工夫を考える。
・ミニレポートの内容を充実させる工夫を考える。
・他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
・コロナ禍が落ち着けば、一般の出席者への呼びかけを強化する。
・ご本山への参詣が入学式後の一回のみであるから、さらに回数を増やす手立てを考える。

2. 聖歌隊について

今年度もさらに聖歌隊員を募集し、コロナ前の通常活動に戻れた場合には、前期と後期の最後に行う聖歌隊反省会兼交流会を、前期の早い段階で簡単な交流会、後期の最後に反省会を行う形に変えたいと考えている。早い段階で隊員同士を交流させることで隊員間の意思疎通が容易になり、聖歌隊を維持する上でプラスになる上、予算も削ることができると考えている。

ⅩⅣ

ネットワーク委員会

年次報告書

委員長　鷲尾　敦

１．昨年までの課題

（1）メールサーバーのクラウド化と管理者

メールをG　Education のGメールで運用する。そのための管理者およびその仕事の範囲を明確にする必要がある。

２．本年度改善されたこと

（1）メールサーバーのクラウド化と管理者

現有サーバーの耐用年数以上使っており、今後止まらない運用の必要性やセキュリティの向上のため、メールサーバーをクラウド化することを検討してきた。高等教育機関であると無料で使えるG for Education やMS Edccation であるが、システム構築保守の専門業者に入ってもらって導入運用をしていく方向で検討した。最終的に、本学Web の運用をしているアインズ株式会社インテグレートの下、office365 Education を利用することとなった。令和5年3月後半に移行する予定である。

３．新たな課題

（1）ノートパソコン一括購入をやめる件

令5年度入学生のノートパソコンの選定後、半導体の品薄や為替の円安のため、ノートPC が高額となっている。短大に収める金額が他に比べ、ノートPC の分高額となっていること、家庭によっては自由に選びたいことなどから、令和6年度入学生からは、一括での本学での購入はしない方向で議論は進むこととなった。ネットワーク委員会ではそのような結論となり、教授会で報告し、入試広報委員会、運営会議等に送ったところである。

そのため、オープンキャンパスの段階、あるいは入学手続き後の案内時に、学内で使うノートPC の性能や機能についての説明と推奨パソコンの例示などをする必要がある。そのため、各授業でノートPC をどうように使うか調査する必要がある。

４．次年度取り組むべきこと

（1）推奨ノートパソコンの仕様の決定

授業でどのようにノートPC を使うかを非常勤講師を含めた教員にアンケート調査を行うとともに、オンライン授業でも必要となる機能や性能を加味し、ノートPC の仕様と最低限の導入アプリケーションを検討する。また推奨パソコンや周辺機器のリストを作成する。

ＸＶ

外国人留学生支援委員会

年次報告書

委員長　中畑　裕之

Ⅰ．昨年度までの課題

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

・出席率の向上、授業への取り組み姿勢の改善

・日本語能力の向上

・学生の学ぶことへのモチベーションの向上

(2)国家試験対策に関すること

・介護福祉士国家試験合格率の改善

・学生の国家試験へのモチベーション向上

・介護福祉コースと連携しての取り組み

(3) その他外国人留学生に関すること

・授業料の支払状況が芳しくない留学生がある

（４）留学生支援委員会に関すること

・留学生支援委員会と留学生支援室の業務の線引きと情報共有

・全ての業務が多忙化してきている中での留学生支援委員会の業務の検討

Ⅱ．本年度改善されたこと

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

・出席率の向上、授業への取り組み姿勢の改善

出席率、GPA に応じて学納金を減免する制度を令和 2 年度より設け、留学生にオリエンテーションなどで周知した。

教員による出欠確認、個別指導強化を留学生が在籍するコースに依頼するとともに、留学生支援室で個別に指導・出席への意識づけなどを積極的に行った。

コロナ対策への意識づけを留学生支援室からも行った。

例年実施していることであるが、留学生が、本学の施設、制度について理解できるよう学内見学ツアーを実施した。また、留学生ガイドブックを使用して、日本で学生として生活していくうえで重要なことを伝えた。

・日本語能力の向上

日本語特別講座を昨年度同様実施するとともに、出席の呼びかけをより細かに行った。

介護福祉コースでは今年度クラスの半数が日本人学生となり、日本人学生との交流により日常的に日本語を使用する場面が増えているように感じる。

2 年生については、例年に比べて比較的日本語力が高く、日本語能力試験 N1 の受験に挑戦する学生が増えた。

学生の意欲が日本語能力検定試験（7 月、12 月）の後は著しく低下し出席率が落ちることから、開講日程の見直しを行った。

令和 2 年度から日本語会話の授業において能力によりクラス分けを行ったことで、レベルに応じた教育が行えるようになった。

・学生のモチベーションの向上
先に挙げた学納金減免の仕組みなどを留学生に説明し、勉学、出席への意識づけを行った。
従来より、必要な授業については日本語補助員を配置し、学生の受講の支援を行っている。
日本語能力試験の受験を促していることもあり、未受験の学生は減少している。令和4年度の合格者数としては、1年生（C22生）8名（内訳N2：1名、N3：7名）、2年生（C21生）2名（内訳N2：1名、N3：1名）であった。

(2)国家試験対策に関すること
・学生の国家試験へのモチベーション向上
国家試験に合格することのメリットを留学生ミーティングで伝えた。
・介護福祉コースと連携しての取り組み
昨年度同様、国家試験模擬試験（年3回）の結果を情報共有し、科目別に留学生が苦手とするポイントを把握するなど、国家試験合格に向けて連携した。
留学生国家試験対策講座への出席についても、積極的に呼びかけを行った。

(3) その他外国人留学生に関すること
・授業料の支払状況が芳しくない留学生がある
事務局と連携して学生の状況を把握し、状況によってはゼミ担の協力を得て学生に働きかけを行った。

(4) 留学生支援委員会に関すること
・留学生支援委員会と留学生支援室の業務の線引きと情報共有
課題の検討、判断などについては留学生支援委員会、実際の業務や学生のサポートは留学生支援室と大まかには業務分担を行った。また、委員・コース、留学生支援室で情報共有、意見交換を行っている。
・全ての業務が多忙化してきている中での留学生支援委員会の業務範囲の検討
留学生支援委員会で協議が必要な事項か、どのような経緯で行うようになったのかなどよくわからないものがあったが、少しずつ整理ができた。

Ⅲ．新たな課題
(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること
・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得
・留学生の勉学へのサポートの充実
・日本人との交流、日本語を話す機会の拡大
・健康管理・感染予防など日常生活での意識の継続

(2)国家試験対策に関すること
・留学生の国家試験合格へのモチベーション向上

・介護福祉コースと連携しての取り組み

（3）留学生支援委員会に関すること

・協議や情報共有が必要な事項とその時期を整理し、委員会活動の効率化を図る。

Ⅳ．来年度の取り組み

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

これまで行ってきた留学生オリエンテーションや日本語教育、留学生支援室でのサポート、介護コース、オフィスワークコースとの連携を継続的に行う他、次のことに取り組む。

・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得

学費等が他大学や専門学校と比べても抑えられていることや、就職状況などをアピールすることで志願者の増加を図り、留学生を選抜できる状態につなげていく。

令和5年度入学生には日本語能力試験のN1、N2レベル合格者には授業料減免制度が適用されることを伝え、日本語能力向上へのモチベーションを高める。

・留学生の勉学へのサポート強化

介護福祉コースの日本人学生割合が高くなることから、日本人学生に合わせた進度に授業がなっていくと考えられる。このため留学生が授業の進度について行けるようサポートを充実させる必要がある。教員、留学生支援室で個々の留学生の様子を確認し、必要な支援を随時行う。

・日本語を話す、使う場の拡大

日本人学生や日本人と話したり協働したりする場を増やす方法を検討し、ボランティア活動など含め出来ることから実施していく。

・健康管理・感染予防など日常生活での意識の継続

コロナ感染が5類扱いとなり日常生活での制約も緩んでいくが、実習等に支障が無いよう、健康管理・感染予防など日常生活での注意点、行動などについて指導を継続していく。

(2)国家試験対策に関すること

・国家試験へのモチベーションの向上

前年度同様、介護福祉コースとより連携して、留学生全体の国家試験へのモチベーションを向上させる。より早い段階で国家試験に対する意識づけが重要である。国家試験で問われる問題の傾向や対策について伝えていく。国家資格を保有することによりどのようなメリットがあるのか、より具体的に伝える。また、国家試験合格を目指すよう継続的に意識づけを行って行く。

（3）留学生支援委員会に関すること

・効率的な運営と連携協力しての支援

委員会の開催回数は抑え、委員会は効率的に行う。
委員が教員２名のみであることから、委員、留学生支援室で情報・学生状況を共有し、よく連携・協力して留学生支援にあたる。

ⅩⅥ

研究倫理委員会

年次報告書

委員長　大野　照文

Ⅰ．議事録

2022 年度　第 1 回研究倫理委員会議事録

日　時:2023 年 2 月 14 日（火）10:00～10:15
場　所：図書館
出席者：　委員長　大野　照文
委　員　福西 朋子、野呂 健一、生駒 昌之（全員出席）
事務局　藤澤 周次

協議事項

1. 研究活動における研究倫理の順守について

今回の 6 件の申請について「高田短期大学研究倫理規定」に基づき、委員長が問題とないと判断したものについて、各委員にメールにて審査を行い、結果問題はないとのことであった。

2. 審査時期について

1）科研費・外部資金の申請と倫理審査申請のタイミング

現状、高田短期大学研究倫理規定では紀要の執筆を考慮したうえで申請書類の締切を 5 月末、11 月末に設定しているため、この時期とズレのある科研費及び外部資金取得のための申請に関しての審査が行えていない問題点が指摘された。また、科研費の受給については、別途講習を受ける必要があるため、講習を受けたかどうかの確認欄を申請書の項目に追加することが提案され、審議の結果了承された。

2)紀要投稿と倫理審査申請のタイミング

問題ないことを確認した。

3. 研究倫理審査委員会のあり方について

今後の審査について、申請があったものに対し、委員長が問題ないと判断したものについては、各委員にメールにて審査を行ってもらう。問題があると判断された事案に関しては、対面にて審査を行う。それとは別に年度初めと終わりには委員会を開催する。

報告事項

1. 書面による審査(6 件)

今年度審査を行った 6 件について報告された。

2. その他

審査時期について、現状の年 2 回では、科研費の申請など必要なタイミングを満たしていないことがあるため、次年度から申請があり次第、随時審査を行うように内規の改正を目指す。

II　課題

1. 科研費申請とのタイミング

次年度は、科研費の申請時期が早まっているので、それに合わせたタイミングでの研究倫理審査申請が望まれる。

2. 研究倫理の周知について

今年度は、研究倫理関連の講習会等が行われなかった。次年度は、何らかの形で、研究倫理遵守の重要性を周知することが望まれる。

XⅦ

ボランティア活動支援室運営委員会

年次報告書

委員長　川喜田　多佳子

Ⅰ　昨年までの課題

１．学生のボランティア募集→活動→報告までのシンプルかつ正しい手順の確立

２．コロナ終息後の、ボランティア支援体制について

３．休日活動する学生に、不慮の事故が起こった場合の対応方法について
（現在、杉谷先生が持っている携帯電話の取り扱いについて）

Ⅱ　本年度改善されたこと

１．全体

（１）4 月新入生ガイダンスで周知できるよう、ボランティア募集から活動終了までの流れが分かるフローチャートを作成した。また、ボランティア募集表、志願書、報告書の書式を見直し、募集者、学生共にわかりやすい内容に変更した。

（２）上記書式を学内書式に保存し、共通の書式を教職員が取り出しやすいようにした。

（３）新年度に向け、子育て応援隊事前指導の体制を整えた。

２．子ども学科

（１）昨年度に引き続きコロナ禍であり、ボランティア活動の機会の減少が見込まれることから、本年度は 1 年間を通して 1 回以上のボランティア活動を行うことを課題とした。そのためコロナ禍以前に比べると実績は減少しているが、昨年に比べると実数も増加しておりやや活動が活発になった。

（２）コロナ禍のためボランティア数の減少が見込まれたことから、早期から学生への呼びかけを行った。またゼミナールなど全体が集まる機会に活動への意識付けを行うことで、計画的にボランティアを行う学生が多かった。

３．オフィスワークコース

（１）コロナ禍でこれまであった学外ボランティアがまだ戻らない中、強制拘留者協会、白子公民館、警察庁サイバーボランティア等の多くの機会を作っていただき、活発に活動することができた。

（２）一身田商工振興会の Instagram での情報発信を昨年度に引き続き行った。

（３）湯元榊原館と連携協定を結んだことから、連携事業として湯元榊原館の日帰り入浴施設湯の庄での来訪者調査にボランティア学生を派遣した。延べ 16 名中 12 名がオフィスワークコースの学生であった。

（４）活動の様子を撮った写真をボランティア支援室で掲示板に貼りだしてもらうなど、ボランティアの楽しさを伝えることができた。

（５）オープンキャンパスでは、学生生活や授業の様子などを発表し学生募

集に貢献できた。

４．介護福祉コース

（１）三重県介護福祉養成施設協議会より、FM 三重主催のイベントに３名の学生が参加。コース広報にも貢献できた。

Ⅲ 新たな課題

１．全体

（１）新たな体制（新任コーディーネーター）との連携体制を整える。

２．子ども学科

（１）コロナ収束傾向に伴い今まで保育施設等へのボランティア活動が活発化することが予測される。コロナ禍以前は経験のある２年生が１年生を指導しながらボランティアをしていたが、次年度は２年生もほぼ経験がない学生であるため、事前指導等でしっかり不安事項を確認することを指導していく必要がある。

３．オフィスワークコース

（１）正確な参加回数の把握。ボランティア実践履修者の正確なボランティア数、授業未履修者の参加者者数の把握が曖昧であった。授業担当教員も新任に変更となる。単位取得回数にかかわらず、単位規定を超える活動参加への促しと管理をしっかり行っていただく必要がある。

４．介護福祉コース

（１）来年度は日本人学生が増加する。コロナ禍も収まりつつあるなか、社会貢献の重要性を意識できるようボランティア活動に積極的に参加できる環境作りが必要。

（２）サポートができる教員数が、介護福祉コース、介護福祉研究センターともに極少数であるため、効率よく効果的な学びの環境作りが必要となる。

Ⅳ 次年度取り組むべきこと

１．全体

（１）募集→活動→報告の流れをできるだけ一本化、学生がルールに沿った活動ができるよう、シンプルでわかりやすい支援体制を整える。

２．子ども学科

（１）子育て応援隊活動が次年度よりボランティア支援室で受付となる。子育て応援隊活動は実習施設や就職先との関係性が深く、ある程度の数のボランティア学生を送り出すことも必要である。そのため学生への声かけや周知方法等を検討し、学生が積極的にボランティア活動に参加できるような仕組みを考える必要がある。

３．オフィスワークコース

（１）地域実践受講者の確保（ボランティア実践担当教員より）

地域実践の受講者をより多く確保することで、ボランティア参加学生のすそ野の拡大、延べ参加者数の増加につなげる。このため、履修登録の際に受講を働きかける。2 年生でも未履修者は地域実践を受講できることを周知する。

（２）ボランティア参加学生の拡大

ボランティアの活動の様子を掲示したり、学生が楽しくやりがいを感じそうな事業を開拓し、ボランティア実践受講者以外の参加も拡大する。

（３）ボランティア先の開拓

情報発信、商品開発や販路開拓への提案など、オフィスワークコースらしいボランティアの開拓を行う。

４．介護福祉コース

（１）日本人学生が増加する予定であり、コロナ禍も収まりつつあるなか、社会貢献の重要性を意識できるようボランティア活動に積極的に参加できる環境を提供していきたい。

（２）サポートができる教員数が、介護福祉コース、介護福祉研究センターともに極少数であるため、効率よく効果的な学びができるよう取り組む。

Ｖ　資料　令和４年度のボランティア活動状況

（１）学内ボランティア

令和4年度のボランティア活動状況

学内ボランティア	子ども	オフィス	介護福祉	合計
６月４日オープンキャンパス	26	12	4	42
７月１０日オープンキャンパス	39	13	5	57
７月２６日オープンキャンパス	5			5
７月２９日オープンキャンパス	2			2
８月６日オープンキャンパス	15	12	1	28
８月２１日オープンキャンパス		11	2	13
１０月オープンキャンパス		4	2	6
１２月１８日オープンキャンパス	1			1
３月オープンキャンパス	10	8	3	21
広報スタッフ	6	4	1	11
たんたんくらぶ	9			9
おやこひろばたかたん	59			59
図書館メイト	6	2	1	9
聖歌隊	9			9
三葉虫ダンス制作	4			4

学外ボランティア	28	169	3	200
子育て応援隊	125			125

合計	344	235	22	合計 601

（２）学外ボランティア一覧

令和4年度 高田短期大学学生ボランティア活動記録（2023年3月31日現在）

No.	月日	主催者	行事名	会場
1	4月2日	全国強制抑留者協会三重県支部	シベリア抑留関係者慰霊祭	津市久居野村町墓地公園
2	5月8日	本学ボランティア部	地位交流／芋の苗植え	津市一志町波瀬
3	5月14日	みどり自由学園	けいわっこカレー食堂	みどり自由学園
4	5月19日	鈴鹿市立庄内小学校	読み聞かせ	鈴鹿市内小学校
5	5月21日	高田会館	サンジノイセイモPR活動	高田会館
6	5月28日	一身田寺内町観光振興懇話会	寺内町清掃活動	高田本山境内
7	6月4日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
8	6月11日	みどり自由学園	けいわっこカレー食堂	みどり自由学園
9	6月25日	菰野町	平和祈念講演会	菰野町町民センター
10	7月2日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
11	7月4日	本学ボランティア部	三重県警察サイバーパトロール	本学２２３教室
12	7月24日	三重県立みえこどもの城	みえこどもの城キッズ☆おしごと広場	三重県立みえこどもの城
13	7月30日	三重県立みえこどもの城	みえこどもの城キッズ☆おしごと広場	三重県立みえこどもの城
14	8月19日	三重県警察本部	サイバー防犯ボランティア研修会	三重県警察本部
15	8月25日	名張市蔵持地区市民センター	くらっこ広場（高短のお姉さんと遊ぼう）	名張市蔵持市民センター
16	9月14日	警察庁	サイバー防犯ボランティア活動発表意見交換会	津市橋北公民館
17	9月21日	鈴鹿市立白子公民館	初心者のためのパソコン教室第１回	高田短期大学
18	9月23日	第８回彼岸花映画祭実行委員会	第８回彼岸花映画祭	三重大学三翠ホール
19	9月23日	一般財団法人全国強制抑留者協会	展示	アスト津ギャラリー
20	9月24日	一般財団法人全国強制抑留者協会	展示・語り継ぐ講演	アスト津ギャラリー＆ホール
21	9月25日	一般財団法人全国強制抑留者協会	展示	
22	10月1日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
23	10月2日	一志町波瀬	芋の収穫	本学ボランティア部
24	11月5日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
25	11月5日	三重県警察本部	三重県警察サイバー防犯イベント	ジャズドリーム長島

26	11月13日	蔵持市民センター	市民センター祭	蔵持子ども園＆市民センター
27	11月20日	津市中央公民館	パソコンボランティア 勉強会運営	中央公民館
28	12月10日	みどり自由学園	けいわっこカレー食堂	みどり自由学園
29	12月17日	三重県立みえこどもの城	みんなあつまれたかたんあそびひろば	三重県立みえこどもの城
30	12月17日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
31	12月18日	湯元榊原館	高短吹奏楽部ほっかほっかライブ	湯元榊原館
32	12月19日	本学ボランティア部	三重県警察サイバー防犯パトロール	本学２２３教室
33	12月25日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
34	12月27日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
35	12月28日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
36	1月7日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
37	1月8日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
38	1月9日	津市健康福祉部	げいのうわんぱーく	津市芸濃庁舎　敷地内
39	1月14日	みどり自由学園	けいわっこカレー食堂	みどり自由学園
40	1月14日	湯元榊原館	本学との協定事業：利用者アンケート	湯元榊原館
41	1月15日	湯元榊原館	本学との協定事業：利用者アンケート	湯元榊原館
42	1月15日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
43	1月21日	三重県立みえこどもの城	みんなあつまれたかたんあそびひろば	三重県立みえこどもの城
44	1月21日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
45	1月21日	湯元榊原館	本学との協定事業：利用者アンケート	湯元榊原館
46	1月30日	本学ボランティア部	学苑果樹園整備	学苑果樹園
47	2月11日	湯元榊原館	本学との協定事業：利用者アンケート	湯元榊原館
48	2月4日	三重県少子化対策課	みんなあつまれたかたんあそびひろば	三重県立みえこどもの城
49	2月12日	湯元榊原館	本学との協定事業：利用者アンケート	湯元榊原館
50	2月15日	鈴鹿市立白子公民館	初心者のためのパソコン教室第２回	高田短期大学
51	2月18日	鈴鹿市立白子公民館	サークル学習発表会：キッズ体験コーナー	鈴鹿市立白子公民館
52	3月4日	鈴鹿市立白子公民館	ボランティア実践講座	鈴鹿市立白子公民館
53	通年	一身田商工振興会	Instagram情報発信	一身田寺内町

ⅩⅧ

ＬＭＳ委員会

年次報告書

委員長　鷲尾　敦

１．昨年までの課題

（１）教員支援

教員が遠隔授業に限らず、ICT を活用した授業を進めるにあたっての支援活動を進める。そのための教育 ICT コースを充実させる。

（２）組織的な運営

今年度作成した書式を活用し、コースの新規設置や履修者の登録等の依頼を教務課で実施できるよう見守り、指導をする。

２．本年度改善されたこと

（１）組織的な運用を図るための事務組織の関与の必要性

教務課で担当者が決まり、manaba の日常のメンテナンスができるようになった。令和 4 年度への年度更新は、従来通り委員長が担当したが、その後、対応ができるよう教務課 2 名への指導を行い、日常的な保守作業ができるようになった。

（２）教員支援

教員への対応のため、manaba 上に設置した「教育 ICT」コースを今年度も運用した。頻度は少ないが、情報教員で必要と思われる新たな事項の説明をコースに掲載したり、開示版の質問対応を行ったりした。

３．新たな課題

manaba が令和 5 年 3 月で終了することなった。学事支援システムとして Acitve Academy Advance（AAA）が導入され、令和 5 年度 4 月からの稼働を目指して準備が進んでいる。この AAA システムのなかに機能は弱いが学習管理やキャリア支援の機能が不随しているということで、従来バラバラになっていた学習管理システム（manaba）やキャリア支援システム（キャンパスネット・キャリアカルテ）、シラバス、出欠管理システムをやめ、AAA システムで運営することとなった。

この AAA の学習管理機能で、どれだけのことができるのか、教員や学生への利用のための指導をどう行うかについては、委員会は未対応である。まずは、導入を決定した教務から非常勤を含む教職員、学生への説明が 3 月から 4 月にかけて、利用に関する説明が行われる予定である。

LMS 委員会が令和 5 年度も存続しており、この AAA のシステムを利用する状況かにおいて、どのような役割を果たすのか、システムの運用がなされる中で、利用状況を確認しながら、この委員会ができること、役割について検討し、場合によっては存続が必要かについても検討する必要がある。

４．次年度取り組むべきこと

AAA 導入後に、LMS 委員会が担うべき役割が何であるか、場合によっては委員会そのものが廃止についても視野に入れて検討していく必要がある。そのために、しばらくは利用状況を教務課と連携して情報収集する必要がある。

ⅩⅨ

事務局

年次報告書

委員長　大橋　一喜

○事務連絡会・意見交換会

毎月 1 回教授会後に全員参加により実施し、教授会報告および各課・センターの次月の行事予定を報告するほか、各自が参加した研修会や学生支援･短大運営等に係る重要事項について発表を行っている。これによりお互いに情報の共有およびスキルアップを図っている。

１．総務課の業務に関して

（１）事務連絡会・意見交換会の実施

・ 毎月１回教授会後に全員参加により実施し、教授会報告および各課・センターの次月の行事予定を報告するほか、各自が参加した研修会や学生支援・短大運営等に係る重要事項について発表を行っている。これによりお互いに情報の共有およびスキルアップを図っている。特に課題等はなく、次年度以降も引き続き内容充実に取り組んでいきたい。

（２） エンロールマネージメントについて

・ エンロールメントマネージメントについてはその内容がアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーの多岐にわたり、他の部署に関わる内容が多いため、今後の課題としては、学生支援のため引き続き各部署と連携を図る必要がある。

（３） 補助金、各種調査、文書に関する業務、規程改廃について

・ 補助金及び助成金については、私立大学等経常費補助金の他に、科研費、県費補助など適切に申請を行ない、処理することができた。平成 30 年度から「私立大学等改革総合支援事業」に採択されない状況が続いていたが、今年度は早期より学内で取り組みを実施し、改革総合支援事業「タイプ３」を採択することができた。
・ 調査依頼に対しては、提出期限内に回答し、また適正に処理することができた次年度も引き続き適正な処理を実施していきたい。
・ 文書の接受・発送及び保管に関しては、文書取扱規程および申し合わせに基づき、管理、処理ができた。
・ 学内規則の制定及び改廃については、策定した原案を教授会へ諮り、承認を得た後、学苑本部へ報告している。

（４）職員の福利厚生及び出張等服務について

・ 教職員の福利厚生については特に問題はなかった。
・ 勤怠管理システムについて、現状の指認証から、IC カードでの出退勤システムと変更されるため、利便性が向上するものと思われる。
・ 出張に関しては、旅費請求システムにより、事務の効率化が図られた。
・ 服務上の願い、届け出等の処理、出張に関する書類上の問題は特になか

ったが、業務がスムーズに行われるためにも、今後とも職員一人ひとりが提出の期限を厳守するよう引き続き促していく必要がある。

（５） 総務課管轄の諸行事について

- 令和4年度はコロナ禍の影響も少なくなってきたため、FD･SD等の行事や各研究センターが開催する講演会等が徐々に開催できるようになってきた。次年度各行事が実施されれば、円滑な運営を実施していきたいと考える。

（６）予算決算及び、会計業務について

- 毎年、2月頃に部署予算のヒアリングを行っている。今年度は特に問題なく実施できた。また、学生数減少傾向のため収入は減少しているが、支出額は年々増加していることから今後一層の内容を精査し、収支の均衡をとる必要がある。
- 承認された部署予算会計業務については、適正な執行に努めた。また、個人研究費についても、規程等に基づき適正に処理した。

（７）備品、施設設備の整備管理について

- 大規模事業については、計画的に整備を進めている。
- 登録・移動・廃棄などの備品管理について、適正な処理に努めている。

（８）個人情報保護等機密について

- 機密文書はシュレッダーや専用の処理サービスを利用するなど漏洩のないよう処分している。なお、情報機器における個人情報保護に関して、FD研修会等を通して、各教職員へ啓蒙している。また、個人情報保護管理委員会に出席し、連携を図り、個人情報の保護に努めている。

（９）非常災害時への対処について

- 防災訓練計画を策定し、避難訓練を実施した。次年度以降も防災意識の高揚に勤めていきたい。なお、防災管理マニュアルも災害に適切に対応できるよう策定した。

(10) 報道・広報について

- 広報については、例年通りパブリシティによる宣伝効果を狙い、各行事等を地元報道関係に記事として取り上げてもらうよう取材依頼をしている。今後とも積極的にPRしていきたい。

２．教務課の業務に関して

1. 昨年までの課題

（１）教務システムを刷新するにあたり、今後のmanabaおよびTKSの取扱いに

ついて調整する必要がある。特にmanabaについてはLMS委員会の所管でもあり、担当教員を交えた意見交換が必要と思われ、意見統一が容易ではない。

（２）次年度は教務課・学生課スタッフの減員が予想されるため、個々人の業務配分に苦心する見込み。

2. 本年度改善されたこと

（１）新型コロナウイルス感染症に伴うイレギュラー対応がレギュラー業務となり、オンライン授業の減少も相まって処理・対応が間に合うようになった。

3. 新たな課題

（１）新システム(ActiveAcademyAdvance)の選定に後れを取ってしまい導入までの時間が足りなかったことから、各員の慣熟が不十分なまま次年度を迎えることとなった。

（２）教務課・学生課スタッフが６名体制となったが、年度途中の減員があり、業務分掌が円滑に機能しなかった。

4. 次年度取り組むべきこと

（１）新型コロナウイルス感染症の扱いが軽くなることから、対面で授業を進行することは容易になると思われるが、オンライン授業への慣れから同方式の多用が懸念される。一定の基準（ガイドライン）を設けるべきか学務委員会等で協議していきたい。

（２）新システム(ActiveAcademyAdvance)による業務の確立。

（３）人為的ミスを減らす。

３．学生課の業務に関して

1. 昨年までの課題

（１）コロナ禍のなかでの学校行事および学生自治会主催イベントを安全に開催すること。また多くの学校行事や学生自治会主催イベントが、中止や縮小となっているため、学生自治会執行委員間でのイベント実施のノウハウ等が継承されていない。

（２）スクールバスの運行状況の改善。特に１限目のバスについては学生の集合時間が遅い時間に集中しがちで、授業開始に間に合わないことがある。

（３）学生の課外活動の活性化。クラブ、サークル活動は以前より強化クラブを除いてそれほど活発ではなかった。

（４）コロナ禍により家庭の経済状況悪化や、アルバイト等を思ったように行えず経済状況が悪化している学生が、留学生を含め増加している。

2. 本年度改善されたこと

（１）学校行事および学生自治会主催イベントについては新型コロナウイルスの影響が若干低減したことともあり、規模や日程を縮小し感染対策を十分に行った上で開催することができた。

（２）スクールバスの運行状況については、早い時間帯のバスに乗車する学生が若干増加したこと、また自家用車通学者の増加等によりバス運行が大きく遅延することは減少した。

3. 新たな課題

（１）アフターコロナ時代を見据えた、新たなスタイルの学校行事や学生自治会主催イベントを構築していく必要がある。

（２）学生の坂上への駐車違反が増加した。今年度は学生数が多かったことや、コロナ禍により自動車通学者が増加したこと等で、第一学生駐車場が満車となることが多かったことが原因であると思われる。

4. 次年度取り組むべきこと

（１）公的な奨学金や補助金等に関する情報について、学生課内で十分理解し、留学生を含めた全学生への周知の徹底を図る。

（２）コロナ禍により学生自治会主催各種イベント実施のノウハウがほとんど継承されていないため、新たなイベントを企画するような感覚で新自治会メンバーと検討する。

（３）学内での駐車違反や日常生活でのマナー等で気になることが多い。学生自治会と共に学生のマナーアップキャンペーンの実施を検討したい。

４．学生課（学生相談室（保健室））の業務に関して

Ⅰ健康管理について

1.学生の定期健康診断

健康診断当日に新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受診できない学生(18 人)が見られた。全員が健康診断や検尿検査を受診できるように、個別に何度も呼びかけた。

今年度は保健室から何度呼びかけても受診しない学生に対して、ゼミナール担当教員からも健康診断を受けるように声をかけてもらったが、健康診断を受けない学生が見られた。来年度も引き続き、健康診断や必要な再検査を受けない学生が受診や再検査に繋がるようなかかわり方を検討していく。

2. 学生の健康管理

健康診断後の保健指導や登校したが発熱や体調不良が見られ来室する学生への対応、応急処置等を実施した。

全面対面授業になり、日々の学校生活の中で心身の持病がある学生への対応に努めた。授業における座席等配慮が必要な学生、頻繁に過呼吸発作をおこし対応が必要な学生や一人で過ごせる環境の提供が必要な学生が例年より多く見られ、継続した支援を実施した。

今年度は、保健担当が不在時に対応が必要な学生への対応方法を紙面にまとめ、教授会および事務連絡会で情報共有を行った。また、搬送用の車椅子等を各階に 1 台ずつ設置した。持病、特に精神面の疾患を抱えた学生も増えている。保健担当だけでは対応困難な学生が増えているため、来年度も引き続き、継続した対応や緊急対応が必要と考えられる学生への対応方法の検討が必要である。

3. 新型コロナウイルス感染症対策の検討および取り組み

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に罹患、または濃厚接触者となった学生への聞き取りから受診の調整、登校や実習等の調整までを継続して実施した。

体調不良を訴えて来室する学生には帰宅や受診を促した。また、陽性者が出た場合には速やかに詳細な行動歴を確認し、学内で濃厚接触者にあたる学生がいる場合には自宅待機をお願いする等、クラスター発生を防ぐための取り組みを続けた。

今後、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の扱いが 2 類相当から 5 類指定感染症に変更になる予定であるが、今後も必要な感染症対策や学生への情報発信を継続していく。

Ⅱ学生支援について

授業における座席等配慮が必要な学生や、今年度は特に頻繁に過呼吸発作をおこし対応が必要な学生や一人で過ごせる環境の提供が必要な学生が見られ、継続した支援を実施した。

また、学生支援委員長やゼミナール担当教員、関係する教職員と常に情報共有や連携に努め、学生への支援を実施した。

来年度は、合理的配慮が必要な学生は学生相談室に繋いでいく。

5． 入試広報課の業務に関して

1 昨年までの課題

(1) 各学科コースでの安定的な定員確保
(2) コロナ禍で対象者が激減した外国人留学生の確保
(3) 近年減少している介護福祉コース日本人学生の確保
(4) 高大教育交流事業の強化
(5) 各高校進路指導部に対する有効な接触手法
(6) 出願につながる有益なオープンキャンパスの実施
(7) 委託訓練受講生の確保

2 本年度改善されたこと

(1) 介護福祉コース日本人学生については、入学金免除を始めとする手厚い修学支援制度や積極的な広報により、入学者を増加させることができた。
(2) 委託訓練について、新たに子ども学科（保育士養成科）でも受講生を募集した。早期から広報活動ができたこともあり、子ども学科（保育士養成科）、介護福祉コース（介護福祉士養成科）とも定員を確保できる見込みとなった。

3 新たな課題

(1) 来年度、県内の高校３年生がさらに減少すること、短大離れの傾向が強まっていることから、定員確保が厳しい状況が予想される。
(2) 高校生が進学先を十分検討することなく、早期に決定する傾向があることから、その対応・対策が求められる。
(3) 進学先を決定するに際して保護者の影響が大きくなっていることから、その対策が求められる。

4 次年度取り組むべきこと

(1) 本学のよさをよりわかりやすく、早期から広報することにより、出願意思を喚起していくことが急務である。具体的には、ガイダンスやオープンキャンパスなどの直接的な接触機会を有効なものとする。
(2) オープンキャンパスにおいて保護者を対象とした説明・相談会を実施、その広報を積極的に行う。
(3) 各高校の進路指導部とのつながりが大切であることから、各回の目的を明確にした計画的な高校訪問を実施する。
(4) コロナ禍で激減した外国人留学生の増加が見込まれることから、県内の日本語学校や専門学校を中心に、県内外の対象校に積極的にアプローチする。

６. キャリア支援センターの業務に関して

（1）昨年度までの課題

1）就職活動の早期化

政府が経済団体等へ示す就職・採用活動に関する要請事項において、2022 年度卒業・修了予定者等への広報活動開始は卒業・修了年度に入る直前の 3 月 1 日以降、採用選考活動開始は卒業・修了年度の 6 月 1 日以降、正式な内定日は 10 月 1 日以降とされているものの、実質的には解禁日よりも前に就職活動は始まっており、インターンシップや OB、OG 訪問が、事実上のエントリーや選考の場になっている問題も指摘されている。就職活動の早期化による学修時間等の確保への影響は、四年制大学よりも短期大学においてはより深刻である。短期大学における学びを保障しつつ、早期に就職活動への意欲を喚起する働きかけの工夫が必要である。

2）公務員試験の早期化

県内でも採用試験を 5 月～6 月に実施する市町が増えてきており、早期実施のスケジュールに間に合うように公務員講座・数学講座等を計画する必要がある。一方で、従来の 9 月第 3 日曜日実施市町の対策として講座終了後の学力維持の工夫も必要になっている。

また、公務員試験対策に対する負担感と、受験から内定に至るまでの期間が長いことによる不安から、受験を諦める学生も増えてきており、モーティベーション維持の工夫が必要になっている。

3）多様化する学生への支援

発達に特性のある学生など、支援を要する学生についての情報共有の必要性は認識されつつあるものの、具体的に支援を進めていくうえでの組織的な対応が十分とは言い難い状況がある。また、支援には保護者との連携が不可欠だが、保護者の理解が得られにくく、支援に支障をきたす場合もある。

一方、両学科とも就職への意欲が見えにくく、就職活動への取組に積極的になれていない学生が目立つ。様々な手段で呼びかけを行ってもキャリア支援センターに来所せず、支援をしようにもできないケースも増えてきている。また、子ども学科においては早期に幼稚園教諭免許、保育士資格の取得を断念し、一般企業への就職を希望する学生や、卒業時には資格が取得できず、科目等履修のために非正規で採用してもらうケースも増えている。

4）コロナ禍における就職活動

コロナ禍初期の混乱は収まりつつあるが、個別の事案においては、陽性者や濃厚接触者で療養、待機を指示された場合の受験機会確保が課題である。また、Web 面接への不安を感じる学生も少なからずいる。

5）編入学試験への対応

四年制大学等への編入学に関しては、指定校推薦等の募集要項を manaba で情報提供するほか、学生本人からの相談に応じるかたちで支援を行っている。学生側の明確な進学意思が確認できてはじめて受験手続を進められるので、受験を決めるまでの面談が重要になる。そのため、ゼミ担当者等との相談を踏まえ、キャリア支

援センターで学生への意思確認を丁寧に行う必要がある。特に、高等学校卒業時のキャリアプランと編入学等を希望するに至った経緯の整合が問われる。

（2）本年度の改善点

1）就職活動早期化への対策

授業に支障がないことを前提に、manaba と掲示により就職フェア等への参加を呼び掛けた。また、キャリアサポーターとオフィスワークコース 1 年生との個人面談時期を早めることにより意識の向上を図るとともに、学科・コースと連携し、就職講座等により早期から計画的な指導、支援に努めた。

2）公務員試験早期化への対策

１年生を対象として、6 月 27 日（月）に子ども学科就職講座で「公務員としての保育職」についてのガイダンス、11 月 21 日（月）に公務員試験（保育教育職）対策ガイダンス、11 月 28 日（月）にクレペリン検査体験会を実施した。

また、２年生を対象として、4 月 11 日（月）に四日市市、5 月 17 日（火）、31 日（火）に松阪市、9 月 26 日（月）に鈴鹿市の対策講座を実施するとともに、その他市町については個別対策を行った。

公務員講座に関しては、2 年間で教養講座を 33 回（1 年生対象に 9 月から 3 月に 21 回、２年生対象に 4 月から 7 月に 12 回実施）、保育専門講座を 12 回（令和３年度入学生の保育専門講座は 1 月に 3 回、3 月に 9 回）実施していたものを、令和４年度入学生は 12 月から 2 月に 8 回、3 月に 4 回実施するよう前倒しした。

講座終了後の学力維持のため、manaba で小テストを配信したが、習慣化には結びついていない。今後、周知に努め習慣化させる工夫が必要である。

新２年の公務員講座受講者が減少しているので、募集期間を延長し、受験を諦めないよう声掛けに努めた。

3）多様化する学生への支援

発達に特性があるなど支援を要する学生の就職活動については、学生支援委員会を中心にした全学的な取組のなかで支援を進めてきた。個別の事案にあっては、三重県自閉症・発達障害支援センターれんげの相談員の協力を得て、適職検査やキャリアカウンセリングを実施することにより、学生の特性に応じた就職先の紹介に努めた。また、就職活動に至る前段階として生活環境を整えるための支援が必要な学生に対して、学苑の SSW の派遣を依頼し、連絡調整を行いながら支援を進めてきた。

4）コロナ禍における就職活動支援

学生自身で対応できるところは学生で対応しつつ、必要に応じてキャリア支援センターから相手先へ連絡と調整を行った。一般企業や私立園などでは採用試験日の柔軟な対応や Web 面接での不測の事態への配慮がなされたものの、新型コロナ感染症の濃厚接触者となったことで公務員試験の受験機会を失った事例があった。募集要項に明記されているとはいえ、優秀な人材を確保するという観点からは何らかの配慮が望まれる。

5）編入学試験への対応

manaba で情報提供を行うとともに、募集要項が届いたところについては一覧表

にしてキャリア支援センター内に掲示し、学生が資料を閲覧できるようにしてきた。ゼミ担当との相談が十分になされ、明確な進学意思をもって受験を希望してきた学生に関しては、その後の支援もスムーズに進み、合格に繋げることができた。

（3）新たな課題

1）就職活動の早期化

経済産業省、文部科学省及び厚生労働省が「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」を改正し、2024 年度卒業生・修了生から一定の要件を満たしたインターンシップについて、取得した学生情報を広報活動・採用選考活動に活用することが可能となる。短期大学にとっては、四年制大学との就職活動開始時期の差が更に開くことが懸念される。

2）公務員試験の早期化に伴う課題

今年度は、四日市市が職員採用試験（1 次試験）を 9 月から 6 月に変更した一方で、津市は 6 月から 9 月に戻した。今年度、早期実施した自治体は桑名市、川越町（8 月）、四日市市、亀山市（前期）、松阪市、多気町（前期）、明和町、伊賀市、熊野市となった。なお、亀山市と多気町は 9 月に後期試験を実施している。

早期実施の市町の中には、9 月試験を前に内定を辞退しない旨の誓約書を求めるところがあり、早期実施のスケジュールに合わせた早期対応に加え、学生に対して志望順位を踏まえた受験方針を立てるよう指導・助言が必要になってきている。

また、公務員志望の学生が早くから準備を始め、最後まで諦めることなく粘り強く取り組むことができるよう、Web での小テストの配信を継続してモーティベーションを維持する工夫に努めるとともに、支え合う仲間づくりの機会を増やす必要がある。

3）学生の職業観の変化と多様化する学生への支援

従来、一般企業で人気が高かった金融機関、カーディーラーなどの希望者が減少傾向にあり、学校事務や警察事務などを中心とした公務員希望がやや増加傾向にある。事務系の公務員対策の充実が必要である。

また、子ども学科においては、認定子ども園化が進むなか、幼稚園教諭免許、保育士資格の一方が取得できないために就職先・就業形態が制限されるケースが出てきている。さらに、保育職への適性に自信が持てずに一般企業への就職を希望する学生も早期から相談に来るようになっている。キャリア支援センター内の分担と連携の工夫が必要である。

発達に特性があるなど支援を要する学生の就職活動については、課題の早期発見・早期対応が必要であることから、学生一人ひとりを多面的に観察すること、学生支援委員会を中心に情報共有にとどまらず、教職協働により具体的な支援を行うことが求められる。また、早期から保護者の理解や協力を仰ぐことも必要である。さらに就職後、困難を抱えたり、離職したりすることも考えられることから、在学中に学生と専門機関とをつなぐことも模索する必要がある。

就職活動への意欲に欠ける学生については、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援が必要である。キャリア支援センターへの来所が期待できないことから、キャリア支援委員やゼミ担当教員との連携が不可欠である。

4）コロナ禍における就職活動支援

新型コロナ感染症の濃厚接触者となったことで公務員試験の受験機会を失った事例があり、該当市町には配慮の要望を伝えたが、次年度以降の動向を注視する必要がある。

コロナ禍において集団活動の機会が減ったことから、学生のコミュニケーション力への影響が懸念される。組織で働くことへの不安から安易な選択に流されないような指導が必要である。

5）編入学試験への対応

本年度、四年制大学への２年次編入希望があり、合格が実現した。学生からの希望に応じて対応する方針は維持するが、多様な選択に応えられるよう、情報収集に努める必要がある。

（4）次年度の取組

1）就職活動早期化への対策

インターンシップの扱いに関して、三重県学生就職連絡協議会等を通して情報収集に努め、学科・コースと連携して、就職講座等による早期からの計画的な指導、支援を行う。

2）公務員試験早期化への対策

公務員試験に関して、受験報告の回収を徹底し、受験対策の情報を充実させるとともに、市町の担当課と連絡を密にして実施時期を把握し、計画的に支援を行う。

公務員志望者を対象としたガイダンスや市町別のガイダンスを11月に実施するほか、個別面談により各学生の希望を把握し、試験対策への不安を取り除けるような指導を行っていく。また、同一市町の受験者を集め、切磋琢磨して受験に臨める仲間づくりを推進する。さらに、Web での小テストを継続、充実させることで、9月試験までのモーティベーション維持に努める。

3）学生の職業観の変化と多様化する学生への対応

キャリア支援委員会に向けての学科・コース別事前ミーティングにおいて、発達に特性があるなど支援を要する学生については、特に時間をかけて対応方針を確認するとともに、学生支援委員会との連携を深める。保護者の理解や協力が必要な学生に関しては、ゼミ担当者と協力して対応する。さらに発達に特性のある学生を在学中に専門機関とつなぐことにも注力していきたい。

就職活動への意欲に欠ける学生については、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援を行う。キャリア支援委員やゼミ担当教員により一層の協力を求め、キャリア支援センターへの来所を促していきたい。

4）コロナ禍における就職活動支援

新型コロナ感染症の感染症法上の扱いが変わることから、コロナ禍以前の状況に戻ることが期待できるが、受験機会の確保について学生の不利にならないよう要望を伝えていく。

コロナ禍において集団活動の機会が減ったことに対して、個別対応を柱としながら、集団活動の機会を設け、学生のコミュニケーション力向上に努めるととも

に、互いに切磋琢磨する機運を醸成する。

5）編入学試験への対応

編入学に関する情報を Web システム等を活用して発信するとともに、編入学先のアドミッション・ポリシーを踏まえた個別指導を進める。